

2023 年度（令和 5 年度）
教育・研究業績書

奈良学園大学

教 育 研 究 業 績 書

令和 6年 3月 31日

氏名 阪元 勇輝

研 究 分 野		研究内容のキーワード
環境学、プロセス工学		環境影響評価・環境政策、環境技術・環境材料、化学物質影響科学、反応工学・プロセスシステム、エネルギー学
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
マルチメディア機器を利用した講義等	平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育において、学生に対して、より環境問題や関連する実験等の重要性の理解を深めるため、視覚効果（画像・映像）を利用して、学習効果を高めた。摘要科目としては、「生活と環境」、「環境科学」や「実験で学ぶ科学」、他において、DVD 映像や PC 上での食物連鎖のシミュレーション等。
2 作成した教科書，教材		
1) 環境関連講義用教科書	平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育および他大学において、環境関連の講義用教科書を作成した。環境関連の教科書は一般的に専門性が高いため、より平易な教科書を各関係テーマに応じて作成し、学習効果を高めた。摘要科目：環境科学、環境論、環境政策論、地域環境論、他
2) 環境関連講義用補助教材	平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育および他大学において、環境関連の補助教材を作成した。特に環境問題に関して、視覚効果（環境破壊の画像・ビデオ等）を利用し、より学習効果を高めるための補助教材を作成し、学習効果を高めた。摘要科目：環境科学、環境論、生活と環境、他
3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価		
特記事項無し		
4 実務家教員についての特記事項		
1) 事業者、団体および地方行政職員・議員に対する環境関連のセミナーおよび講演	平成 11 年 4 月 ～現在に至る	多くの環境関連のセミナーおよび講演を行っている。詳細は、(公的招待講演会・セミナー発表等)を参照。
2) 関西大学客員研究員（先端科学技術推進機構）	平成 12 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	客員研究員として左記大学において、学生の卒業研究および修士研究の研究指導・補助に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格，免許		
1) 工学修士	昭和 59 年 3 月 31 日 授与	固体系アンモニア化物を用いた蓄熱装置に関して、それらの反応特性および熱力学的物性に関して纏めた。
2) エネルギー管理士（経済産業省）	平成 6 年 5 月	エネルギーシステム全てにおいて管理が可能あることを認められている。
3) 環境カウンセラー：事業者・市民両部門（環境省）	平成 11 年 4 月	環境全般に関して、事業者および市民に対してカウンセリング可能あることを認められている。

4) 国際環境アドバイザー（経済産業省）	平成 11 年 10 月	国際的に環境に関するアドバイスが可能であることを認められている。
5) 新エネルギー有識者（NEDO:新エネルギー・産業技術総合開発機構）	平成 12 年 3 月	新エネルギーに関する知見を有していることを公式的に認められている。
6) 博士（工学）	平成 12 年 9 月 21 日 授与	ライフサイクルアナリシスによる省エネルギーおよび炭酸ガス削減技術の評価に関して論文として纏めた。
7) 環境マネジメントシステム・エコアクション 21（EA21）審査人（環境省）	平成 16 年 4 月	環境省の環境マネジメントシステム EA21 の審査することが環境省より公式的に認められている。
8) 環境社会検定（eco 検定）（東京商工会議所）	平成 19 年 12 月	様々な環境問題に関して幅広い知識を有していることを認定されている。
他、多数）危険物取扱者（甲種）、毒物劇物取扱責任者、他		左記のように多様な環境関連の資格を有している。
2 特許等		
磁気記録媒体に関する特許複数出願・所有	平成 2 年～	阪元 勇輝（筆頭）、他：現在存続期限終了
3 実務家教員についての特記事項		
1) 日立マクセル株式会社（現マクセル） 研究開発部	昭和 59 年 4 月～平成 9 年 3 月	主として、磁気メディアの研究開発に従事し、高密度磁気記録媒体としてデジタルオーディオおよびビデオテープの研究開発を行った。（主任研究員）
2) ・財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）：地球環境システム研究室 LCA 研究員、化学的 CO2 固定化プロジェクト研究員、生分解性プラスチックプロジェクト研究員等 兼務 ・通商産業省「地球環境産業技術開発」招聘プロジェクト研究員 兼務	平成 7 年 9 月～平成 11 年 12 月	通産省の環境プロジェクトに招聘研究員として参加し、主として、複数の国家プロジェクトの環境保全技術の研究開発およびその技術評価に従事し、ライフサイクルアセスメント（LCA）による評価手法の開発やそれらを用いた環境技術の評価を行った。
3) 関西大学 先端科学技術推進機構 客員研究員	平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	客員研究員として自らの環境に関する研究を行うとともに卒業研究および修士研究に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
4) 奈良県庁 技術アドバイザー	平成 12 年 12 月～平成 24 年 3 月	奈良県商工労働部の技術アドバイザーとして奈良県内の企業に対して、新しい技術の導入の推進を目的にアドバイスを行った。
5) 大阪市役所（財）大阪市産業創造館 環境プロジェクト アドバイザー	平成 13 年 2 月～平成 16 年 3 月	大阪市内において、環境保全を推進するとともに新しく環境ビジネスを創業するあるいは現在の環境ビジネスをさらに発展させる企業に対してのアドバイスや評価を行った。
6) NPO 法人奈良県環境カウンセラー協会 理事	平成 13 年 3 月～現在に至る	環境省環境カウンセラーの奈良県の協会を設立し、設立時より理事として現在まで運営に従事している。
7) 奈良県庁 環境アドバイザー	平成 13 年 3 月～現在に至る	奈良県環境政策課の環境アドバイザーとして奈良県内の企業に対して環境保全技術、省エネルギー技術および新エネルギー技術の指導を行っている。
8)（社）省エネルギーセンター エネルギー使用合理化専門員	平成 15 年 10 月～現在に至る	様々な規模および業種の企業に対して、省エネルギーを推進するために評価および指導を行っている。
9)（社）産業環境管理協会（現（一社）サステナブル経営推進機構）エコリーフ環境ラベル制度 検証評価委員	平成 18 年 4 月～平成 24 年 4 月	国際規格にも準拠している日本のタイプ III 環境ラベル制度であり、当該制度において、事業者の環境ラベルを第三者の評価委員として認定を行っている。

10) 経済産業省（他３省合同：環境省、農林水産省および国土交通省）カーボンフットプリント試行制度評価パネル委員	平成 21 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	4 省合同の国家プロジェクトである我が国の CO2 削減プロジェクトの検証制度の評価員として制度の枠組みおよび評価基準の策定に努めた。
11) 奈良県庁 節電協議会委員	平成 23 年 7 月 ～現在に至る	奈良県全体の節電を推進するために学識経験者として県の節電政策の策定や普及に努めている。
13) 奈良県庁 エネルギー利活用研究会委員	平成 23 年 12 月 ～現在に至る	奈良県のエネルギー利活用を目的とし、学識経験者として、特に再生可能エネルギー導入の推進策を研究し策定に努めている。
14) (社) 産業環境管理協会（現（一社）サステナブル経営推進機構）環境ラベルプログラム制度 評価委員	平成 24 年 4 月 ～現在に至る	国家プロジェクト制度が終了し、制度が民間移行となるに伴い当該制度の評価委員として制度の策定および検証評価委員を務めている。
15) 奈良県庁 奈良県事業者向けエコ経営促進モデル事業 評価委員	平成 24 年 4 月 ～平成 27 年 3 月	奈良県の事業者を対象に、電力供給不足による事業継続リスクを回避するための先駆的な省エネ設備のモデル的な導入の応募者に対し、その導入事業の先駆性や効果の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
16) 奈良県庁 エネルギービジョン推進協議会 委員	平成 25 年 8 月 ～現在に至る	奈良県のエネルギー政策に関する方向性、計画策定およびその成果の評価を目的とし、学識経験者として、奈良県全体のエネルギー政策の推進に努めている。
17) 奈良県庁 エネルギービジョン策定委員会 委員	平成 26 年 4 月 ～現在に至る	奈良県のエネルギービジョンの策定を目的とし、学識経験者として、奈良県全体のエネルギービジョンの策定に努めている。
18) 環境省 再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金 選考委員	平成 26 年 9 月 ～平成 29 年 3 月	環境省の左記事業において、奈良県内の地方行政（市町村）を対象とした災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムの導入し環境先進地域（エコタウン）を構築する事業に対して、各市町村から提案された構築事業に関して、その事業の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
19) 奈良県庁 環境審議会委員：環境総合計画策定委員	平成 27 年 4 月 ～現在に至る	奈良県の環境保全および保護を目的とし、環境学識経験者として、奈良県の環境基本計画の策定において特にエネルギー政策の策定に努めている。
20) 奈良県庁 奈良県再生可能エネルギー アドバイザー	平成 28 年 4 月 ～現在に至る	奈良県の再生可能エネルギー導入推進を目的とし、奈良県下の地方行政、市民および事業者に対して、再生可能エネルギーに関する導入可能性、採算性および導入方法についてアドバイスを行っている。
21) 三郷町 三郷町まちづくり総合戦略策定有識者会議 委員	平成 27 年 10 月 ～平成 28 年 3 月	三郷町のまちづくり総合戦略策定にあたり、今後の 5 ヶ年の目標と具体的な施策に関して、有識者として、三郷町の環境・エネルギー政策の策定に努めた。
22) 経済産業省 「地域中核企業創出・支援事業」審査委員会 委員	平成28年4月～ 平成29年3月	経済産業省の左記事業において、近畿地方にて環境およびエネルギービジネスの中核となる企業から提案された事業に関して、その事業の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
23) 奈良県庁 「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会 委員	平成28年12月 ～現在に至る	奈良ならではの美しい景観や持続可能な社会を構築することを目的として、学識経験者として、奈良県全体の環境に関する実践活動を誘発・促進するための計画策定の推進に努めている。

24) 関西広域連合会 環境・エネルギー分科会 委員		平成29年9月～令和5年8月	当該連合会の環境・エネルギー分科会において、奈良県代表委員として関西広域および奈良県の環境政策およびエネルギー政策に関しての方向性や計画の策定に従事する予定。	
1) 競争的資金獲得状況				
1. 経済産業省所管 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 「奈良県立医科大学新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギー面的利用構想」		平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月	奈良県庁、富士通総研、関西電力との共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県橿原市にある奈良県立医科大学の新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギーの面的利用構想を推進し、その事業性検討を行う。 獲得予算：5,111,231 円	
2. 経済産業省所管 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 「県と市町村の連携によるエネルギー版「奈良モデル」構想事業」		平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月	奈良県庁、大阪ガスとの共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県庁周辺の世界遺産地域における再生可能エネルギーの導入も含めたエネルギーインフラのあり方および県下市町村のエネルギーマネジメントとの連携を推進し、その事業性検討を行う。 獲得予算：9,978,300 円	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
-				
(学術論文)				
1. Performance of Thermal Energy Storage Unit Using Solid Ammoniated Salt (CaCl2-NH3 System) (peer 査読付)(筆頭論文)	共 著 (第 1 著者)	平成 26 年 5 月	Natural Resources, Vol.5, pp.337-342	水素キャリアーであり、かつエネルギー貯蔵システムである CaCl2-NH3 System を用いたエネルギーシステムに関して、プロトタイプの蓄熱装置を試作し、また熱媒体を利用した際の反応特性に関する研究を行った。その結果、熱媒体を利用すると反応特性が向上することが明らかとなり、また熱媒体の重量別の効果が明らかとなった。 本人担当部分：蓄熱装置のプロトタイプの設計から実験までかつ全文記述を行った。 共著者：Y.Sakamoto and H.Yamamoto
2. Measurement of Thermophysical Property of Energy Storage System (CaCl2・NH3 System) (査読付)(筆頭論文)	共 著 (第 1 著者)	平成 26 年 8 月	Natural Resources, Vol.5, pp.687-697	水素キャリアーであり、かつエネルギー貯蔵システムである CaCl2-NH3 System を用いたエネルギーシステムに関して、このシステムの熱力学的物性値（熱伝導度、熱拡散係数および熱容量）を測定するために任意加熱法を用いた耐圧・耐腐食性測定装置を設計・開発し、その評価を行った。その結果、測定装置として実用化できることが明らかとなり、上記の熱力学的物性値を測定でき、測定（実用）温度範囲内において熱伝導度および熱拡散係数は、ほぼ一定であることが明らかとなった。 本人担当部分：耐圧・耐腐食性測定装置を設計・開発から測定までかつ全文記述を行った。 共著者：Y.Sakamoto and H.Yamamoto

3. Carbon Footprint of Essential Oil from Forest Thinning Residue (査読付)	単 著	平成 27 年 11 月	The Twelfth International Conference on Ecomaterials (ICEM12), D005, (5 pages)	バイオマス資源の有効利用システムとして、間伐材用から抽出された有用成分であるエッセンシャルオイル（アロマティック、防臭および防虫効果）のカーボンフットプリントを推算した。その結果、その環境負荷として CO2 排出量は、エッセンシャルオイル抽出プロセスが最も大きく、次いでオイルの輸送・販売プロセス、間伐材の収集・運搬プロセスの順に大きいことが明らかとなった。
4. Sustainable Urban Energy Planning of a Local City in Japan (査読付)	単 著	平成 29 年 11 月	The Thirteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM13), P-GP-01, (6 pages)	ある地方都市の医科大学の移転に伴い、その都市の再開発計画の一環として、再生可能エネルギーや未利用エネルギーを利用したまちづくりの可能性を検討した。その結果、新医科大学には、太陽光発電の導入および帯水層の地下水が利用できることが明らかとなり、また、高齢者向け住宅には、ソーラーヒーティングシステムおよび下水熱が利用できることが明らかとなり、これらのエネルギーは、地域にも供給でき、新しいまちづくりの基本設計を提案できた。
5. Area Energy Management System of a Local Government in Japan (査読付)	単 著	令和 5 年 11 月	The Fifteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM15), pp.20-27	ある地方都市の行政組織エリアにおいて、そのエリア全体の分散型エネルギーの導入しエネルギーマネジメントを行い、かつ災害避難所としての機能を有することを目的とし、そのエリア全体のエネルギーマネジメントシステムおよび災害避難所としての機能を有するエリアのシステムの検討を行った。その結果、自立分散型のコジェネレーションシステムや再生可能エネルギーを導入し、そのエリア全体のエネルギー利用の最適を行うことにより、地球温暖化防止のため CO2 削減が可能であり、また、災害対策本部および災害避難所としての機能を果たすことが可能であることが明らかとなった。
(以上、研究論文)				

(国際学会)				
1. Carbon Footprint of Essential Oil from Forest Thinning Residue - Biomass Utilization System for Forest Thinning Residue -	単	平成 27 年 11 月	Proceeding of Twelfth International Conference on Ecomaterials (ICEM12),Nov.8-12, Tainan, Taiwan	バイオマス資源の有効利用システムとして、間伐材用から抽出された有用成分であるエッセンシャルオイル（アロマティック、防臭および防虫効果）のカーボンフットプリントを推算した。その結果、その環境負荷として CO2 排出量は、エッセンシャルオイル抽出プロセスが最も大きく、次いでオイルの輸送・販売プロセス、間伐材の収集・運搬プロセスの順に大きいことが明らかとなった。
2. Sustainable Urban Energy Planning of a Local City in Japan	単	平成 29 年 11 月	Proceeding of Thirteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM13),Nov.19-23, Bangkok, Thailand	ある地方都市の医科大学の移転に伴い、その都市の再開発計画の一環として、再生可能エネルギーや未利用エネルギーを利用したまちづくりの可能性を検討した。その結果、新医科大学には、太陽光発電の導入および帯水層の地下水が利用できることが明らかとなり、また、高齢者向け住宅には、ソーラーヒーティングシステムおよび下水熱が利用できることが明らかとなり、これらのエネルギーは、地域にも供給でき、新しいまちづくりの基本設計を提案できた。
3. Area Energy Management System of a Local Government in Japan (以上、国際学会)	単	令和 5 年 11 月	Proceeding of Fifteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM15),Nov.26-30, Iki, Japan	ある地方都市の行政組織エリアにおいて、そのエリア全体の分散型エネルギーの導入しエネルギーマネジメントを行い、かつ災害避難所としての機能を有することを目的とし、そのエリア全体のエネルギーマネジメントシステムおよび災害避難所としての機能を有するエリアのシステムの検討を行った。その結果、自立分散型のコジェネレーションシステムや再生可能エネルギーを導入し、そのエリア全体のエネルギー利用の最適を行うことにより、地球温暖化防止のため CO2 削減が可能であり、また、災害対策本部および災害避難所としての機能を果たすことが可能であることが明らかとなった。
(公的研究報告書)				
1. 奈良県立医科大学新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギー面的利用構想	共 著	平成28年2月	一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 成果報告書, pp. 133, (2016)	奈良県庁、富士通総研、関西電力との共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県橿原市にある奈良県立医科大学の新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギーの面的利用構想を検討した。その結果、太陽光発電、太陽熱利用、下水熱が利用できることが明らかとなった。
2. 県と市町村の連携によるエネルギー版「奈良モデル」構想事業	共 著	平成28年2月	一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 成果報告書, pp.125, (2016)	奈良県庁、大阪ガスとの共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県庁周辺の世界遺産地域における再生可能エネルギーの導入も含めたエネルギーインフラのあり方および県下市町村のエネルギーマネジメントとの連携の可能性を検討した。その結果、廃棄物焼却炉を新設する計画に伴い、廃棄物発電が可能であり、また発電した電力を売電することが可能であり、余った熱を近隣の農家に供給することも可能であることが明らかとなった。

3. 三郷町 まちづくり 総合戦略	共 著	平成28年3月	三郷町 まちづくり総合戦略策定委員会 報告書, pp. 50, (2016)	三郷町の産業振興（施設見学による新たな観光資源）や雇用創出（自治体PPS）としての観点から、再生可能エネルギーによる「エネルギーの地産地消」を目的とし検討を行った。その結果、町独自の再生可能エネルギーの導入についての検討を行うこととし、その導入可能性調査を計画することを提案し、現在その計画が進行中である。
(以上、公的報告書)				

(公的招待講演会・セミナー発表等)				
1. 「夏季の省エネルギー対策について」 - 事業所における節電対策 -	単	平成 27 年 7 月	奈良県中小企業団体中央会 , 春日ホテル, 奈良市, (7 月 29 日)	様々な事業所の省エネルギーに関して、直近の温室効果ガス排出量の増加にともない、我が国の政策として今後の温室効果ガス排出量削減の対策として、我が国の電源構成の目標が定められ、その目標に対して様々な事業所で特に夏季の省エネルギーとして節電を行うことが早急な課題とされ、その取り組みとして、効果的な節電の方法に関して解説した。
2. 「奈良市の事業系廃棄物について」	単	平成 28 年 3 月	奈良市役所主催, 平成 27 年度事業者 3R 講習会 , 奈良市役所 中央棟 6 階, 奈良市, (3 月 16 日)	奈良市の事業系一般廃棄物に関して、奈良市は大きな削減目標を設定し推進しているが、削減が困難な状況にある廃棄物もある。多くの事業者に対して、奈良市の削減推進政策を認識してもらうとともに削減困難な廃棄物に対する削減方法に関して、その対策として、奈良市の施策の推進策の内容および具体的な削減方法について解説した。
3. 市民のための省エネ・節電セミナー「電力自由化制度について」 - その制度の概要 -	単	平成 28 年 6 月	市民節電所ネットワーク主催, 奈良市ボランティアインフォメーションセンター会議室 1-1, 奈良市, (6 月 11 日)	太陽光発電等を導入し、市民発電所を営んでいる組織や個人の方に対して、本年 4 月からエネルギー自由化として電力自由化制度が始まり、その具体的な制度について解説した。特に新規電力ビジネスに参入した新電力会社の状況や契約時の注意事項等について、Q&A を交えて解説した。
4. 「夏の省エネ・節電対策」	単	平成 28 年 7 月	奈良県中小企業団体中央会 , 春日ホテル, 奈良市, (7 月 8 日)	本年 4 月からエネルギー自由化の第一弾として、電力自由化を迎え、事業所（企業）の夏季における省エネルギーに関して、特に今まで見落とされていたような節電方法について、その省エネルギーの方法や具体的な事例、また、新電力を含む電力会社の効果的な選択方法を解説した。
5. バイオマスの有効利用方法について	単	平成28年8月	奈良県 再生可能エネルギー アドバイザー事業, 宇陀市, (8月 30日)	奈良県中部の酪農地域の酪農家に対して、現在は主として廃棄されている家畜糞尿を有効利用するために、堆肥化処理、バイオマス燃料処理およびその燃料による発電の可能性について、各地の実例を解説するとともに、各処理の採算性について解説した。
6. 「電力・ガス自由化制度の概要」 - エネルギーシステムの一体改革 -	単	平成29年2月	奈良県環境県民フィラム, 奈良県文化会館 第1会議室, 奈良市, (2月23日)	本年4月よりエネルギー自由化として昨年の電力自由化に続きガス自由化制度が始まる、その具体的な制度について電力自由化制度との比較を解説した。特にガス自由化に新規に参入するガス会社の状況や契約（電力とガスのセット等の考え方）のメリット・デメリットや注意事項等について解説した。

7. 「まちづくりとSDGs」	単	令和元年5月	NPO法人 奈良環境 カウンセラー協会主 催, 公開講座, なら環 境市民大学, 舟橋フ ロムワン, 奈良市, (5月26日)	我が国では地方創成と言う取り組みが推 進されているが、地方都市・市町村レベル では、まちづくりに対するその具体的な取 組みの状況が明確ではない。他方、国連 では、現在SDGsが提唱され、我が国でもそ の独自の取り組みが推進されている。本公 演では、環境問題やエネルギー問題の観点 から、SDGsを概説し、また我が国のSDGsの 政策を基に、まちづくりと言う観点から解 説した。
8. 「中小企業向け省エネ対 策」 - 事業所における省エ ネ・節電 -	単	令和4年8月	奈良県庁主催, 令和4 年度, 奈良県庁省エ ネセミナー, WEB開 催	世界および我が国において、地球温暖化 防止に向けた対策が急務となっている。ま た、我が国の化石燃料の調達や電力供給の 問題が喫緊の課題であり、特に中小企業事 業者に対する省エネや節電を推進するため に、様々な具体的事例について解説した。
9. 「地球温暖化とCOOL CHOICE」 - 「脱炭素につ ながる 新しい豊かな暮らし を創る国民運動」 - (以上、公的招待講演会・ セミナー発表等)	単	令和5年2月	王子町主催, 令和4年 度, 地球温暖化対策 地方公共団体実行計 画策定事業, 王子町 役場	我が国の地方行政において、地球温暖化 防止実行計画の策定が義務化され、その策 定が急務となっている。王寺町でもその計 画を策定する必要がある、また、その地方 行政に応じた計画を策定するために、王寺 町に応じた地球温暖化防止策やそれらの 効果について解説した。

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 4 月 31 日
氏名 小池 伝一 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
小児看護学・家族看護学・災害看護学	子ども・家族・健康・健康障害・看護援助・災害	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
太成学院大学 小児看護学概論にて第 1～15 回の講義	2021. 9～ 2021. 12	小児看護学概論において小児看護の役割から学校保健まで講義を実施した。
太成学院大学 小児看護学援助論にて第 1～24 回の講義	2020. 4～ 2020. 7	小児看護学援助論の総論から災害を受ける子どもと家族の看護の講義を実施した。
太成学院大学 小児看護学実践実習 実習指導	2020. 9～ 2021. 2	小児看護学実践実習にて、学部 3 年生を対象に、健康障害をもつ子どもと家族の看護について、実習指導をおこなった。
北海道科学大学 小児看護学援助論	2015. 10～ 2016. 7	小児看護学援助論第 10 回災害を受けた子どもと家族の援助
北海道科学大学 小児看護学援助技術論演習講義	2016. 4～ 2016. 8	小児看護学援助技術論演習第 1 回総論から第 30 回バイタルサイン演習までの講義・演習を実施した。
自治医科大学 生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）の演習	2016. 10～ 2017. 2	生涯発達看護学概論Ⅱ第 6 回講義「乳幼児期の食行動」において、子どもの食行動の発達、離乳食についての演習を実施した。
自治医科大学 小児実践看護学Ⅱの演習	2016. 10～ 2017. 2	小児実践看護学Ⅱ第 10 回「バイタルサインズの測定」において、体温測定・心拍測定・呼吸測定・血圧測定の演習を実施した。
北海道科学大学 小児看護学実習 実習指導	2016. 9～ 2017. 2	小児看護学実習にて、学部 3 年生を対象に、健康障害を持つ子ども、健康な子どもを対象に、子どもと家族の看護実践の指導をおこなった。
昭和大学 小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・小児看護学概論Ⅱ講義	2012. 6～ 2014. 3	小児看護学方法論Ⅰ第 1 回から第 15 回まで、小児看護学方法論第 8 回「障害を持つ子どもと家族の看護」、小児看護学概論Ⅱ「乳児の成長発達と看護」から「家庭での事故における特徴と看護」までの講義を実施した。
2 作成した教科書、教材		
太成学院大学 小児看護学概論 第 1～15 回の講義資料作成	2021. 9～ 2021. 12	小児看護学概論第 1 回から第 15 回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
太成学院大学 小児看護学援助論 第 1～24 回の講義資料作成	2020. 4 ～ 2020. 7. 28	小児看護学援助論第 1 回から第 24 回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
北海道科学大学 小児看護学援助論・小児看護学援助技術論演習の講義資料作成	2015. 10～ 2016. 7	小児看護学援助技術論演習第 1 回から第 30 回までの講義資料・演習資料を作成した。
昭和大学 小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・小児看護学概	2012. 6～	小児看護学方法論Ⅰ第 1 回から第 15 回・小児看

論Ⅱ講義・演習資料の作成			2014. 3	護学方法論Ⅱ第 10 回「障害をもつ子どもと家族の看護」・小児看護学概論「乳児、幼児、学童・思春期の子どもの発達」講義資料を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
昭和大学による講師認定			2012. 4. 1	大学院保健医療研究科講師兼任
文部科学省による講師認定			2016. 4. 1	北海道科学大学 保健医療学部 看護学科
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
看護師長			2019. 2 ～ 2020. 3	博慈会記念総合病院小児センター
実習指導者委員会 委員長			2019. 4 ～ 2020. 3	博慈会記念総合病院
昭和大学 教育委員会			2012. 4～ 2014. 3	
北海道科学大学 実習委員会 副委員長			2014. 4～ 2017. 3	
太成学院大学 国家試験対策委員会 国家試験対策担当主担			2021. 4～ 現在	
5 その他				
臨床研究指導			2009. 6～ 2020. 3	横浜労災病院・国立病院機構広島西医療センター・博慈会記念総合病院における看護研究指導
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項			年月日	概 要
1 資格, 免許				
看護師免許			1997. 4. 26	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
新生児蘇生法一次インストラクター			2011. 12～	日本周産期・新生児医学会
介護職員によるたんの吸引等実施のための指導者講習 指導者(不特定多数の者対象)			2013. 10～	厚生労働省
介護職員によるたんの吸引等実施のための指導者講習 指導者(特定の者対象)			2013. 11～	厚生労働省
DENVERⅡ 発達判定法 判定員			2013. 6～	日本小児保健協会
ピアカウンセラー養成者養成 インストラクター			2014. 11～	日本家族計画協会
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
2				

(学術論文)				
1. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の育児支援ニーズ（査読付）	共著	2016 年 10 月	北海道科学大学紀要	「積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の QOL と育児状況に関する実態調査」を実施した質問紙は、461 部配布し、450 部回収し（回収率 97.6%）有効回答は 420 部（有効回答率 91.1%）であった。そのうち自由記載欄への回答がされている 80 名を本研究の分析対象者とした。対象者 80 名の属性については、単純集計を行った。自由記載欄に書かれた文章は、積雪寒冷期に回答した内容であることから、積雪寒冷期に感じていることとして扱った。記載されている内容のうち、「育児に関して困っていること」と、「希望する育児支援内容」について表されているものを、それぞれ文脈単位で抽出し、コード化した。続いて、類似した内容をサブカテゴリー（以下〔 〕で示す）、カテゴリー（以下【 】で示す）へと集約した。小児看護学、母性看護学教員が中心となり、子育てを行う親や家族のストレス解消、QualityofLife(以下 QOL と記述)の向上、児童虐待の防止を目標とし、「HUS 子育て支援カフェ」を立ち上げ、育児支援プログラムを実施した。これまで実施した内容と参加者へのアンケートの結果を報告した。共著者: 笹尾あゆみ, 山本八千代, 前田尚美, 草野知美, 伊織光恵, 市川正人, 小池伝一, 須藤 桃代, 関口史絵, 福原朗子, 三田村保 小池担当: データ分析、考察、論文執筆の助言をおこなった。査読有
2. 北海道科学大学が提供する地域子育て支援活動（査読付き）	共著	2016 年 10 月	北海道科学大学紀要	目的：小児看護学・母性看護学教員が中心となり、子育てをおこなう親・家族のストレス解消、QOL の向上、自動虐待防止を目標に、社会貢献事業を展開した結果について報告することである。 結果：プログラム参加者は 270 名で、養育者 124 名、子ども 146

				名であった。プログラム参加者の90%が地域貢献事業に満足していた。 寒冷積雪期の生活状況は厳しく、子育て支援ニーズは高いと言えるため、親の孤立感、ストレスであるが、今後も継続し、寒冷地域の自然環境、住環境を踏まえたプログラムを提供する必要がある。
3. 乳幼児を養育する母親のQOLと影響要因 (査読付)	共著	2016年10月	母性衛生	目的：乳幼児を養育する母親のQOL得点とQOLへの影響要因を明らかにすることを目的とした。 方法：6歳未満の子どもを養育する母親375名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。QOL測定尺度は、WHOが作成したWHOQOL26（日本語版）を用い、QOL平均点を基準として高群・低群に分け、影響要因の群間比較を行った。 結果：母親のQOL得点に有意に影響している要因は、世帯年収居住状況、夫の育児協力及び精神的サポート等の物的・人的環境であった。また、育児に費やす時間の長さは、母親のQOL得点に有意な影響は見られず、自分自身の時間を持つ、気分転換を図る等の育児中の過ごし方や、自分なりの育児観を持つこと等が有意に影響していた。 結論：育児中であっても母親として以外の側面を持つこと、他者との相互作用を通じて母親自身の育児観を育てていくことの重要性が示唆された。 共著者：前田尚美，山本八千代，草野知美，須藤桃代，笹尾あゆみ，市川正人，小池伝一，伊織光恵，関口史絵，三田村保 小池担当分：データ収集と分析、考察、論文執筆の助言をおこなった。査読有
4. 重症心身障がい児の親の認識に対する看護師の捉え方 (査読付)	単著	2019年3月	小児保健研究	本研究は、重症心身障がい児の親と看護師が、子どもの日常生活援助を協働して実践する時、子どもの日常生活援助に対する「親の認識」について看護師がどのように

				捉えていたのかを明らかにし、親と日常生活援助を協働するうえで親との関わり方に示唆を得るという目的で、重症心身障がい児施設に勤務する11人の看護師からインタビューを行った。その結果、【重症心身障がい児の状況や日々のケアに精いっぱいな親】、【親との難しい関係】、【重症心身障がい児の育児に対する親のこだわり】の3カテゴリーが抽出された。親と看護師の日常生活援助に関わる協働について看護師は、親の状態を俯瞰的に観察する、「親の認識」など考えていることを確認し、子どもと親にとってよい影響を与える関わりについてアセスメントする、最初に親がどんな喪失体験をしているかアセスメントして関わる、以上3つの示唆を得た。
5. 重症心身障がい児施設に従事する看護師の看護実践状況と役割認識（査読付）	単著	2021年3月	太成学院大学紀要	本研究は、重症心身障がい児の看護を実践している看護師が、日々の看護をどこまで認識し、実践しているのか。また、実践できていない部分はどこで、その要因は何かを明らかにした。その結果、重症心身障がい児施設に勤務する看護師の看護実践状況は、25~75%の看護援助を実践していた。
6. 乳幼児の経口与薬と原則に対する国内書籍の検討	共著	2023年3月	太成学院大学紀要	本研究は、我が国の小児看護書籍における乳幼児への経口与薬援助・原則の記述内容について明らかにすることを目的とした。その結果、与薬目的、薬剤確認、内服準備、説明と同意、内服方法とタイミング、シリンジ・スプーン・スポイト・乳首による援助方法、与薬後の援助、薬と食の関係、親への参加方法について記載されていた。記述内容には差があるため、統一した内容にすることが望ましいと言える。
7. 在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな	単著	2023年3月	自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程博士論文	本研究の目的は、1. 母親は、医療処置を実施して退院後、在宅で重症心身障がい児の養育をする中、養育に対しどのような経験をし、解決していたか、2. 母親は、それ

な医療処置の意思決定にかかわる経験				までおこなって来た養育に対する経験が、重症心身障がい児の新たな医療処置が導入される際の意味決定に、どのように影響するか、を明らかにすることであった。 1. 研究方法；桜井(2002)のライフストーリー法とした。2. 研究協力者；医療処置を導入後、在宅で養育をし、新たな医療処置を導入した重症心身障がい児をもつ母親3人とした。Aさん(aさん)、Bさん(bさん)、Cさん(cさん)のストーリーを分析した。aさんは気管切開術を受け、1年程度の在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。bさんは胃瘻造設術を受け、在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。cさんは気管切開を受け、在宅療養を経て、胃瘻造設術を受けた。研究結果の分析から、在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処置の意思決定にかかわる経験がメイントピックとして明らかとなった。考察として1)新たな医療処置の導入を、希望を持って意思決定できていた。医療者は、母親が医療処置導入の先に希望が持てる状況をイメージできるよう支援する必要がある。2)母親たちの納得は重要であり、母親の子どもの状態の状況把握を確認し、医療処置導入が子どもの状態に必要であることを母親が納得できるように支援する必要がある。3)在宅での養育経験の満足から、児との在宅での生活の継続のために医療処置の導入を決定していた。本研究の母親の時代は活用可能な社会資源も十分ではなかったが、近年、訪問看護の充実、支援情報のインターネットによる提供等社会資源も増加しており、在宅での療養を支援する体制が整ってきている。満足いく在宅生活を送ってもらうためには、この社
--------------------------	--	--	--	--

				会資源を上手に活用することが必要である。今後は適切な情報活用のため、母親のインターネットリテラシーを高め、インターネット情報活用への支援が必要である。
(その他) (学会発表) 1. 重症心身障がい児の親の認識に対する看護師の捉え方	単独	2015 年 9 月	第 22 回日本家族看護学会学術集会 (於国際医療福祉大学小田原キャンパス)	本研究は、重症心身障がい児の親と看護師が、子どもの日常生活援助を協働して実践する時、子どもの日常生活援助に対する「親の認識」について看護師がどのように捉えていたのかを明らかにし、親と日常生活援助を協働するうえで親との関わり方に示唆を得るという目的で、重症心身障がい児施設に勤務する 11 人の看護師からインタビューを行った。その結果、【重症心身障がい児の状況や日々のケアに精いっぱいな親】、【親との難しい関係】、【重症心身障がい児の育児に対する親のこだわり】の 3 カテゴリーが抽出された。査読有
2. 重症心身障がい児施設に従事する看護師の看護実践状況と役割認識	単独	2016 年 6 月	第 63 回日本小児保健協会学術集会 (於大宮ソニックシティ)	重症心身障がい児の看護を実践する看護師がどの程度役割を認識し実践しているかを明らかにした。 質問紙は有効回答 140 名を分析した。対象の年齢は 26～64 歳。性別は女性 110 名。資格は看護師が、教育背景は専門学校卒業が多かった。対象の看護経験年数は 4 か月～40 年、重心経験は 2 か月～45 年。実践 30 項目の平均は 2. 67～ 4. 87。平均値が高値の内容は、児の状態を医師に報告と点滴や側管注射管理 4B7、低値は児の遊びや勉強の相手が 2. 67。因子分析の結果は 8 因子が抽出された。看護の役割と回答した割合が 9 割以上の項目は、児の状態を医師に報告が 97. 8%などであった。看護の役割と回答した割合が 6 割以下の項目は児の交流を図る援助 35. 1%、児の遊びや勉強相手 34. 3%であった。実践平均は高いが役割認識が低い項目は、家族の状況に合わせた面会調整が 3. 51 に対し役割認識が 62. 2%。

3. Literature review of the recognition about "daily life" of mother with severe motor and intellectual disabilities.	単独	2016 年 9 月	第 15 回自治医科大学シンポジウム（於自治医科大学）	児と養育者の支援のため、学校教諭やコメディカルなど他職種との調整が 3. 53 に対し役割認識が 62. 0%。 実践平均値は低い役割認識が高い項目は、養育者の相談に乗るが 3. 56 に対し役割認識が 75. 0%。自由記載の結果は 39 件で、8 カテゴリーに分類された。 査読有 This study of purpose determines the recognition about "daily life" of mother with severe motor and intellectual disabilities, and we decided to make a future research theme clear. With CINAHL, Ichyushi, we conducted document retrieval using following Key word, and the methods of study chose the literature which there was in a purpose of study and analyzed the contents. Key word ; "severe motor and intellectual disabilities" "mother" "daily life" "recognition" The results were as follows. Seven of 11 studies for families were the studies that focused on mother. The study that focused on the mother of child with severe motor and intellectual disabilities were as follows, "recognition for the child-rearing" "experience before a home care being stable" "reason why was not given temporary nursing at home by night" "relations with a bileaf and the disorder reception of the family" "present conditions of the respite care hospitalization" "at-home medical treatment life" "a nurture burden feeling" "home care time" "annoyance about brothers" "thought as the parent of father".
4. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の QOL ―夏季と冬季の比較― 前田尚美、山本八千代	共同	2016 年 9 月	第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会（於：品川プリンスホテル）	目的：乳幼児を養育する母親の QOL 得点と QOL への影響要因を明らかにすることを目的とした。 方法：6 歳未満の子どもを養育する母親 375 名を対象に、無記名自記式質問

草野知美、須藤桃代、市川正人、小池伝一、笹尾あゆみ、伊織光恵、関口史絵、三田村保				紙調査を実施した。QOL 測定尺度は、WHO が作成した WHOQOL26（日本語版）を用い、QOL 平均点を基準として高群・低群に分け、影響要因の群間比較を行った。 結果：母親の QOL 得点に有意に影響している要因は、世帯年収居住状況、夫の育児協力及び 精神的サポート等の物的・人的環境であった。また、育児に費やす時間の長さは、母親の QOL 得点に有意な影響は見られず、自分自身の時間を持つ、気分転換を図る等の育児中の過ごし方や、自分なりの育児観を持つこと等が有意に影響していた。
5. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親に必要な育児支援 前田尚美、山本八千代 草野知美、須藤桃代、市川正人、小池伝一、笹尾あゆみ、伊織光恵、関口史絵、三田村保	共同	2016 年 9 月	第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会（於：品川プリンスホテル）	「積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の QOL と育児状況に関する実態調査」を実施した質問紙は、461 部配布し、450 部回収し（回収率 97.6%）有効回答は 420 部（有効回答率 91.1%）であった。そのうち自由記載欄への回答がされている 80 名を本研究の分析対象者とした。対象者 80 名の属性については、単純集計を行った。自由記載欄に書かれた文章は、積雪寒冷期に回答した内容であることから、積雪寒冷期に感じていることとして扱った。記載されている内容のうち、「育児に関して困っていること」と、「希望する育児支援内容」について表されているものを、それぞれ文脈単位で抽出し、コード化した。続いて、類似した内容をサブカテゴリー（以下【】で示す）、カテゴリー（以下【】で示す）へと集約した。小児看護学、母性看護学教員が中心となり、子育てを行う親や家族のストレス解消、QualityofLife(以下 QOL と記述)の向上、児童虐待の防止を目標とし、「HUS 子育て支援カフェ」を立ち上げ、育児支援プログラムを実施した。これまで実施した内容と参加者へのアンケートの結果を報告した。

6. 重症心身障がい児をもつ母親の「養育に対する思い」に関する国内文献検討	単独	2021 年 7 月	第 31 回日本小児看護学会学術集会（web 開催）	文献の内容を分類した結果、母親の「養育に対する思い」に関する研究は、育児、医療的ケア、親役割、家族関係、教育、子どもの体調、社会資源、成長・発達、人間関係の 9 つに集約された。母親の思いや経験などを明らかにするには、重症心身障がい児の、障害の程度やどのような疾患を持っているのかなど、ある程度条件を明確にしていく必要がある。母親の思いを明らかにするには、いつの時期に、どのような思いや経験が出現したのか、質問紙形式を用いて、出現時期を明らかにすることが必要である。医療的ケアをもつ子どもの養育者を援助するためには、母親の思いに関連する経験について、詳細を明らかにすることが必要である。重症心身障がい児を養育する母親を援助する方略を考えるためには、罪責感などが養育に影響する度合いについて、明らかにする必要がある。
7. 在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処置の意思決定にかかわる経験	単独	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会（於：峡海メッセ下関）	本研究の目的は、1. 母親は、医療処置を実施して退院後、在宅で重症心身障がい児の養育をする中、養育に対しどのような経験をし、解決していたか、2. 母親は、それまでおこなって来た養育に対する経験が、重症心身障がい児の新たな医療処置が導入される際の意思決定に、どのように影響するか、を明らかにすることであった。 1. 研究方法；桜井(2002)のライフストーリー法とした。2. 研究協力者；医療処置を導入後、在宅で養育をし、新たな医療処置を導入した重症心身障がい児をもつ母親 3 人とした。A さん(a さん)、B さん(b さん)、C さん(c さん)のストーリーを分析した。a さんは気管切開術を受け、1 年程度の在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。b さんは胃瘻造設術を受け、在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。c さんは気管切開を受け、在宅療養を経て、胃瘻造設術を受けた。研究結果の分析から、在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処

			置の意思決定にかかわる経験がメイントピックとして明らかとなった。考察として 1) 新たな医療処置の導入を、希望を持って意思決定できていた。医療者は、母親が医療処置導入の先に希望が持てる状況をイメージできるよう支援する必要がある。 2) 母親たちの納得は重要であり、母親の子どもの状態の状況把握を確認し、医療処置導入が子どもの状態に必要であることを母親が納得できるように支援する必要がある。 3) 在宅での養育経験の満足から、児との在宅での生活の継続のために医療処置の導入を決定していた。本研究の母親の時代は活用可能な社会資源も十分ではなかったが、近年、訪問看護の充実、支援情報のインターネットによる提供等社会資源も増加しており、在宅での療養を支援する体制が整ってきている。満足いく在宅生活を送ってもらうためには、この社会資源を上手に活用することが必要である。今後は適切な情報活用のため、母親のインターネットリテラシーを高め、インターネット情報活用への支援が必要である。
--	--	--	---

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名 小林 由里

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
看護学	基礎看護学、看護教育学、看護管理学、エンドオブライフケア	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 医療事故事例のシミュレーション体験を用いた授業方法	平成 15 年 12 月 ～平成 29 年 10 月	「医療安全」の講義において学生の自己モニタリングやリスクアセスメントを高め、事故防止行動がとれることを目的にシミュレーション教育を実施した。学生一人ずつ誤薬のシミュレーション体験とリフレクションを実施した。体験後レポートの記述から、学生はどのような状況で事故につながるのかや、自分の行動特性について理解できたという結果が得られた。また、実習においても事故防止の意識につながった。
多重課題を用いたリスクアセスメント力と判断力の育成演習	平成 28 年 1 月	統合分野「看護の統合と実践」の科目として、卒業前に多重課題を用いたリスクアセスメント力と判断力、対応力を育成することを目的に演習を実施した。病室に呼吸不全の患者、転倒リスクのある患者、嚥下困難のある患者などを設定し、学生は、グループでディスカッションして患者への援助計画を立案しておく。教員が患者役を演じ、ロールプレイを行い、患者の状況に対応しながら、リスクアセスメントや優先度の判断を行う体験学習とした。このメリットとして、学生は、臨場感のある患者の反応への対応について思考し判断する機会となった。
看護管理の考え方を学ぶ事例を用いたグループ討議	平成 28 年 4 月 ～平成 29 年 6 月	統合分野「看護の統合と実践」の科目である、看護管理では、看護管理の定義やマネジメントプロセス、病院・看護部の組織体制などについて教授した。また、倫理的問題のある事例を用いて、自らがミドルマネージャーとしてどのように倫理的判断を行うかのディスカッションや、複数の様々な状況にある患者のケアが必要な事例に対し、チームでケアを実施する際のリーダーシップのあり方についてのディスカッションを取り入れた。
成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論演習の講義・演習	平成 30 年 4 月 ～令和 2 年 7 月	慢性疾患を持つ患者のセルフマネジメントを支援するための看護について、学生がイメージしながら学べるよう、事例を用いて、段階的に思考プロセスをたどれるよう講義の組み立てを行った。セルフマネジメントの患者教育では、模擬患者（教員）に対してパンフレットを用いて学生が指導する課題とした。患者役の様々な反応に対して思考し、対応するという内容とした。学生は不足する知識や患者教育の技術など課題を明確にすることができた。医療事故防止のリスクアセスメント力を高めるためのシミュレーションを取り入れた。
看護管理学特論の講義	平成 31 年 9 月 ～現在に至る	大学院の看護管理学特論では、臨床で現在も勤務する学生であるため、生きた教材を活用するべく、各自の管理的疑問や問題を提起しあい、ディスカッションを行った
想像力・創造力を高めるコミュニケーション論の講義・演習の工夫	令和 3 年 4 月 ～現在に至る	看護の初学者である 1 年次の学生に対し、コミュニケーションが、単なる言葉の伝達ではなく、目標や意図の共有であることや、看護職としてのコミュニケーションが理解できるよう工夫した。例えば様々なシチュエーションや臨床事例を用いて、学生が自ら考え、ディスカッションも組み入れて思考を深めていくようにした。
看護技術の基礎Ⅰ・Ⅱ、看護実践プロセスの基盤Ⅰ、看護学概論Ⅱの講義・演習	令和 3 年 4 月 ～現在に至る	基礎看護技術やアセスメントは、方法論を患者にあてはめるという思考にならないよう、授業外の学習を促進する取り組みを行った。事前課題は、手順を覚えるのではなく、その技術を必要とする根拠、実施の際の判断に必要な要素の視点で考えられるように工夫した。演習においても、自ら考え、学生同士でディスカッションしながら

		ら、事例患者に応じた援助の内容、方法、時期、留意点などの判断について深められるように促している。また、医療職としての倫理観を醸成するために、リアリティを持たせた事例を用いて体験を通して、深く考察できるよう工夫した。
看護管理学の講義	令和3年4月～現在に至る	4年次の学生が、卒業後に所属する組織の意義や機能、看護管理の定義やマネジメントプロセスなどをイメージすることができることを目指している。そして自らも組織の一員として看護をマネジメントしていく必要があることを理解できるよう教授する。現場で起こりうる様々な事例を用いたり、3年次までの実習を想起させて、マネジメントの視点による判断について思考を促す問いやディスカッションを取り入れている。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	令和元年8月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において奈良学園大学大学院看護学研究科講師、「看護管理学特論」M可、「特別研究」M合と判定
4 実務の経験を有する者についての特記事項 教育担当（5年間）として看護師の看護実践力向上のための現任教育の企画・運営	平成19年4月～平成24年3月	院内看護職（看護師、療養介助員、看護助手）の育成を図るため、経年別、役割別研修の企画・運営を担当した。毎年、新人看護師は毎月1回、2年目、3年目、4、5年目は2か月に1回程度、6年目以上は半年に1回程度、実習指導に関すること、褥瘡予防、摂食嚥下などの専門分野の研修などを実施した。経年別研修は、OJTを重視し、それぞれの経験年数での課題をOJTにより達成できるよう取り組み、集合研修ではその補填となるよう位置付けた。その結果、各部署で実践を通して、看護職員同士でお互いを育てあう意識ができた。新人看護職の研修テーマは主に看護技術や看護倫理に関すること、2年目はケーススタディ、3年目は組織におけるリーダーシップ・メンバーシップ、4年目以上は業務改善など組織における管理とし、業務改善につなげた。
教員に対する指導・教育、教員の教育実践力向上のための研修の企画・運営	平成25年～平成30年3月	看護専門学校での教育主事として看護学校管理を担当した。近畿内国立病院機構附属看護学校の1、2年目教員を対象とし、教育実践力向上を目的とした研修や、中堅看護教員を対象とし、学校運営・管理の視点の育成を目的とした研修を実施した。
国立病院機構近畿グループ主催実習指導者講習会講師、施設内実習指導者	平成26年6月～平成29年6月	国立病院機構近畿グループ主催実習指導者講習会にて「基礎看護学」や「実習評価」について担当し講義を行った。また、国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校、京都医療センター附属看護助産学校、敦賀医療センターでの実習指導者研修において、教育課程、実習指導の意義、実習評価、実習指導案の作成などについて講義を実施した。
5 その他 国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校における教育実績 国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校 看護学科における教育実績	平成25年4月～平成28年3月 平成28年4月～平成30年3月	「看護学概論」「老年看護学概論」「医療安全」などの講義を担当した。また、「基礎看護学実習」「小児看護学実習」「成人看護学実習」「在宅看護論実習」の実習指導を行った。効果的な実習となるよう、実習施設への実習依頼や調整を行った。院外講師へは学生の講義評価結果をフィードバックし、講義依頼を行った。また、看護教員の指導、実習施設の実習指導者対象研修の講師などを行った。 「看護管理」「医療安全」の講義を担当した。また、「基礎看護学実習」「小児看護学実習」などの実習指導を行った。効果的な実習となるよう、実習施設への実習依頼や調整を行った。院外講師へは学生の講義評価結果をフィードバックし、講義依頼を行った。また、看護教員の指導や実習施設の実習指導者対象研修の講師などを行った。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許	平成元 年 4 月	看護婦免許
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 国立病院機構奈良医療センター教育担当看護師長	平成 21 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	教育担当として看護職の現任教育の企画・実施を行った。また、医療安全管理係長とともに全職員対象の研修を実施した。人材確保対策事業として、看護職募集活動、復職支援研修や中途採用者研修の企画・運営を実施した。また実習受け入れ態勢整備等の役割を果たした。
4 その他		
実習部会	平成 31 年 4 月～令 和 4 年 3 月	看護学科における実習に関する企画・運営、検討を行った。3 年次領域の臨地実習学生配置の作成、次年度実習ローテーション案の作成、実習要綱の修正・検討・作成、実習協議会の企画・運営・評価、統合看護実習の計画案作成、学生配置の検討など多岐にわたり、学生の実習で質の高い学びができるよう取り組んだ。令和 2 年は実習に向けた学生のコロナワクチン接種の対応も行い、コロナ禍における臨地実習のあり方についても検討した。
学生生活ワーキング	平成 30 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	新入生研修の準備・運営・評価を行った。また、学生の大学生生活に関わる事項について情報共有および検討を行った。
国家試験対策ワーキン	平成 31 年 4 月 ～令和 3 年 3 月	国家試験合格に向けた模擬試験や夏季、秋季対策講座の準備、学生の学習状況把握のためのポートフォリオ作成の検討、学習支援のためのアドバイザー教員との連携方法などについて検討し、実施した。
卒業研究ワーキング	平成 31 年 4 月 ～R2 年 3 月	卒業研究に向けたガイダンスの計画と運営、卒業研究抄録集作成に向けた、執筆規程の修正、ポートフォリオ、評価表の検討を行った。
カリキュラム検討ワーキング	令和 2 年 4 月～令 和 4 年 3 月	令和 4 年度カリキュラム改正に向けて、本学看護学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを検討した。また、そのポリシーを達成するための科目、科目内容、カリキュラムツリー、科目間の関連、担当者等を検討するにあたり、検討案を提示し、意見を述べた。
教員評価制度検討ワーキング	令和 3 年 4 月	教員の教員分野に関する評価（ベストティーチャーなど）について検討し、実現に向けて具体案を計画した。
教務部会	令和 4 年 4 月 ～現在 に至る	看護学科における教務に関する検討・運営を行っている。シラバス、授業担当教員の確認、時間割の確認・調整、教室や実習室の重複の確認など、学生の授業が円滑に進むよう、問題点を検討し、調整をおこなった。次年度の専門基礎科目の講師依頼と時間割調整、カリキュラム改正に伴う読み替え履修が必要な対象学生の確認、履修が問題なくできるよう調整した。R4 年度はオンラインによる入学前教育の企画・運営・評価を担当した。また、卒業研究Ⅱのガイダンス計画及び実施、抄録集の作成などを行った。
入学前スクーリング検討ワーキング	令和 5 年度 4 月～現 在に至 る	令和 5 年度は、入学前教育を入学前スクーリングとして、ワーキングが立ち上げられた。そのメンバーとして、企画・運営に携わった。入学生が不安なく大学生活に適應できるようなプログラムを企画し、2 クール、計 5 回実施することができた。
キャリア部会	令和 5 年 4 月 ～令和 6 年 3 月	国家試験合格に向けた模擬試験や夏季、秋季対策講座の準備、学生の学習状況把握のための情報交換、学習支援のためのアドバイザー教員との連携方法、卒業年度生以外の国試に向けた学習支援などについて検討し、実施した。他にも、就職活動などのキャリア支援について、キャリアセンターとの情報交換を行うなど行った。
奈良学園大学自己点検自己評価委員会	令和 3 年 4 月 ～現在 に至る	奈良学園大学白書の加筆・修正について、意見を取りまとめ、修正した。令和 6 年度認証評価に向けて資料の作成に携わっている。

独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 看護師ラダー研修 「看護研究」に関する講義・指導		令和5年4月～現在に至る	看護師のラダー研修 レベルⅢ、Ⅳの方を対象とした「看護研究」の講義および研究指導を行っている。看護研究の一連の流れを学習し、研究の基礎を身につけることを目的とし、看護研究の基礎的な内容に関する講義、3題の研究に対する研究計画書作成、倫理審査申請に向けての指導を行った。令和6年度も引き続き、発表に向けて継続的に指導を行う予定である。	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1 看護師国家試験 直前社会福祉学領域ファイナルチェック	共著	2021 年 03 月	金芳堂	社会福祉の仕組みを学び、対象者の生活を基盤とした QOL の質の向上に向けた社会福祉の知識を体系的に理解できるものである。3-2) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）を担当した。第Ⅱ部 疾患別／ D 肝臓・胆嚢の疾患胆石症を担当した。
2 エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図	共著	2022 年 03 月	中央法規出版	
(学術論文)				
1. 新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性とその特徴（修士論文）	単著	平成 25 年 3 月	畿央大学	新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性を明らかにすることを目的とした。質問紙は批判的思考態度尺度(常盤ら,2010)、情報活用の実践力尺度(高比良ら,1999)で構成した。分析方法は記述統計，Spearman の相関係数，重回帰分析を用いた。結果新人看護師および看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性は，双方とも有意な正の相関が認められ(r= .449,p< 0.1)，両能力は有意に関連していることがわかった。クリティカルシンキング能力を高めるには情報活用能力の判断力，創造力，処理力を育成する必要性が示唆された。A 4 判 全 64 頁
2. 看護学生の碎石位体位前後の産婦人科診察台に対するイメージと羞恥心の変化（査読付）	共著	平成 27 年 6 月	畿央大学紀要 p19～P30	看護学生が産婦人科診察台で碎石位を体験することで，体験前後の診察台のイメージや羞恥心の変化を検討することを目的とした。15 項目の産婦人科診察台イメージ尺度を作成した。羞恥心は樋口の状態羞恥心感情測定尺度で碎石位体験前後に調査した。参加者は 80 名。産婦人科イメージは，因子分析の結果「情動イメージ」「体感イメージ」「緊張的イメージ」「見た目イメージ」の 4 因子が抽出された。体験前は 13 項目がマイナスイメージであったが，体験後 5 項目がプラスに有意に変化した。体験後の羞恥心尺度の高値群は，診察台イメージの「高く」「嫌な」の項目でマイナスに有意に変化した。以上から産婦人科診察台に対してマイナスイメージが強い場合，羞恥心が強くなることが示唆された。本人担当部分：データの分析，結果の考察を行った。 共著者：◎中居由美子,小笠原知枝,播金ヤスミ,小林由里,河合まゆみ,文鐘聲
3. 基礎看護学実習評価項目の内容分析によるパフォーマンス評価のためのルーブリックの作成（査読付）	共著	平成 30 年 2 月	医療福祉情報行動科学研究第 5 巻 P43～P51	基礎看護学実習の評価に用いられた項目から，パフォーマンス評価のためのルーブリックを作成することを目的とした。10 校の基礎看護学実習評価表の評価項目を基礎データとし，Berelson の内容分析を参考にカテゴリ化した。445 記録

				単位数をコード化し、110 サブカテゴリー、25 カテゴリー、6 コアカテゴリーを抽出した。6 コアカテゴリーは、看護過程展開力、クライアント理解力、自己学習力、チーム医療における看護師役割の認識力、倫理的態度に基づく実践力、コミュニケーション力と命名し、基礎看護学実習の実践力とした。これに基づき、縦軸に25 カテゴリーの評価基準、100 サブカテゴリーの評価基準から構成され、到達度で評価できる評価表を作成した。 本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共著者：◎播金ヤスミ、小笠原知枝、中居由美子、河合まゆみ、小林由里、對中百合、新井祐恵、太田容子、伊藤明子
4. 新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性 (査読付)	共著	平成 31 年 2 月	医療福祉情報行動科学研究第 6 巻 P3～P11	新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性を明らかにすることを目的とした。看護師 712 名に質問紙調査を実施した。質問紙は属性、批判的思考態度尺度(常盤ら、2010)、情報活用の実践力尺度(高比良ら、1999)で構成した。 分析方法は記述統計、Spearman の相関係数、重回帰分析を用いた。結果、クリティカルシンキング能力は、協同的態度が高く、看護師との比較では、探求心が高く、論理的思考への自信が低かった。情報活用能力では、収集力、発信・伝達力が高く、看護師との比較では表現力が高かった。新人看護師および看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性は、双方とも有意な正の相関が認められたが、新人看護師は看護師より関連性が低かった。(修士論文をもとに作成) 本人担当部分：質問紙の作成と調査及び統計解析、研究の総括を行った。 共著者：◎小林由里、小笠原知枝、河合まゆみ、中居由美子、播金ヤスミ
5. 看護師の暗黙知による予後予測に関する文献検討 (査読付)	共著	令和 5 年 3 月 掲載予定	医療福祉情報行動科学研究第 11 巻 (2022)	【目的】看護師が暗黙知に基づきどのように死期を察知し、予後を予測しているかを明らかにする。 【方法】対象となる文献から、看護師の暗黙知による予後予測に関する記述を取り出し、内容の類似性に基づき抽象化しサブカテゴリー、カテゴリーを生成した。 【結果】15 件の文献を分析した。 暗黙知による予後予測は、目つきや表情の変化、違和感のある臭気の消失、土気色のねっとりした皮膚、つじつまの合わない会話、今までにない異常な言動、一瞬の回復、死の恐怖、惜別に伴う感情、生へのこだわりの喪失、看護師自身に生じる何かが違うという感覚の 10 カテゴリーが抽出された。 【結論】看護師は、患者の特異的な身体的情報や、死を自覚することに関連した心理的变化、今までにない言動や予想外の反応だけでなく、看護師自身に生じる「何かが違う」という感覚により死期を察知し、予後を予測していることが示唆された。 共著者：◎小林由里、小笠原知枝、西薊貞子、平松幸子、河合まゆみ、兒玉 拓

6.看護師の暗黙知に基づく看取りケアへの移行を判断する予後予測指標の開発 ー非がん性呼吸器疾患患者に焦点をあててー	共著	令和6年3月	日本看護診断学会「看護診断」第29巻第1号	非がん性呼吸器疾患患者の看取りケアへの移行を判断するために、看護師の経験知から導かれた暗黙知に基づき作成した予後予測指標原案の内容妥当性と実用性を検証することを目的とした。予後予測指標原案（小林，2023）は、看護師の暗黙知の観点から死期が近いことを予測する手がかりとなる兆候を文献から抽出した28項目で構成されたものである。内容妥当性は、看取りケアの経験のある看護師を対象に質問紙調査を実施し、Lynn(1986)の内容妥当性指数(CVI)を算出した。実用性については、非がん性呼吸器疾患患者の査定に際して、予後予測指標原案を用いて評価を依頼した。CVIを算出した結果、0.78以上を示した項目は4項目であった。また症例により指標となる可能性があるCVIが0.67～0.73を示した10項目を含めた14項目を予後予測指標とした。実用性は、呼吸器系非がん患者37名に予後予測指標を使用した結果、70%が看取りケアへの移行の判断に「大いに参考にできた」「まあまあ参考にできた」と回答した。以上から、本研究で開発された看取りケアへの移行を判断するための予後予測指標は内容妥当性と実用性の観点から検証された。 本人担当部分：質問紙の作成と調査及び分析、研究の総括を行った。 共著者：◎小林由里，小笠原知枝，河合まゆみ，平松幸子，西菌貞子
7. 在宅認知症高齢者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のストレス要因 ーインタビュー調査に基づく質的内容分析ー	共著	令和6年3月	日本地域共生ヘルスケア学会誌第1号	【目的】在宅認知症高齢者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のストレス要因を明らかにする。【方法】4年以上の訪問看護の経験と在宅認知症高齢者のエンドオブライフケアの経験をもつ訪問看護士19名を対象とした。半構造化面接法を用いてナラティブデータを収集し、質的記述的研究の手法を用いて分析した。在宅認知症高齢者と家族への支援を通して感じる困難感、不安、負担感に関する語りを類似の文節ごとにコード化しカテゴリ化した。【結果】ストレス要因として10カテゴリと28サブカテゴリが抽出された。10カテゴリは、〔認知機能低下に伴う日常生活上の支障への対応〕〔看護介入に対する在宅認知症高齢者の理解困難〕〔認知症高齢者と家族の情緒不安定な言動〕〔家族の認知症に対する受容の難しさ〕〔在宅医療・看護ケアの見直しにかかる費用負担の困難さへの対応〕〔意思決定を代行する家族への支援上の困難さ〕〔意思疎通ができない認知症高齢者の看取りに対する家族の混乱〕〔多職種連携の困難さ〕〔多岐にわたる業務の繁忙に伴う疲労〕〔幅広い看護実践に必要な知識・技術の不足〕であった。【結論】ストレス要因は、認知症に伴う中核症状と周辺症状への対応上の困難、在宅療養の継続上の困難、家族によるエンドオブライフの支援上の困難、訪問看護の業務上の特徴から生じる困難に4分類された。これらの4観点から訪問看護師のストレス要因に

				対処する必要性が示唆された。共著者： ◎平松幸子，小笠原知枝， <u>小林由里</u> ，河 合まゆみ，兒玉 拓
(その他)				
1. A Study of Young Women's Images of the Gynecological Examination	—	平成 25 年 10 月	International Nursing Conference & World Academy of Nursing Science	若い女性が婦人科診察台に対して，どの ようなイメージをしているのか判明す ることを目的とした。婦人科診察台のイ メージの 15 項目のスケールを作成した。 80 人の女子大学生に婦人科診察台で 診察を受けるポーズをとってもらった。 結果，診察ポーズ前の婦人科診察台のイ メージは，「緊張する」67.0%，「恥ず かしい」58.0%，「親しみにくい」50% 「こわい」43.3%，「嫌い」32.7%であ った。診察ポーズ後の婦人科診察台のイ メージは，「高い」61.7%，「嫌い」45.3%， 「緊張」42.7%，「こわい」28.0%，「恥ず かしい」27.7%に変化した。 診察ポーズ後 50 名の学生が婦人科診 察台のイメージはマイナスイメージか らプラスイメージに変化した。このこと から若い女性は診察前は婦人科診察台 に対してマイナスイメージをもってい るが体験後プラスイメージに変化した。 子宮がん検診率を上げるために，ヘルス ケア・プロバイダーは，若い女性の婦人 科診察台の否定的なイメージを減少さ せることが必要である。 本人担当部分：データの分析，結果の考 察を行った。 共同発表者：Yumiko Nakai, Jong-Seong Moon, Yasumi Harikane, <u>Yuri Kobayashi</u> , <u>Mayumi Kawai</u> , Midori Takagi, Akiko Ito
2. 新人看護師のクリティ カルシンキング能力と情 報活用能力の関連性とそ の特徴	—	平成 26 年 8 月	日本看護学教育学会 第 24 回学術集会	看護師 1,075 名を対象に自記式質問紙法 による調査を行った。質問紙は高比良ら (1999)による情報活用の実践力尺度，常 盤ら(2010)による批判的思考態度尺度を 使用。分析対象者は新人看護師 158 名， 看護師 583 名。 新人看護師および看護師の「クリティ カルシンキング能力」と「情報活用能力」 の関連性は，双方とも有意な正の相関が 認められた。本研究から，新人看護師の 両能力は関連していることが示唆され た。クリティカルシンキング能力では 「懐疑的態度」や「論理的思考への自 信」，情報活用能力では「判断力」や「処 理力」などの能力を高める教育が必要で あると考える。(修士論文の一部を発表) 本人担当部分：質問紙の作成と調査及び 統計解析，研究の総括を行った。 共同発表者： <u>小林由里</u> ，河合まゆみ，播 金ヤスミ，中居由美子，伊藤明子， 小笠原知枝

3. 看護専門学校における高校新卒学生と社会人経験学生の学習意欲に関する要因	—	平成 27 年 8 月	日本看護学教育学会 第 25 回学術集会	専門学校における高校新卒学生と社会人経験学生の学習意欲に関する要因を明らかにすることを目的とした。看護専門学校 3 年課程（4 校）の 1～3 年生 445 名を対象に、自記式質問紙調査を実施。質問紙は永嶋らの学習意欲尺度、斎藤らの志望動機尺度、菅原らの自意識尺度と学習活動で困った場面・学校生活での人間関係・相談の気兼ねなど 6 項目とした。結果は、社会人が学習意欲全体で有意に高く、学習意欲に関する要因とした高校卒は「志望動機」のみであったが、社会人は「志望動機」「自意識」「学校生活の相談」が関与していることが示唆された。さらに高校卒は看護職への憧れと自分に適性があると感じているほど演習・実習に期待が大きいことが推察された。 本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共同発表者：河合まゆみ、小笠原知枝、中居由美子、<u>小林由里</u>、播金ヤスミ
4. Prognosis Prediction at One Month Before Death Based on Nurses' Assumed Tacit Knowledge: Qualitative Inductive Research Based on Systematic Review	—	令和 4 年 4 月	The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	【目的】看護師の経験に培われた暗黙知に基づく予後予測を可能にする要素を明らかにする。 研究デザインは、系統的レビューに基づく質的帰納的研究。文献検索は、2000 年～2020 年に発行された医療系データベースを使用した。質的データはコード化し分類して分析した。選択基準に合致した 27 文献が分析対象となった。その結果、看護師の暗黙知に基づく死の約 1 か月前の予後予測の要素として、【目つき、表情の変化】【反応の低下】【死に対する恐怖】【家族等との惜別（せきべつ）】【今までにない異常な言動】【違和感のある臭気の消失】【生へのこだわりの喪失】【ただならぬ雰囲気を感じ】【一瞬の回復】【発汗を伴う皮膚色の変化】などの 10 カテゴリが抽出された。 共同発表者：<u>Yuri Kobayashi</u>, Chie Ogasawara, Teiko Nishizono, Mayumi Kawai, Sachiko Hiramatsu, Yasumi Harikane.
5. 看護師の暗黙知による予後予測に関する文献レビュー	—	令和 4 年 10 月	日本エンドオブライフケア学会 第 5 回学術集会	【目的】1) 国内外の文献レビューにより、看護師の暗黙知による予後予測に関する研究の動向を把握し、2) 看護師がどのような予感や直観に基づいて患者の予後を予測しているのかを明らかにする。 【方法】文献レビュー方法および対象文献の選定は、医中誌 Web 版、CiNii, PubMed, CINAHL 等を使用した。 【結果】分析対象文献は 17 件となった。暗黙知による予後予測に関する文献の動向は、8 件が看護師の暗黙知による死期の予測に関する文献、7 件は暗黙知による急変や異常の臨床判断に関する文献、2 件は経験により培われた実践知に関する文献であった。 【考察】看護師は過去の経験において培われた暗黙知の視点から予後を予測しており、特に患者の目つき・表情の変化、臭い、いつもと違う雰囲気などから予後を察知し予測していることが示唆された。

				本人担当部分：文献検索，データ分析，研究の総括を行った。 共同発表者：小林由里，小笠原知枝
6. 学生の主体性を引き出す有効な教育支援の検討ー学生がデザインする統合実習における教員の実践からー	—	令和4年 12月	日本看護科学学会 第42回学術学会	【目的】対象学生2名への実践から，教員のどのような支援が学生の主体性を引き出しているかを検討し，今後の教育支援をより有効なものとする具体策を明らかにする。 【方法】「学生が主体的にデザインする実習（西菌）」を活用。この方法は，学生が自ら課題を設定し，看護の現象に対して探究心を持つことにより，研究的手法を用い，情報収集から計画立案，実践，考察を行うものである。 1)探究テーマと理由の明確化 2) 実習施設とのスケジュール調整 3)実習日程の設定 【教育支援の実際】1)言語化へのサポート，2) 主体的な学習行動継続のサポート3)主体的に学ぶ環境づくり，4) カンファレンスで成長確認 共同発表者：松浦尚子，西菌貞子，<u>小林由里</u>
(その他)				
7. Stressors for Visiting Nurses Supporting End-of-Life Care for Older Patients with Dementia and Their Families	—	令和5年3月	The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	目的：高齢認知症患者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のストレス要因を明らかにする。方法：5年以上の訪問看護の経験をもつ看護師に，半構造化面接法を用いてデータ収集し，質的記述的研究の手法を用いて分析した。 結果：研究参加者は19名で，訪問看護の経験年数の平均は12.2年であった。分析の結果，訪問看護師のストレスとして，12のカテゴリと28のサブカテゴリが抽出された。12カテゴリはストレスの特徴から，1.中核症状，行動心理症状，2. 在宅療養継続困難，3. 意思決定支援，4. 在宅における看取り，5.職場環境への課題の5つの視点に分類された。 共同発表者：平松幸子，小笠原知枝，兼澤あゆみ，<u>小林由里</u>，河合まゆみ
8. Grief Care Provided by Visiting Nurses to Bereaved Families of Patients with Dementia	—	令和5年3月	The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	目的：認知症患者の遺族に対して訪問看護師が提供するグリーフケアを明らかにする。 方法：訪問看護師を対象にグリーフケアに関する質問紙調査。 結果：調査対象は，平均訪問看護師歴9.2年であった。認知症患者の配偶者や子どもへのグリーフケアは，家庭訪問や電話相談で行われた。訪問看護師が行ったグリーフケアは遺族に寄り添い傾聴，表現の促し，行ってきたことを肯定，ねぎらいの言葉，生前の家族との関係構築，故人の思いを察して言葉をかける(代弁)，新たな問題や心配事の確認と支援，同じ境遇の遺族の紹介，社会資源の活用，遺族の健康状態の把握，悲嘆過程の説明の11項目であった。 共同発表者：河合まゆみ，小笠原知枝，<u>小林由里</u>，平松幸子
(その他)				

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（c） （研究分担者）	令和2年4月 ～令和4年3月	研究課題名「終末期患者の意思表示を支えるための高齢者市民を対象としたエンドオブライフケア教育」 市民を対象とした研修会の実施および、報告書冊子の作成に携わった。
令和3年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C） （研究代表者）	令和3年～ 令和6年	研究課題名「エンドオブライフケアに携わる看護師の暗黙知に基づく臨死期の予測」 令和3年度は、看護師の暗黙知に基づく予後予測項目の抽出を目的に、システマティックレビューおよび質的分析を行った。
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C） （研究分担者）	令和2年～ 令和4年	研究課題名「終末期患者の意思表示を支えるための高齢者市民を対象としたエンドオブライフケア教育」 市民を対象とした研修会の実施および、報告書冊子の作成に携わった。
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B） （研究分担者）	令和4年～ 令和7年	研究課題名「看護人材の円滑なトランジションを促す大学教育～新人教育の抜本的な改革と体系化」

教 育 研 究 業 績 書		
2024年 5月 7日		
氏名 宮本 雅子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
	助産学、母性看護学、周産期看護、健康教育、思春期教育、母子間愛着	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 (1) 助産師課程選択希望者のための進学意欲向上を目的とした、選択前助産学の体験型授業の実践	2014年8月	摂南大学における教育指導において、2014年度末から開講となった助産師課程の選択希望者の学習意欲の向上のため、2014年8月に「助産診断・技術学ⅠとⅡ」、「助産技術学演習」の半日体験授業・演習（助産師課程演習体験：助産師の仕事ってすごい）を企画し、実施した。将来助産師を希望し、参加した11人の3年次生女子からは、「助産師課程の学習内容がイメージできた」、「助産師課程をぜひ選択したい」との感想があり、学習意欲が高まった。講義と演習を担当した助産学領域教員からは、授業の企画、実施、評価の過程において、分娩介助物品や医療機器を用いて全員が体験できる実践型演習と、時間配分について学生の進学意欲が高められるような、満足できるものだったと評価を受けた。
(2) 助産学実習学内実習のシミュレーション教育の実践	2023年9月	奈良学園大学において、助産学実習の学内実習方法として、シミュレーション教育を担当した。全国助産師教育協議会の事例フォーマットに沿って、産婦事例の実習を計画し、2023年10～12月に実施した。産婦の入院から分娩介助、産後2時間までを継続してシミュレーションを行い、分娩経過中の助産診断を重視したリフレクションを行った。
2 作成した教科書、教材 (1) 助産診断指標の作成	2015年2月～ 2015年4月	摂南大学看護学部の助産師課程の学生用として、「助産診断・技術学Ⅰ」の妊娠期の助産診断・診断指標の冊子作成の一部を担当した。作成途中でグループワークを行い指導と修正・追加を加えながら実施した。診断指標は助産学実習で活用できる有効な教材であり、学生から高い評価を得た。（全86頁）
(2) 助産診断指標の作成	2016年2月～ 2016年4月	摂南大学看護学部の助産師課程の学生用として、「助産診断・技術学Ⅰ」の妊娠期の助産診断・診断指標の冊子作成の一部を担当した。作成途中でグループワークを行い指導と修正・追加を加えながら実施した。診断指標は助産学実習で活用できる有効な教材であり、学生から高い評価を得た。（全120頁）
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (1) 教育・研究指導上の能力に関する評価 (評価者：摂南大学看護学部長)	2014年5月	2013年度は、最近の医療の変化の中で進歩した内容や更新された情報について母性・助産学の教育で活かせる内容を模索した。具体的に臨床においては分娩直後の出血に対する文献や情報を整理し、勉強会を実施した。2015年度より助産学の講義や演習では、臨床現場における過去5年程度での助産の質の向上と問題点を踏まえ、経験と文献に基づいた授業展開ができるよう計画している。4月より、看護研究Ⅰで文献検索と文献検討の単元を担当し、初めて研究を行う学生の立場からわかりやすく実践レベルで授業を行ったことに対する評価を得た。以上から、看護学部看護学科における教育・研究指導上の十分な能力を有するものと評価する。

(2) 教育・研究指導上の能力に関する評価 (評価者：摂南大学大学院看護学研究科長予定者)	2015年2月	摂南大学看護学部3年次生の助産師課程選択希望者に対し、女子を対象に行った助産師課程選択希望の演習では、分娩介助物品や医療機器を用いて全員が体験できる実践型演習を行うなど工夫し、学生の学習や進学意欲につなげることができている。研究については、1996年より着手した分娩時の体位に関する研究を続行し、特に妊娠・出産に関連するテーマについて、2014年まで各年で1回の学会発表と1論文の投稿を行っている。大阪府立大学大学院博士後期課程では、妊娠期における健康教育をテーマとし、2010年よりKolcabaのComfort理論に基づいた介入研究を意欲的に継続している。 以上から、大学院看護学研究科看護学専攻における教育・研究指導上の十分な能力を有するものと評価する。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 常翔啓光学園高等学校1年生を対象とした思春期教室	2014年7月	摂南大学看護学部への左記授業依頼について、1年生男女の生徒385人を対象として、思春期教室を実施した。思春期教室の企画・運営を行い、授業は「胎児の発育、育児体験、子育てフリーディスカッション」の内容に関する演習を担当した。
(2) 摂南大学看護学部 「広報・地域連携委員会」	2014年4月～ 2015年3月	同大学「広報・地域連携委員会」に所属し、オープンキャンパス、模擬授業、サマーセミナー等の行事担当者、および役割分担について検討した。
(3) 摂南大学看護学部 「自己点検評価・FD委員会」	2014年4月～ 2015年3月	同大学「自己点検評価・FD委員会」に所属し、FD研修会（ループリック）の運営を委員とともに担当した。他、授業評価、実習アンケートの内容検討と実施、および教員表彰について検討した。
(4) 摂南大学看護学部 「学生委員会」	2014年4月～ 2019年3月	同大学「学生委員会」に所属し、主にスタートアップセミナー（平成28年度よりキャリア入門Ⅰ）の「上級生との交流」の企画運営を担当した。学部賞表彰の啓発ポスターを作成した（平成29年度より開始）。他、感染症対策、学内・学外における学生の賞罰、卒業式に関して枚方キャンパス・看護学部内において検討した。
(5) 摂南大学看護学部 「臨地実習委員会」	2014年4月～ 2017年3月	同大学「臨地実習委員会」に所属し、要綱ワーキンググループとして、看護学臨地実習要綱、領域実習要綱に関して内容を検討し、印刷の調整を行った。また、教員申し合わせ事項について内容検討を実施した。実習オリエンテーション、および実習ガイドの企画と運営を実施した。他の委員と協働して、実習担当者研修会の運営を担当した。委員会からの内容に基づき、助産師課程の実習調整を実施した。
(6) 摂南大学看護学部 「自衛保安隊」	2016年4月～ 2018年4月に 「安全管理委員会」に名称 変更	同大学「自衛保安隊」に所属し、地区看護部隊の「避難誘導班」を担当し、年に2回の防災訓練の学生の誘導を実施した。摂南大学枚方キャンパス防火・防災管理委員会にて、防災訓練内容について検討した。
(7) 常翔啓光学園高等学校1年生を対象とした思春期教室	2016年12月	摂南大学看護学部への左記授業依頼について、1年生男女の生徒479人を対象として、思春期教室を実施した。演習を担当し、助産学実習室において、助産に必要な教材を紹介し、分娩時のケアや体験などを企画、運営した。
(8) 摂南大学看護学部 「国家試験対策委員会」	2017年4月～ 2018年3月	同大学「国家試験対策委員会」に所属し、看護師国家試験対策の計画、模擬試験準備、実施手続き、試験監督、下位学生への指導を実施した。主に、助産師課程学生対象の国家試験対策として、年間学習計画、模擬試験手配、国家試験の動向と内容の分析、学生の意欲向上への取り組み、面談、学生の成績分析と対策考案、国家試験対策用の補講準備と資料作成を実施した。

(9) 摂南大学看護学部 「教務委員会」	2018年4月～ 2019年3月	同大学「教務委員会」に所属し、看護学部看護研究Ⅰ・Ⅱの手引書の検討、発表会企画運営、学部履修要綱の検討・確認を、ワーキンググループとして実施した。委員会全体として時間割作成、履修ガイダンス計画、学習状況調査などの業務に関わった。
(10) 摂南大学看護学部 「安全管理委員会」	2018年4月～ 2019年3月	同大学、「安全管理委員会」に所属し、災害訓練の企画、運営を実施した。災害記録用紙内容の検討を行った。委員会全体では、学生情報の教職員間での共有方法について検討し、実施に至った。
(11) 摂南大学看護学部 「学修支援センター運営委員会」	2018年4月～ 2019年3月	同大学「学修支援センター運営委員会」に所属し、ランチタイムイングリッシュの運営を担当し、学生利用者の把握、推進、集計を実施した。委員会全体では、学修支援センターの運営についても同様に実施した。
(12) 西宮市保健所課内保健師研修会講演 テーマ「妊娠中から始める母と子の歌唱」	2018年10月	西宮市保健所の依頼にて、西宮市保健所課内の保健師32名を対象に講演を行った。講演内容として「妊娠中からの歌唱の意義、胎児や乳児への影響、妊娠期の歌唱クラスと継続した歌唱の効果等」を担当した。
(13) 常翔啓光学園高等学校1年生を対象とした思 春期教室	2018年12月	摂南大学看護学部への左記授業依頼について、1年生男女の生徒436人を対象として、思春期教室を実施した。思春期教室の企画・運営を行い、授業は「胎児の発育、妊婦体験、育児体験、分娩室体験」の内容に関する演習を担当した。
(14) 四天王寺大学看護学部 「学生支援委員会」	2019年4月～ 2020年3月	四天王寺大学看護学部「学生支援委員会」に所属し、学生生活に関する支援（ロッカー割り当て、各期オリエンテーションの企画運営他）を実施した。また、1年生から行う国家試験対策ゼミの企画運営、成績分析、学習状況調査を実施し、学生への支援を実施した。
(15) 四天王寺大学看護学部 「キャリア委員会」	2019年4月～ 2020年3月	同大学、「キャリア委員会」に所属し、就職情報等の設置、就職支援シンポジウムの企画運営を行い、1年生に対し支援を実施した。
(16) 四天王寺大学、四天王寺大学大学院 四天王寺大学「入試問題校正委員（英語）」、四 天王寺大学大学院「入試問題作成委員（英語）」	2019年4月～ 現在に至る	同大学、「入試問題校正委員（英語）」の委嘱を受け、業務に携わった。同大学大学院、「入試問題作成委員（英語）」の委嘱を受け、業務に携わった。
(17) 四天王寺大学 「基礎教育ワーキンググループ」	2020年4月 ～ 2021年3月	同大学、社会人基礎力向上のための基礎教育の在り方について、和の精神1・Ⅱ、および大学基礎演習、キャリア教育について検討した。
(18) 四天王寺大学高等教育推進センター員	2021年4月 ～ 2022年3月	同大学、「高等教育推進センター」の委嘱を受け、構成員としてプレエントランスガイダンスや社会人基礎力の向上に必要な入学前教育について検討した。
(19) 四天王寺大学看護学部 「国試対策委員会」	2020年4月～ 2023年4月	同大学、「国試対策委員会」委員長として、新たに設置された委員会に所属し、委員会規程、委員役割・活動計画、国試対策ゼミの企画・実行・評価、業者講座と模試を実施、成績分析と評価を実施した。
(20) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 「FD・SD委員会」、学科「FD部会」	2023年4月～ 現在に至る	同大学、全学委員会と学科部会に所属し、全学および学科のFD研修の企画や運営に携わった。さらに、学科部会において、PROGテストの実施運営、地域住民を対象とした「健康フェスタ」の企画、運営に携わった。
(21) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 「実習ワーキング」	2023年4月～ 2024年3月	同大学、学科教務部会の実習ワーキングに所属し、実習配置、実習オリエンテーション、看護学臨地実習要綱印刷調整、臨地実習指導者を対象とした実習調整会議の企画、運営に携わった。

摂南大学大学院看護学研究科 修士論文審査（副査）	2018年4月 ～ 2019年3月	摂南大学大学院看護学研究科にて、健康発達支援看護学専攻学生の修士論文の審査（副査）を実施した。 論文題目：医療機関における子ども虐待発見・連携に対する看護師の自己効力感の構成要素とその影響要因
--------------------------	-------------------------	---

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格、免許 (1) 看護婦免許 (2) 助産婦免許 (3) 新生児蘇生法「一次」コース インストラクター資格 (4) 日本助産評価機構「アドバンス助産師」 認定		1990年5月 1991年5月 2014年2月 2015年12月	第700131号 第94883号 J-14-34269 認証番号15-013271	
2 特許等 なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし				
4 その他 なし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし (学術論文) 1. A literature review of the effects of singing intervention for healthy people or patients with various health conditions. (さまざまな健康状態にある人々を対象とした歌唱介入の効果に関する研究) 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2014年4月	大阪府立大学看護学部紀要 20巻1号 pp. 101～111 大阪府立大学	本研究は、健康な成人、およびさまざまな健康問題をもつ人々において、歌唱をすることによる感情変化やwell-being、QOL、身体機能の効果に関する文献レビューを行うことを目的とした。少人数を対象として行われたRCT5件を検討した。感情尺度を使用した測定結果や介入方法の信頼性について分析した結果、特に肯定的な感情変化の効果を確認したが、これらの効果は対象者個々の好みや健康状態、文化背景に影響されることが明らかになった。今後は、対象者や健康レベルについて焦点を絞り、妊婦等の健康な人々を対象にした歌唱の介入に関する効果について明らかにしていく必要がある。(11頁) (共著者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：文献収集、レビュー、統計分析、論文執筆を担当した。共著者は、論文指導を担当した。
2. 病院勤務助産師のフリースタイル分娩の介助体験の思いと推進への課題 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2015年3月	第45回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション pp. 7～10 日本看護学会	本研究は、病院勤務助産師を対象として、フリースタイル分娩の介助体験時の思いを分析することにより、フリースタイル分娩の実在する問題点と推進に必要な要素を明らかにすることを目的とした。助産師195人の記述内容分析結果、分娩介助時には「分娩介助技術や分娩進行への不安や心配」が21記述数あり、フリースタイル分娩の欠点における記述においても助産師自身の助産技術に関して111記述数と多く共通していた。フリースタイル分娩の介助において部署全体での評価の取り組みが課題となった。(4頁) (共著者：宮本雅子、但馬まり子、赤井由紀子) 担当部分：研究計画、データ収集、共著者とともに内容分析の実施、論文執筆を担当した。
3. グループワークを取り入れた中学2年生に対する性教育授業実践 (査読付)	共著	2015年3月	第45回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション pp. 26～29 日本看護学会	本研究は、中学2年生に対するグループワークを用いた性教育実践を通して、その評価をもとに今後の性教育のあり方について示唆を得ることを目的とした。中学2年生72人のグループワークからは8つのカテゴリが得られ、授業の理解度を知ることができた。中学生の性に対する思いを表出する手段であり、性教育の一方法として活用できることがわかった。(4頁) (共著者：但馬まり子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。

4. Effects of antenatal exercise on the quality of life in pregnant women: a literature review. (妊娠期のエクササイズによる妊婦のQOL: 文献検討) 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2017年3月	摂南大学看護学研究 5 巻1号 pp. 37~47 摂南大学	本研究は、妊娠期に行う身体的エクササイズの心理的効果のうち、QOLの向上への効果について文献検討を行った。レビューは、Cochrane Handbook for Systematic Reviewに基づき国内外の文献137件よりRCT9文献を抽出した。そのうち2件はWHOQOL-BREFに関してメタアナリシスを実施した。9文献からエクササイズ実施後のQOLが有意に上昇した報告を認めたが、メタアナリシスの結果から有意差がなかった。今後はQOLに効果的なエクササイズの内容や介入方法などの検討が必要である。(11頁) (共著者: 宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分: 文献収集、レビュー、統計分析、論文執筆を担当した。共著者は、文献検索、文献の抽出、妥当性検討、結果の妥当性検討を担当した。
5. 妊娠中期以後の妊婦のケアへの関心と気分・感情との関連—POMS尺度を用いて— 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2017年6月	第47回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション pp. 7~10 日本看護学会	本研究は、妊婦の肯定的感情を促進するケアにつなげるために妊婦の興味・関心のあるケア、および妊婦自身が気分の変化への対処として実施しているケアと気分・冠状との関連について明らかにすることを目的として実施した。初妊婦209名のうち、有効回答が得られた125名を分析対象とした。その結果、心身症状として最も多いのが「疲れやすい」であり、「妊婦体操・ヨガ・呼吸法・リラクセス法」などのケアに関心を持っていた。「胎教や音楽」への関心も認めた。エクササイズを行っている妊婦はPOMSの「活気」因子が有意に高く、音楽鑑賞や歌唱する妊婦は「疲労」因子が有意に低下した。今後は、ケアの実施効果を研究することが課題となった。(4頁) (共著者: 宮本雅子、町浦美智子) 担当部分: 研究計画、データ収集、共著者とともに内容分析の実施、論文執筆を担当した。
6. 性別にみた高校生の性に関する理解と性教育の在り方の検討 (査読付)	共著	2017年6月	第47回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション pp. 40~43 日本看護学会	本研究は、高校1年生974名を対象に性に関する理解について思春期教室実施前後に質問紙調査を行い、847名の有効回答について分析した。その結果、思春期教室後の性に関する理解が高く、その効果に性差は認められなかった。パワーポイントを用いた講義後に、育児体験や出産体験・妊婦体験など演習が理解に対するうかをあげたといえる。その後の知識の定着については今後の課題となった。(4頁) (共著者: 徳迫享子、但馬まり子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
(その他) 「研究報告書」 1. 科学研究費補助金基盤研究C [研究費]	共著	2017年4月～ 2022年3月	日本学術振興会	課題名: 「妊娠早期からの主体的・継続的な出産準備教育による父親役割形成への効果」 研究経費: 4,550千円 研究内容: 妊娠早期からのケア内容の充実を図ることを目的とし、妊娠期の父親へのケア効果に関するシステムティックレビューを実施し、効果内容を明らかにする。日本における妊娠期の父親の妊娠・出産・育児への意識や父親役割意識について調査を行い、夫のニーズを把握し、教育プログラムを作成した。 (共同研究者: 宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分: 研究代表者、研究統括、研究計画、調査計画、調査の実施、データ入力、分析、学術集会、論文の発表。
2. 科学研究費補助金基盤研究C [研究費]	共著	2021年4月～ 現在継続中	日本学術振興会	課題名: 「妊娠期から産褥期の母親による歌唱の胎児・新生児への愛着促進の効果」 研究経費: 4,030千円 研究内容: 妊婦自身の愛着体験により、胎児から継続して乳幼児期の愛着の変化について、妊娠期から産後にかけて行う歌唱により明らかにする。歌唱による心理変化として、妊婦や母親自身が感じる肯定的感情の変化、うつや不安などが軽減する効果があるのか、対照群と比較して検討する。本研究は、歌唱を母子愛着増進への助産ケアと位置付ける意義があると考えられる。 (共同研究者: 宮本雅子、西頭知子、石上浩美) 担当部分: 研究代表者、研究統括、研究計画、調査計画、調査の実施、データ入力、分析、学術集会、論文の発表。
「総説」 なし 「国際学会発表」				

1.Changing of mood status following singing sessions among Japanese pregnant women. (日本人妊婦の歌唱セッションにおける気分の変化) 〔示説発表〕	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	日本人妊婦が歌唱を伴うセッションを経験することに伴う気持ちの変化について、MCL-S.2 (気分調査票-短縮版2) を使用し信頼性を評価した。88人の初産婦を分析対象として、MCL-S.2の3つの下位尺度について歌唱セッションの前後を比較した結果、セッション後に「快感情」「リラクセス」因子は有意に高くなり、「不安感」因子は有意に低下した。さらに、MCL-S.2とPCS (妊娠期快適性尺度) の基準関連妥当性は「快感情」「リラクセス」因子で中程度の正の相関を認めた。「不安感」因子はCronbach's α 係数が0.807と高い内的整合性を認めた。したがって、日本人妊婦が歌唱をすることにより快感情などの肯定的感情が高まる傾向を見出した。MCL-S.2は、日本人妊婦の歌唱の気分の変化について信頼できる指標であることが明らかになった (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、データ入力、分析、学会抄録、発表原稿、資料の作成を担当。
2.Role of active sexual education in changing high school students' feelings towards oneself and others. (高校生の参加型性教育後の自己への感情の変化) 〔示説発表〕	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	高校生の参加型性教育前後の性の知識と自己への感情を知ることが研究目的として、大阪府内の15～16歳の日本人高校生に、生命誕生と性のリスク予防の講義、子育て体験、性行動に関するラベルグルーピングの3つのコースを含む性教育を実施した。分析対象者は322人であった。教育後に、自分を尊重する感情が有意に高くなっていた ($p = .000$)。自分と同じように相手を大事に思う感情が有意に高くなっていた ($p = .015$)。肯定的な自己への感情は、高校生では性対処の能力につながると考える。性教育は、知識だけではなく参加し、命について考え表現することが大切である。 (共同研究者：宮本雅子、但馬まり子、赤井由紀子、山本智津子) 担当部分：研究計画、データ入力、分析、学会抄録、発表原稿、資料の作成を担当。
3.Sexual awareness and education of high school students. (高校生の性への認識と性教育) 〔示説発表〕	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	性教育の示唆を目的として、1754人の高校3年生を分析対象として、高校生の性に関する知識について調査を実施した。性行為に対して、高得点の高校生は有意に「リラクセスできる、感情を高める、愛情表現、喜び」と回答していた。一方、低得点の高校生は「性行為には関わっていない」と回答する傾向にあった。男子は、性行為に対し肯定的で多方面からの対処を受け入れるのに対し、女子は不快で痛いものと認識する傾向であった。性教育は、ジェンダーの相違を考慮し、女子では性を肯定的になれるよう適切な段階をふみながら実施することが必要である。 (共同研究者：赤井由紀子、中島敦子、但馬まり子、宮本雅子、名草みどり、山本智津子、穂迫享子、徳重あつ子、竹中泉、坂口京子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4.Father's involvement during antenatal and postnatal periods: a systematic review of mixed study methods. (妊娠中と産後における父親の関わり：マルチメソッドにおけるシステマティックレビュー) 〔示説発表〕	共著	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (香港)	妊娠期と産後の夫への助産介入に関する文献より、ケアによる心理効果や父親役割向上に関する効果について検討した。国内外の1680文献より8文献を抽出し、RCT4文献、質的研究4文献を分析し、質的に統合した。その結果、RCTからは妊娠早期から始める教育的介入は、夫の不安を軽減する効果があり、質的研究からは、多くの夫が十分な情報や知識が不足し、妊娠・出産・育児の場面にいても関わりを持っていないことが明らかになった。本文献検討から、夫への妊娠早期からのケア介入の必要性と、知識や父親役割遂行に必要な十分な知識提供が課題となった。 (共同研究者：宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。

5.Problems relating to dual caring roles in working women in Japan. (我が国の就労女性のダブルケアに関する課題) [示説発表]	共著	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (香港)	就労女性がダブルケアを両立するための支援について、日本の動向を知り、今後の研究課題を明確にするために文献検討を行った。医学中央雑誌より1999年～2015年の原著論文のうち、ダブルケアに関するものは0件であった。「就労女性」の「介護」と「子育て」に関する文献は14文献あり、これらの文献の評価方法、結果を年代別に整理した。その結果、就労女性が介護と子育てを両立するための支援へとつなげる知見が必要であるが、サンプル数も少なく、負担面に注目したものが多かった。今後、検討を加えていく必要があると考える。 (共同研究者：堀川尚子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
6.Positive effect of singing on pregnant women's mood and feelings. (妊婦の歌唱による気分と感情の肯定的効果) [示説発表]	共著	2017年6月	31st ICM Triennial Congress (カナダ／トロント)	本研究は、妊娠期における歌唱クラスと毎日の歌唱の継続による気分や感情の変化について調査することを目的とした。質的記述的研究を実施した。妊婦を対象とした90分の歌唱クラスを月に1～3回実施し、5人の妊婦が参加した。その後約4週間の毎日の歌唱と記述を継続した。歌唱直後の記述データの分析から「快感情 (29)」、「リラクセス (17)」、「ストレス軽減 (12)」、「歌への意欲向上 (10)」、「胎児への関心 (8)」、「回顧 (4)」の6つの主なカテゴリが得られた。毎日の歌唱日記の分析から上記に加え「胎児への意識向上 (15)」、「活気 (8)」、「ストレスと疲労の軽減 (6)」の3カテゴリが新たに抽出された。本研究の結果より、妊娠期に歌唱することは妊婦の肯定的感情を高める可能性が示唆された。妊娠期の歌唱は、重要な助産ケアの質提供のアプローチとして考慮する必要がある。 (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。
7.Importance of Japanese midwifery education in assisting alternative birth positions on the second stage of labour. (分娩第2期の分娩体位に関する日本における助産師教育の重要性) [示説発表]	共著	2017年6月	31st ICM Triennial Congress (カナダ／トロント)	本研究は、分娩第2期のフリースタイル分娩の介助に関する助産ケアの重要性に関して、日本における助産師教育の重要性について検討する。367人の助産師を対象に、2007年に自記式質問紙法による調査を実施した。フリースタイル分娩の介助は、1986年ごろの助産師学校卒業生より経験していた。フリースタイル分娩の介助を行っている施設の助産師のうち、助産師学生時代にフリースタイル分娩の教育を受けた経験の有無と、促進・導入の意思に有意差を認めた。産婦の分娩体位の選択を促進していくためには、助産師教育において仰臥位以外の分娩体位の理論と技術が必要とされる。 (共同研究者：宮本雅子、赤井由紀子、但馬まり子、穂迫享子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。
8. A literature review of respiratory changes and singing in pregnancy (妊娠期における呼吸機能と歌唱に関する文献検討) [口頭発表]	共著	2020年1月	The 23rd East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (タイ／チェンマイ)	本研究は、妊娠期における呼吸機能の変化と、歌唱時の呼吸機能と変化について、文献学的に検討し、妊婦が歌唱する場合の利点や問題点を明らかにすることを目的とした。電子データベース；医中誌、MEDLINE、CINAHLより検索した文献からテーマに関連する文献を28件抽出し、妊娠期の呼吸機能について3文献、歌唱時の呼吸機能と変化について3文献、妊婦の歌唱時の呼吸機能に関する文献2件（ケーススタディ）を分析した。その結果、妊娠期に歌唱を行うことで、肺活量に変化はなく、上昇する横隔膜により、吸気で胸郭の前後左右に拡大すること、残気量が増えること、過呼吸発作を起こしにくいこと、オキシトシンの分泌により多幸感を得ることなどの利点があった。今後、妊娠期の歌唱を推進するための根拠となる結果を得ることができた。 (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子、西頭知子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、学会抄録、発表原稿・資料作成を担当、
「国内学会発表」				

1. フリースタイル分娩の介助に対する病院勤務助産師の体験と思い 〔口頭発表〕	共著	2014年8月	第45回 日本看護学会学術集会 (熊本市)	病院勤務助産師のフリースタイル分娩の介助経験での思いや、フリースタイル分娩の利点、欠点に関する質問紙の自由記載の内容分析を実施した。その結果、利点の多くは産婦の安楽や主体的なお産となること、満足感が得られることを記述していた。それと同時に助産技術への不安を挙げていた。欠点として、胎児心拍聴取困難や業務や環境面について記述していた。今後のフリースタイル分娩の普及や継続には、助産技術の教育や評価、スタッフ間の意思統一や人員確保が課題となった。 (共同研究者：宮本雅子、但馬まり子、赤井由紀子) 担当部分：研究計画、分析、学会抄録、発表原稿、資料の作成を担当。
2. 中学2年生に対する性教育授業の実践報告－授業前後の中学生の性知識の状況－ 〔示説発表〕	共著	2014年8月	第45回 日本看護学会学術集会 (熊本市)	中学2年生を対象として、パワーポイントの講義とグループワークを取り入れた授業を実施した。授業前後に実施した質問紙調査の結果では、実施後に90%以上が講義内容を理解できたと答えていた。本結果より、性の知識に関して中学生の意識に残るような効果的な性教育の必要性が示唆された。今後は性教育を実践する機会を増やし検討を加えていくことが課題となった。 (共同研究者：但馬まり子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3. 妊娠中期以後の妊婦のケアへの関心と気分・感情との関連－POMS尺度を用いて－ 〔示説発表〕	共著	2016年11月	第47回 日本看護学会学術集会ヘルスプロモーション (津市)	本研究は、妊婦の肯定的感情を促進するケアにつなげるために妊婦の興味・関心のあるケア、および妊婦自身が気分の変化への対処として実施しているケアと気分・冠状との関連について明らかにすることを目的として実施した。初妊婦209名のうち、有効回答が得られた125名を分析対象とした。その結果、心身症状として最も多いのが「疲れやすい」であり、「妊婦体操・ヨガ・呼吸法・リラクセス法」などのケアに関心を持っていた。「胎教や音楽」への関心も認めた。エクササイズを行っている妊婦はPOMSの「活気」因子が有意に高く、音楽鑑賞や歌唱する妊婦は「疲労」因子が有意に低下した。今後は、ケアの実施効果を研究することが課題となった。 (共著者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、データ収集、共著者とともに内容分析の実施、ポスター作成を担当した。
4. 性別にみた高校生の性に関する理解と性教育の在り方の検討 〔示説発表〕	共著	2016年11月	第47回 日本看護学会ヘルスプロモーション (津市)	本研究は、高校1年生974名を対象に性に関する理解について思春期教室実施前後に質問紙調査を行い、847名の有効回答について分析した。その結果、思春期教室後の性に関する理解が高く、その効果に性差は認められなかった。パワーポイントを用いた講義後に、育児体験や出産体験・妊婦体験など演習が理解に対するうかをあげたといえる。その後の知識の定着については今後の課題となった。 (共著者：徳迫享子、但馬まり子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5. 妊娠期から産褥期の母親による歌唱の胎児・新生児への愛着促進の効果 (1) 〔ラウンドテーブル〕	共著	2023年3月	第34回 日本発達心理学会 (大阪府)	本研究は、妊娠中期以後産後にかけて、子守歌やわらべうたなど子どもをイメージする歌を題材に、継続的に「歌いかける」ことによる、母子間の愛着形成効果、および助産師などによる教育的支援の効果を明らかにすることを目的とした。妊娠期の出産準備教育における歌唱実践事例報告および研究計画経緯を発表したのち、歌唱行為の意義、歌唱と子育ての支援の関係について討論を行った。 (共著者：石上浩美、宮本雅子、西頭知子)

6. 母親の子どもへの「歌い聴かせ」による愛着促進効果について 〔ラウンドテーブル〕	共著	2016年11月	第35回 日本発達心理学会 (大阪府)	本研究は、産後の母親が子どもに「歌いかける」行為により、感情変化と母子間愛着形成について、現在継続中であるインタビュー調査結果を発表した。3名の母親の調査から、「歌い聴かせ」を行うことにより、子どもの反応から母子相互作用を示す行為が語られていた。また、子どもが肯定的反応を示すと母親も肯定的な感情が生じていた。今後は、母子間愛着形成との関連性について、量・質ともに研究を続行する。 (共著者：石上浩美、宮本雅子、西頭知子、入江真理)
---	----	----------	---------------------------	---

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書		
令和 6 年 3 月 31 日		
氏名 井上 葉子		
研 究 分 野	研究内容のキーワード	
地域看護学	公衆衛生看護、在宅看護	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
白鳳女子短期大学における授業実践	平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月	学生が看護の実際をイメージできるよう映像教材や実際の事例等を用いた授業を行った。さらに参加型・体験型の授業展開を中心とし、毎時間、具体的な事例を通して考えさせる学習形態を取り入れることで、学生の看護実践力を高め、理解力を深めることができるように工夫した。特にこれからの看護に求められるケアマネジメントの視点を養うために、グループワークとポスターセッションを行い、学生同士の学びを深めるように工夫して授業を行った。
奈良学園大学における授業実践	平成 27 年 9 月～ 現在に至る	奈良学園大学で学生が看護実践をイメージできるよう映像教材や実際の事例等を用いた授業を行っている。ICT機器活用による教育プログラムの実践（オンライン授業と対面式授業の併用）や、グループ活動を活用し、学生の理解力等が深まるように工夫を重ねている。また参加型・体験型の授業展開を中心とする学習形態を取り入れることや具体的事例を基に考えさせる実践的授業展開を心がけることで、学生の看護実践力・理解力を深めることができた。さらに、今まで継続してきた、毎時間学生に授業の感想を含む、小テストやレポートを実施し、次の週には学生全員に教師のコメント等の評価をフィードバックすることで、学生一人一人に適した双方向での個別指導も重ねている。
2 作成した教科書、教材		
在宅看護論実習の手引	平成 26 年 4 月	白鳳女子短期大学看護学専攻「在宅看護論実習」（3年次配当）において、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習内容と方法、思考過程、記録をする際の留意点、実習心得などについてまとめた冊子を作成した。

成人看護実習Ⅰ（急性期・周手術期）実習記録用紙ガイドライン	平成 29 年 4 月	成人看護学Ⅰ（急性期・周手術期）において、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習内容と方法、思考過程、記録をする際の留意点などについてまとめた冊子を作成した。
成人看護学の動画教材：「一次救命（病室編）」、「一次救命（廊下編）」、「段階的離床」	平成 29 年 11 月	成人看護学の学内演習・臨地実習時のイメージがつくように、心肺蘇生法、AED の使用方法、緊急時の協力要請、手術後の段階的離床についての動画教材を作成した。
健康保育学演習（家庭看護実習含む）ワークシート	令和 2 年 3 月	大阪教育大学で開講している健康保育学演習（家庭看護実習を含む）において、人間の健康の概念をふまえて子どもの成長発達と生活を理解し、家庭と集団保育の場で必要な知識と技術について具体的な学習内容についてまとめた冊子を共同で作成した。 著者名：関谷まり・井上葉子
健康教育用動画教材：「笑って健康に ラフターヨガ」	令和 2 年 12 月	保健師の保健活動の一つである健康教育用のデジタル教材として、「ラフター（笑い）ヨガ」の楽しみ方、注意事項、始まりと終わり、セッション例をわかりやすく伝達できるよう工夫して作成した。
奈良学園大学 公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）実習要項	令和 3 年 3 月～ 現在に至る	専門科目「公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）」（4 年次配当）で、科目責任者として実習目的、実習目標、具体的な学習内容と方法などについてまとめた冊子を作成した。
バーチャルリアリティ教材：校内巡視の実際	令和 3 年 6 月	全天球カメラ「RICOH THETA」（株式会社リコー）を用いて実習校内を撮影し、①校門・玄関・各教室、②手洗場・トイレ、③体育館・運動場・足洗場、④保健室の 4 種類を各 5 分程に編集し作成している。臨地実習で体験する学校環境衛生活動の一環である校内巡視の経験を補完するための教材として作成し、校内巡視のポイントと観察する視点と方法を学校現場に居るような感覚を持って繰り返し学習できるものとなっている。
動画教材：乳児家庭訪問と身体計測	令和 3 年 9 月	保健師が行う乳児家庭訪問の方法について、コミュニケーション、情報収集、身体計測、保健指導を具体的に理解でき、看護技術の習得ができるよう工夫した動画教材を作成した。

動画教材：「キラリ☆多奈良の保健師」	令和 3 年 10 月	奈良県看護協会ならびに奈良県看護協会保健師職能委員会と本学との共同で、奈良県下で活躍する保健師の活動を紹介する PR 動画を制作した。保健師の仕事の魅力とやりがいについて、学生や一般の方にもわかりやすく伝えることができるよう、写真や音楽等を工夫して作成した。
動画教材：「保健師を目指すあなたへ」	令和 3 年 10 月	奈良県看護協会ならびに奈良県看護協会保健師職能委員会と本学との共同で、奈良県下で活躍中の現役保健師 2 名のインタビュー動画を制作した。保健師の仕事の魅力とやりがいについて、学生にわかりやすく伝えることができるよう工夫して作成した。
動画教材：「在宅療養生活を送る難病患者と家族-ALS 患者 N さんと家族の暮らしー」	令和 4 年 11 月	在宅で療養生活を送っている ALS 患者と家族へのインタビュー動画を制作した。①PC や文字盤を用いたコミュニケーション方法、②胃瘻の管理と経管栄養の方法、③リフトを用いたベッドから車いすへの移動の様子、④病に関する本人と家族の思いの 4 種類を制作した。学生が難病の対象と生活についてわかりやすく理解できるよう工夫して作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
白鳳女子短期大学 FD 委員会	平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月	講義最終回において大学が作成した授業アンケートを実施したところ、話の分かりやすさ、授業の内容のわかりやすさ、板書や資料のみやすさ等すべてにおいてわかりやすかったという結果であった。単独での講義実施だったため、自信につながった。
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月	2020 年度授業アンケートでは、話の聞き取りやすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。単独での講義実施だったため、自信につながった。
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月	2021 年度授業アンケートでは、話の聞き取りやすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和 4 年 4 月～令	2022 年度授業アンケートでは、話の聞き取り

	和 5 年 3 月	やすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 28 年度研修会	平成 28 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 28 年度研修会「乳幼児の運動発達の観察のポイントと支援」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 28 年度交流会	平成 28 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 28 年度交流会「思春期保健対策～若年妊婦へのアプローチを考える～」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 29 年度研修会	平成 29 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 29 年度研修会「妊産婦のメンタルケアの重要性～チームでの育児支援～」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 29 年度交流会	平成 30 年 2 月	日本看護協会による平成 29 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング開催にあたって、委員として、奈良県保健予防課、保健所、保健センターと協力し、企画、運営を担当した。
日本看護協会平成 29 年度保健指導支援事業 奈良県看護協会「保健指導ミーティング」事例検討会 ファシリテーター	平成 30 年 2 月	日本看護協会による平成 29 年度保健指導支援事業保健指導ミーティングにおいて、事例検討会のファシリテーター役として、保健指導ミーティング（事例検討会）参加者の新人保健師の意見が活発にできるように雰囲気作りやきっかけ作りに努め、とても勉強になったとの参加者の感想が聞かれた。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 30 年度研修会	平成 30 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 30 年度研修会「各々の力を発揮できる子育てネットワークを考える～専門職それぞれの強み・弱みをふまえた支援の在り方～」開催において委員として、研修内容の企画、講師との調整、運営を担当した。 参加者からは、看護職それぞれの支援の方向性や取り組みが聞けてよかった等の感想が聞かれた。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 30 年度交流会	平成 30 年 11 月	日本看護協会による平成 30 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング開催にあたって、委員として、奈良県保健予防課、保健所、保健センターと協力し、企画、運営を担当した。

奈良県看護協会 保健師職能委員会 令和元年度研修会	令和元年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による令和元年度研修会「育てにくさを抱えた親子への包括的支援～ダウン症児の赤ちゃん体操を通して考える療育支援～」開催において委員として、研修内容の企画、講師との調整、運営を担当した。 参加者からは、親と子への支援の在り方や実際の取り組みが聞けてよかった等の感想が聞かれた。
生駒市立生駒北小中学校育友会 保護者交流会 講師	令和元年 6 月	小中学校の PTA 活動の一環として保護者を対象にした文化交流活動「ラフターヨガ教室」の講師役を担い、笑いと健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った。
奈良県健康推進課主催 令和元年度保健指導ミーティング ファシリテーター	令和元年 11 月	令和元年 11 月奈良県が現任保健師の研修として開催した保健指導ミーティングにおいてファシリテーター役を務め、保健師のアセスメント力向上に向けた支援を行った。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 令和元年度交流会	令和元年 12 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による令和元年度交流会「私の保健師だから～保健師の楽しさ再発見～」開催にあたって企画、講師依頼、運営を担当し、行政、産業等職域を越えたネットワークづくりを目指して活動した。
令和 2 年度奈良県看護学会 座長	令和 2 年 12 月	令和 2 年 12 月 8 日 奈良県橿原市で開催の令和 2 年度奈良県看護学会の演題発表第 1 群の座長役を担った。
介護予防講座「元気アップなら講座」講師	令和 3 年 11 月	奈良市二名地域包括支援センターが主催する介護予防講座「元気アップなら講座」において、地域の高齢者を対象にテーマ「笑いと健康」の講演を行った。参加者 42 名に笑いと健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った
志賀直哉旧居 奈良学園公開文化講座 講師	令和 5 年 11 月	学校法人奈良学園志賀直哉旧居が主催する奈良学園公開文化講座の講師として「笑いと健康」の講演とラフターヨガの実践を行った
フレイル予防教室 講師	令和 5 年 11 月	大和郡山市第三地域包括支援センターが主催するフレイル予防教室「健康長寿ための健康づくり講座」において、地域の高齢者を対象にテーマ「ラフターヨガで楽しくエクササイズ」の講演を行った。参加者 30 名に笑いと健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った。

5 その他 奈良学園大学 平成 28 年度課程選択履修者選抜問題作成委員	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択履修者選抜問題作成を担当し、作問、作問審議等の任を担った。
奈良学園大学 平成 28 年度課程選択履修者選考資料作成委員	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択履修者選抜試験における採点、採点結果一覧表等の資料作成、選考会議に向けた原案作成等の任を担った。
奈良学園大学 平成 30 年度課程選択履修者選考資料作成委員	平成 29 年 11 月～ 平成 30 年 3 月	保健医療学部看護学科 看護師・保健師課程選択履修者選抜試験における採点、採点結果一覧表等の資料作成、選考会議に向けた原案作成等の任を担った。
奈良学園大学 2019 年度看護師・保健師課程選択者選抜試験実施委員	平成 30 年 12 月～ 平成 31 年 3 月	保健医療学部看護学科 2019 年度看護師・保健師課程選択者選抜試験の実施及び選考資料作成の任を担い、作問における採点、採点結果一覧表等の資料作成等を行った。
奈良学園大学 看護師・保健師課程選択者選考委員	令和 1 年 12 月～ 現在に至る	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択者選考の任を担い、選考、作問、作問審議、採点、採点結果一覧表等の資料作成等を行った。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許 看護師免許	平成 4 年 5 月 13 日	
養護教諭一種免許	平成 6 年 3 月 31 日	
保健師免許	平成 6 年 5 月 19 日	
第一種衛生管理者免許	平成 6 年 8 月 10 日	
受胎調節実地指導員免許	平成 8 年 2 月 24 日	
修士（学術）	平成 25 年 3 月 22 日	大阪教育大学 第 109702 号 修士論文題「看護専門学校学生の生活経験からみた看護技術力に関する研究 ―療養上の世話に関する看護技術に着目して―」
Laughter Yoga Leader	平成 29 年 6 月 11 日	
日本心理学会 認定心理士	平成 30 年 4 月 21 日	

Laughter Yoga ambassador	令和元年 7月5日			
思春期保健相談士	令和6年 1月8日			
2 特許等				
特記事項無し				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 奈良県看護協会 ナースセンター事業推進委員	平成28年4月～ 平成29年3月	奈良県看護協会ナースセンター推進委員として看護職の復職支援、看護学校ガイダンス、看護職のPR活動に従事した。		
奈良県看護協会 保健師職能委員会委員	平成28年4月～ 令和2年3月	奈良県看護協会保健師職能委員として研修会の企画、保健師職のネットワーク作りに活動している。		
生駒市 PTA 協議会 理事	平成29年4月～ 令和元年6月	理事として生駒市内の教育について他の理事や役員とともに話し合い、よりよい教育を目指し活動した。		
奈良県看護協会 奈良県看護学会委員会 副委員長	令和2年4月～ 令和3年3月	奈良県看護協会 常任委員会 教育研究委員会の下部組織である奈良県看護学会委員会の副委員長として学会の運営活動に携わった。		
奈良県看護協会 奈良県看護学会委員会 委員長	令和3年4月～ 令和4年3月	奈良県看護協会 常任委員会 教育研究委員会の下部組織である奈良県看護学会委員会の委員長として学会の運営活動に携わった。		
4 その他 令和3年度奈良県看護協会会長表彰	令和3年4月	保健師として「長年にわたる看護業務の遂行ならびに奈良県看護協会活動に貢献し、看護教育・学術研究に顕著な功績があった者」として奈良県看護協会より表彰された。		
令和3年度奈良県看護功労者知事表彰	令和3年4月	奈良県において長年にわたり看護業務に精励し、顕著な功績があった者として奈良県知事より表彰された。		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 看護師国家試験直前 社会福祉学領域ファイナル チェック	共著	令和3年 3月	株式会社金芳堂	看護師国家試験科目の「社会福祉学」領域について、看護師国家試験出題基準に沿った内容構成で、看護師国家試験合格のための学力向上の支援が図れるものとなっている。 担当部分：社会保障制度の動向 p14-p16、民生委員・児童委員とは p30-p31

				星野政明監修、守本とも子・富永堯史編著、執筆：井上昌子、 <u>井上葉子</u> 、小林由里、齋藤英夫、佐藤郁代、芝田ゆかり、高橋寿奈、田場真理、中馬成子、辻下守弘、富永堯史、西出順子、西本美和、野口寿美子、松居典子、松浦純平、三浦康代、美甘祥子、守本とも子、吉水清、吉村雅世
2 解いて、わかる！覚えて合格！看護の統合と実践/健康支援と社会保障制度問題集 2021 年 看護師国家試験対策 第 97 回～109 回看護師国家試験	共著	令和 2 年 12 月	株式会社ピラールプレス	看護師国家試験科目の「看護の実践と統合」「健康支援と社会保障制度」について、看護師国家試験出題基準の中項目に基づく過去問題の要点の学びから知識を広げたり深めたりしながら、看護師国家試験合格のための学力向上の支援が図れるものとなっている。 執筆：三浦康代、芝田ゆかり、 <u>井上葉子</u> 、佐藤郁代、松村あゆみ、齋藤英夫 担当部分：災害と看護、公衆衛生における感染症と対策、母子保健、難病保健、生活者の健康増進
3 出題基準平成 30 年版 準拠 2021 年出題傾向がみえる健康支援と社会保障制度 中項目別にみた要点と解説付過去問題集 予想問題・第 97 回～第 109 回看護師国家試験問題収録	共著	令和 2 年 10 月	株式会社ピラールプレス	看護師国家試験科目の「健康支援と社会保障制度」について、看護師国家試験出題基準の中項目に基づいた要点編と過去問題編の 2 部構成とし、過去問の要点の学びから知識を広げたり深めたりしながら、看護師国家試験合格のための学力向上の支援が図れるものとなっている。 担当部分：⑧公衆衛生における感染症 p76-91, p161-162、 ⑩母子保健 p90-92, p168-169、難病保健 p101-102, p175-176、 ⑪生活者の健康増進 p103-112, p177-182 監修：守本とも子、編著：三浦康代 執筆：三浦康代、芝田ゆかり、 <u>井上葉子</u> 、佐藤郁代、松村あゆみ、齋藤英夫

4 出題基準平成 30 年版 準拠 2021 年出題傾向がみ える看護の統合と実践 中項目別にみた要点と解 説付過去問題集 予想問 題・第 98 回～第 109 回看 護師国家試験問題収録	共著	令和 2 年 8 月	株式会社ピラールプレ ス	看護師国家試験科目の「看護の統合と実 践」について、看護師国家試験出題基準 の中項目に基づいた過去問題と過去問 の要点の学びから知識を広げたり深め たりしながら、看護師国家試験合格のた めの学力向上の支援が図れるものとな っている。 担当部分：②災害と看護 p35-41, p75-80、 監修：守本とも子、編著：三浦康代 執筆：三浦康代、 <u>井上葉子</u> 、佐藤郁代
5 健康保育学演習（課程 看護実習含む）ワークシ ート	共著	令和 2 年 3 月	大阪青山大学 健康科学部	大阪教育大学で開講している健康保育 学演習（家庭看護実習を含む）で使用す るテキストを共同で作成した。人間の健 康の概念をふまえ子どもの成長発達と 生活を理解し、家庭と集団保育の場で必 要な知識と技術について具体的な学習 内容についてまとめた。 担当部分：子どもの歯の発達とケア p15-p18 関谷まり編著 著者：関谷まり・ <u>井上葉子</u>
6 2018 年看護師国家試 験対策要点がわかる出題 傾向がみえる在宅看護論	共著	平成 29 年 12 月	株式会社ピラールプレ ス	看護師国家試験科目の「在宅看護論」に ついて、看護師国家試験出題基準の中項 目に基づいた要点編と過去問題編 の 2 部構成とし、過去問の要点の学びか ら知識を広げたり深めたりしながら、看 護師国家試験合格のための学力向上の 支援が図れるものとなっている。 担当部分：目標Ⅰ 在宅における安全と 健康危機管理 p22-p24、目標Ⅱ4 在宅療 養生活を支える看護（食事・栄養、排泄、 清潔、移動）p35-p37、目標Ⅲ6 在宅療養 において特徴的な疾病がある療養者へ の看護（小児、難病）p42, p45、7 在宅に おける医療管理を必要とする人と看護 （膀胱留置カテーテル、褥瘡管 理）p48, p51-p52 守本とも子監修、安藤邑恵編著、川口ち づる、 <u>井上葉子</u>

(学術論文)				
1. 在宅看護論における生活経験の重要性を再認識するための授業実践—ワークショップを用いた教育プログラムの検討— (査読付)	単著	平成 27 年 2 月	白鳳女子短期大学研究 紀要 第 9 巻, P47～54	短期大学看護学専攻学生 2 年生 122 名を対象に、生活経験を再認識するための講義とワークショップを組み合わせた授業実践を行い、学生の認識の変化と教育的効果について検討した。
2. 避難生活体験とポスターセッションを取り入れた学内演習の実践と評価—生活環境を主体的に理解することを目指した在宅看護論の授業展開—	共著	平成 28 年 1 月	大阪教育大学家政学研究会「生活文化研究」 第 53 巻, P57～67	短期大学看護学専攻学生 2 年生 122 名を対象にした、在宅看護論の学内演習での避難生活環境の体験演習の学習効果と、体験演習の学習のまとめとしてポスターセッションを活用したことによる共同学習の効果と課題を検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：関谷まり・ <u>井上葉子</u> ・碓田智子
3. 訪問看護ステーション実習での看護計画立案による学習効果について—実習目標の到達度の比較からの分析— (査読付)	共著	平成 28 年 4 月	第 46 回日本看護学会論文集 看護教育 P23～26	3 年課程の看護専門学校 3 年生 36 名を対象に、訪問看護ステーション実習において、看護計画立案の有無によって学習効果に違いがあるかどうかを質問紙調査の結果から比較検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：西村和子・田村和子・ <u>井上葉子</u> ・松村あゆみ・北畠昭弥・北出千春
4. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第 1 報】—授業振り返りシートの分析から— (査読付)	共著	平成 30 年 2 月	第 48 回日本看護学会論文集 看護教育 P3～6	在宅看護論において実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」について、授業振り返りシートの記載内容を分析し難病患者の就労支援の内容を看護基礎教育に組み入れたことによる学習の効果を検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：西村和子・ <u>井上葉子</u> ・松村あゆみ

5. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第2報】—クローン病の事例を用いたワークシートの分析から— (査読付)	共著	平成30年 2月	第48回日本看護学会論文集 看護教育 P7～10	看護専門学校2年生の学生を対象に在宅看護論の授業で『職業生活を支援する看護』のモデル授業での難病患者のクローン病患者の事例ワークシートの分析から学生が難病患者の生活について就労を含めた視点で理解することについての学習効果について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：松村あゆみ・ <u>井上葉子</u> ・西村和子
6. 臨地実習における看護学生のストレスとレジリエンスについての実態 (査読付)	共著	平成30年 2月	第48回日本看護学会論文集 看護教育 P75～78	看護専門学校学生2年生を対象に時期の異なる2つの臨地実習前後で調査した、気分プロフィール検査(POMS2)とストレス自己統制評定尺度(SSI)の2つの調査結果を基に、学生個別のストレス反応とレジリエンスの状態の変化を把握し、学生個々への適切な介入方法の必要性について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：山崎陸世・平山亜矢子・ <u>井上葉子</u> ・丸田裕子・高原 恵・後藤 恵・岡田和江・葦原佐衣・加納由紀子
7. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第3報】—闘病記の感想文の分析から—	共著	平成30年 3月	奈良学園大学紀要 第8集 P13～19	在宅看護論において実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」の課題としての、難病患者による就労についての闘病記を読んだ感想文の分析から教材として闘病記を用いたことによる学習の効果を検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名： <u>井上葉子</u> ・西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・駒井由美子・大谷未来
8. 臨地実習における看護学生のレジリエンス育成に関する文献研究 (査読付)	共著	平成31年 2月	第49回日本看護学会論文集 看護教育 P75～78	臨地実習における学生のレジリエンス育成に関する文献検討を行い、個別支援のあり方について検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：山崎陸世・ <u>井上葉子</u> ・平山亜矢子・葦原佐衣・後藤 恵

9. 2019 第22回東アジア看護学研究者フォーラムの報告（Ⅱ）－炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する文献検討－ A Report on 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019 Part 2 –Study of literature on life skills that focus on eating habits of patients with inflammatory bowel disease－	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学紀要第 11 集 P207～210	炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。 著者名：井上葉子・芝田ゆかり・吉水清・三浦 康代
10. 2019 第 22 回東アジア看護学研究者フォーラムの報告（Ⅰ）～文献検討による女性の身長短縮に関連する因子および因子間の関連～ A Report on 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019 (Ⅰ) ～ Association among the factors in conjunction with Height Loss of females by the literature review～	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学紀要第 11 集 P211～215	身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。 著者：三浦 康代・芝田 ゆかり・吉水清・井上 葉子
11. 療養者の生活への視点をもった技術習得のための看護技術教育の実践と評価－ベッドメイキング技術に着目して－	共著	令和 2 年 3 月	大阪教育大学家政学研究会「生活文化研究」第 57 巻, P1～10	A 大学看護学科 1 年生 91 名を対象にしたベッドメイキングの看護技術試験での評価に関して学生の自己評価と教員評価の比較から技術習得を左右する要因について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：関谷まり・井上葉子・碓田智子
12. 要介護者が暮らす住環境を理解することを目指した住居の見取り図作	共著	令和 2 年 3 月	医療福祉情報行動科学研究 vol.7 P11～16	短期大学看護学専攻学生 2 年生 115 名を対象にした、在宅看護論の学内演習での要介護者が暮らす住居の見取り図の作

成による学習効果の検討 (査読付)				成と見取り図を用いたポスターセッションを活用したことによる学習効果と課題を検討した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 著者：井上葉子・西村和子・松村あゆみ
13. 看護教員の難病患者の就労支援に対する意識調査に関する研究 (査読付)	共著	令和3年 3月	日本保健医療行動科学 会雑誌 第35巻 第2号 P23-29	看護教員129名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての教育の実情を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者：井上葉子・松村あゆみ・内田勇人
14. 難病患者の就労に関する闘病記による学生の学び —学生の感想文の分析から— (査読付)	共著	令和3年 3月	医療福祉情報行動科学 研究 vol.8 P115～121	公衆衛生看護学方法論Ⅰにおいて実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」の課題として、難病患者の就労についての闘病記を読んだ学生の感想文の分析から教材として闘病記を用いたことによる学習の効果を検討した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 著者：井上葉子・西村和子・内田勇人
(その他) 1. 看護学生による災害看護演習の評価に関する考察 —避難生活の看護活動を考える演習について—	—	平成27年 8月	第17回日本災害看護学会 (於 宮城県仙台市)	短期大学看護学専攻学生2年生122名を対象にした、在宅看護論における避難生活体験を題材とした演習の方法と学習効果について検討した。 共同発表者：関谷まり・井上葉子 抄録集 P.160

2. ポスターセッションを活用した在宅看護論演習の学習展開―「避難生活支援演習」の実践事例―	－	平成 27 年 8 月	第 46 回日本看護学会― 看護教育― (於 奈良県)	短期大学看護学専攻学生 2 年生 122 名を対象にした、在宅看護論の学内演習での避難生活環境の体験演習の学習効果と、体験演習の学習のまとめとしてポスターセッションを活用したことの効果と課題を検討した。 共同発表者：関谷まり・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 107
3. 訪問看護ステーション実習での看護計画立案による学習効果について―実習目標の到達度の比較からの分析―	－	平成 27 年 8 月	第 47 回日本看護学会― 看護教育― (於 奈良県)	3 年課程の看護専門学校 3 年生 36 名を対象に、訪問看護ステーション実習において、看護計画立案の有無によって学習効果に違いがあるかどうかを質問紙調査の結果から比較検討した。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・田村和子・北畠昭弥・北出千春・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 85
4. 看護基礎教育における難病患者の就労支援に関する教員の認識	－	平成 28 年 10 月	第 75 回日本公衆衛生学会総会 (於 大阪府)	看護専門学校教員 129 名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての認識を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。 共同発表者：西村和子 松村あゆみ 内田勇人 抄録集 P. 539
5. 看護基礎教育における難病看護に関する教育の実態	－	平成 28 年 12 月	第 37 回奈良県公衆衛生学会 (於 奈良県)	看護専門学校教員 129 名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての教育の実情を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・早味妙・駒井由美子・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 7
6. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業効果【第 1 報】―学生による授業振り返りシートの分析から―	－	平成 29 年 8 月	第 48 回日本看護学会― 看護教育―学術集会 (於 香川県)	3 年課程看護専門学校学生 2 年生 77 名を対象に「難病患者の就労支援」を題材として行った授業実践の教育効果と課題について、授業後の学生による「授業振り返りシート」の内容から分析と検討をした。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 148

7. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業効果【第2報】—事例ワークシートからみた学習内容の分析—	—	平成29年 8月	第48回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 香川県)	3年課程看護専門学校学生2年生 77名を対象に「難病患者の就労支援」を題材として行った授業実践の教育効果と課題について授業内で用いた教材「事例ワークシート」の内容から分析と検討をした。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P.149
8. 臨地実習における看護学生のストレスとレジリエンスについての実態	—	平成29年 8月	第48回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 香川県)	3年課程看護専門学校学生2年生 42名を対象に時期の異なる2つの臨地実習の実習前後で、学生のストレス反応とレジリエンスの状態を調査し、その結果からストレス反応とレジリエンスには個別性があり学生の特性を理解した支援の必要性を示した。 共同発表者：山崎陸世・平山亜矢子・丸田裕子・高原恵・佐藤則子・定政美香・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P.114
9. 要介護者が暮らす住環境を理解することを目指した在宅看護論の授業展開—住居の提案とポスターセッションを取り入れた演習の実践と評価—	—	平成30年 8月	第49回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 広島県)	看護短大2年生 122名を対象に、在宅看護論演習において要介護者が暮らす住居の見取り図の作成を行い、授業の学習効果について授業後の学生の学びと感想の内容から分析を行った。学生が積極的な関心を持ち、能動的に学習する上で一定の効果があることが明らかとなった。 共同発表者： <u>井上葉子</u> ・西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・大谷未来・駒井由美子 抄録集 P.86
10. 看護学生のレジリエンスに関する文献研究	—	平成30年 8月	第49回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 広島県)	看護基礎教育における臨地実習での学生のストレスへの対応を方法を検討するため、学生を対象としたレジリエンスの介入方法に関する研究の動向を検討した。 共同発表者：山崎陸世・ <u>井上葉子</u> ・平山亜矢子・芦原佐衣・丸田裕子 抄録集 P.205

11. 在宅看護論実習における事例を用いたグループワークによる学生の学び—使える社会資源を調べるグループワークを実施して—	—	平成 30 年 8 月	第 49 回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 広島県)	3 年課程看護専門学校学生 42 名を対象に在宅看護論実習の最終日に、事例の社会資源を調べる学習を行い、その学習効果を検討した。 共同発表者：西村和子・北出千春・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 206
12. ラフターヨガ（笑いヨガ）の実際と今後の可能性	共著	平成 30 年 12 月	日本保健医療行動科学会雑誌（33）No.2 P46～48	ラフターヨガの実践結果から身体面と精神面への効果について検討した。 共著者： <u>井上葉子</u> ・安藤和子
13. Study of literature on life skills that focus on eating habits of patients with inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する文献検討)	—	2019 年 2 月	the 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). (in Singapore)	炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。 共同研究者：Inouye Y, Shibata Y, Miura Y, Yoshimizu K Abstract No: ABS2427
14. Review of the literatures on factors related to height loss and relationship among the factors (文献検討による身長短縮に関連する因子および因子間の関連)	—	2019 年 2 月	the 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). (in Singapore)	身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。 共同研究者：Miura Y, Shibata Y, Yoshimizu K, <u>Inouye Y</u> Abstract No: ABS2253
15. テキストマイニングを用いた精神看護学実習における学生の学びの分析	—	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会第 32 回近畿・北陸地方学術集会（於 福井県）	3 年課程看護専門学校学生 42 名を対象に精神看護学実習の最終日に提出したレポート「精神看護学実習を終えて」の内容分析を行い実習における学びの内容を検討した。 共同発表者：山崎陸世・溝口みちる・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 43
16. 新型コロナウイルス感染症に関する新しい生活様式における子どもの保護者のたばこに関する意識と喫煙状況 —男女別での比較—	—	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会第 34 回近畿・北陸地方学術集会（於 奈良県）	関東圏と関西圏の子どもの保護者 500 名と対象にした調査を行い、新型コロナウイルス感染症流行による新しい生活様式での喫煙状況とたばこに関する意識の状況から今後の喫煙対策の必要性について検討した。

				共同発表者：井上葉子・関谷まり・松村あゆみ・守本とも子・三浦康代 抄録集 P. 34
17. 大学衛生委員会が作成した新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」（査読付）	共著	令和3年 3月	保健師ジャーナル 2021年 4月号 医学書院 P308～316	大学衛生委員会が作成した教職員と学生を対象とする新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」の作成過程と運用状況についての活動報告を行った。 共著者：三浦康代・井上葉子・松村あゆみ・上梶佳代子・阿波邦彦・森村佳史・島本卓也
18. 子育て世代を対象にしたラフターヨガ体験による心身の変化に関する研究	－	令和3年 3月	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会（於 奈良県）	子育て世代の30歳～40歳代男女6名を対象に50分間のラフターヨガ体験による心身の変化について検討し、ラフターヨガの効果について検討した。 共同発表者：山崎陸世・井上葉子・三浦康代 抄録集 P. 30
19. 看護基礎教育における精神看護学教育の研究の動向について－テキストマイニングを用いた論文タイトルの分析から－	－	令和3年 3月	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会（於 奈良県）	テキストマイニングを用いて「精神看護学」「臨床実習」「看護基礎教育を」キーワードにした論文タイトル268件の論文タイトルを分析し、看護基礎教育における精神看護学教育の研究の動向について検討した。 共同発表者：葦原佐衣・井上葉子・山崎陸世 抄録集 P. 24
20. 大学衛生委員会が作成した新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」	－	令和3年 3月	第61回日本社会医学学会総会（於 大阪府）	大学衛生委員会が作成した教職員と学生を対象とする新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」の作成過程と運用状況についての実践報告を行った。 共同発表者：三浦康代・井上葉子・松村あゆみ
21. Survey on parents' attitudes toward smoking in home life after the law's revision to prevent	－	2022年 1月	The 6th International of Global Network of Public Health Nursing (in Osaka)	日本の健康増進法改正によって強化された受動喫煙防止について、子どもの親500人に対して喫煙に関する意識調査をインターネットによるアンケートで実施した。家庭生活における喫煙について

passive smoking in Japan (日本における受動喫煙 防止のための法改正後の 親の家庭生活での喫煙に 関する意識調査)				の意識を喫煙者と非喫煙者、性別等から 比較検討した。 共同発表者 : <u>Yohko Inoue</u> ・Mari Sekiya・ Yusuke Yamamoto 抄録集 p. 295
22. 学校保健実習におけ るバーチャルリアリティ 教材の開発及び導入の試 み	－	令和 4 年 12 月	第 11 回日本公衆衛生看 護学会学術集会 (於 宮城県)	新型コロナウイルス感染症流行により、 臨地実習が不可能となった学校保健実 習において、バーチャルリアリティ教材 を用いて実習の体験を代替する授業実 践を試み、バーチャルリアリティ教材に よって一定の学習効果があった事を報 告した。抄録集 p. 146

教 育 研 究 業 績 書		
令和 6年 3 月 31 日		
氏名 高橋 寿奈		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学	高齢看護学，看護教育，エイジズム，アドバンス・ケア・プランニング	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 講義と演習授業 白鳳短期大学 非常勤講師 「基礎看護概論」 「基礎看護方法論Ⅰ」 「基礎看護方法論Ⅱ」 「基礎看護方法論Ⅳ」 「基礎看護方法論Ⅴ」 ① P P Pを使用したデジタル教材の作成 ② 演習時に患者の想定がしやすいように、ボディイメージ資料作成使用 ③ 演習時の研究課題資料の作成使用	平成26年5月～ 平成29年3月	白鳳短期大学の非常勤講師として「基礎看護学概論」の授業の一部を担当した。主に看護の変遷として日本の看護や関係法規の歴史変遷、世界の看護の歴史についての授業とテスト作成をした。近代看護の基礎となる事柄や今後の看護の方向性などを写真や経験、ドラマを使って、親しみやすい内容にし、学生が習得しやすいように努めた。（1年次配当、1単位、学生150名） 「基礎看護方法論Ⅰ」の授業を担当した。活動と休息・感染予防・滅菌物品の無菌操作・食と排泄・移動と移乗・効率的な動きの講義を行い、人間が健康に向かうための看護援助の在り方について指導を行った。それぞれの授業で、実際に実技で学生に体験させることにより、よりイメージしやすいように、感染の仕方のモデルや重心変化の仕方の教具の作成を行い、学生に実施させ、わかりやすく習得できるように努めた。 「基礎看護学方法論Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ」（1年次配当各1単位）の演習授業全般について実施し、フィジカアセスメント・看護イグザミネーション技術・点滴・投薬・採血・排泄管理包帯法・ポジショニング・創傷管理・電法の技術について、指導と実技テスト教官を行った。学生がイメージしやすいように研究課題を与え、その課題に沿って資料と実技を行った。学生からは「実践的でわかりやすい」や主体的に実習に臨む様子がみられた。
2) 学内研究発表会指導	平成28年2月	白鳳短期大学の基礎実習Ⅱでの実習指導教員として担当学生の学内研究発表の指導を行った。 主に、日常生活援助での関わり方による対象高齢者の言動の変化についての気づきについて自信をもって発表できるように指導した。学生は「不安だったが内容が整理でき自信を持った発表できたとの評価を得た。
3) 演習授業（学内）	平成29年4月～3月	「老年看護学」学内授業、演習授業のサポートを行っている。老年期の看護展開では、学生の個別指導も行い看護展開成果物の採点を行い、実習での看護展開時に実際に使用できるように補足説明をした。
4) 実習指導（非常勤講師） 「基礎看護実習学Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」 「成人看護学Ⅰ」「成人看護学Ⅱ」 「統合看護学」 「精神看護学」 「老年看護学」	平成26年5月～ 平成29年3月	白鳳短期大学非常勤講師としての実習指導を行った。 統合看護学実習では、要項説明と実習オリエンテーション、実習調整を行った。〔基礎看護学〕では、看護の仕事の実際や病院施設の概要について疑問点などを起こさないように指導した。また学生が達成感が持てるようにそれぞれの学生が苦手とするところの克服できるように配慮しながら行った。根拠をもって看護し、患者に寄り添い、生活者として視点も忘れず、看護の先にあるものについても意識して指導した。 「成人看護学」では急性期・慢性期での成人の療養上における問題について看護性について指導した。学生が、急性期の看護展開のスピードについていけるように、事前課題を確認し不足するところの指導を行った。周手術期の指導では、疾患の理解・術後侵襲・生活や社会人としての患者の役割・精神的な不安なども指導した。 「統合看護学実習」では、要項説明と事前の実習調整も行った。タイムスケジュールを学生が出来るようにあ、学生同士でのカンファレンスを多く持ち、チームで看護を行うことを重視いた指導をした。病院の組織の在り方や他職種連携の重要性や実際についてより多くの経験が出来るように調整配慮した。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
5) 講義と演習授業 奈良学園大学 専任教員 「老年看護学援助論」3年次 必修科目 1単位 15時間 「老年看護学援助論」2年次 必修科目 1単位 15時間 「卒業研究Ⅱ」4年次 必修科目 1単位 15時間 「基礎演習Ⅱ」1年次 必修科目 1単位 15時間 「演習実技指導」 ① P P Pを使用したデジタル教材作成 ② 高齢者の介助時の注意点資料作成 ③ 演習時の研究課題作成と添削 ④ 各授業開始時に前回授業の課題総括と説明・資料作成	平成30年4月～現在	平成30年から「老年看護学援助論」の基本的な高齢者への援助、活動・休息・食事・排泄などの技術全般、浮腫やについての講義と演習を担当した。演習時にはボディイメージと看護をつなぐ資料を作成し、与えた課題研究のもと授業を行った。その振り返りとして、学生自身でグループワークを行い、検討内容を板書説明し、それをさらに解説していく事で内容の理解と定着に努めた。臨地実習前には、学生を個別に基本的な技術指導を行った。 令和3年からは、科目責任者としてシラバスを見直し、授業計画を作成した。基礎看護学実習の直前に終了する科目でもあり、基礎看護学実習と老年看護学援助論がつながるように意識した内容と後世にした。基本的な老年看護学における日常生活の基本活動や転倒リスク、排泄排尿障害やそれらの援助、権利擁護やリスクマネジメント、食事嚥下や口腔ケアの援助について行った。口腔ケアでは、実習時に活用できるように、必要物品や観察項目などを具体的に示せるような課題を作成し、知識の定着と狙った。外部講師との調整を行い歯科医師や衛生師による高齢者の口腔内の清潔についてや、地域包括看護・介護士による認知症サポーター養成講座の開講の支援を行った。おおむね目標達成でき、学生の授業評価の点数も平均以上であった。 「老年看護学援助論演習」では、高齢者体験や片麻痺体験を学生自身でグループごとで行い、研究演習とした。また、学生自身に体験させることにより、高齢者イメージがしやすいようにし、看護に必要な内容を考えさせる機会とし、看護の視点の指導や理解、定着を図った。 令和2年からは、ほとんどの授業内容を担当し、看護展開を中心とし看護のアセスメントや計画の指導を中心の授業へ変化させた。看護展開は、学生が臨地実習で使用しているものを使用し実習時に戸惑いがないように配慮した。教員への質問もしやすいように 授業の攻勢を変更し、机間巡回の時間を増やし、学生同士での相談や考えの広がりを持てるようにペアワークとした。学生の進捗に合わせた説明をするようにし、理解の徹底と定着を図った。 「卒業研究Ⅱ」では、卒業延期性には個別にさらに時間を作り指導を行った。 「基礎演習Ⅱ」では、基本的な大学生活での学習方法や時間・単位制について指導した。グループワークで、基本的なレポートの書き方、グループワークについて指導し、レポートはその都度添削した。また図書の有効利用。インターネットを津科tt垂情報リテラシーの方法なども学生に理解の程度に合わせて具体的な指導を行い、学生が大学での学習方法について積極的に行えるように指導した。
6) 老年看護学実習指導（奈良学園大学）専任教員 R1年度 領域実習・統合実習 実習要項 実習記録 R2～3年度 領域実習 実習要項 実習記録 学内実習用事例： ・大腿骨頸部骨折術後 ・大腿骨頸部骨折術後リハビリ期 ・腰椎圧迫骨折保存的療法 ・腰椎圧迫骨折保存的療法と認知症 ・腰椎症と頸部腫瘍の終末期 ・脳梗塞後片麻痺後のリハビリ期 ・脳梗塞後の高次機能障害 ・脳梗塞後誤嚥性肺炎（繰り返し発症する患者） ・脳梗塞後の廃用症候群 ・軽度認知症と脛腓骨骨折の保存的療法 ・変形性膝関節症術後 ・腰椎圧迫骨折後と膝関節症リハビリ期 統合実習	平成30年4月～現在	事前に、実習先の全施設と実習説明内容のために訪問調整し、学生の実習目的・目標・スケジュールなど詳しい説明を行った。実習開始からは、「老年看護学Ⅰ・Ⅱ」（3年次配当 4単位）で、学生が老年看護の基本的な考え方に基づいて看護展開の方法の実際を個別に指導し、実技指導と評価指導を行った。また、緊張緩和に努め実習で対象者の個別性に合う実習内容になるように一緒に考えアドバイスし、指導した。すべての実習に同行し、精神的配慮として個別の面談を交え学内では学習などの指導も行った。 令和2～3年度では、コロナ渦で領域実習施設と病院での実習日程や内容の変更調整をすべて行った。学内実習内容でも臨地とできる限り似ている状況での実習が席るように、各担当学生1名に1事例作成し、看護展開や実技の実施ができるようにした。令和4年からは実習はできる限り臨地に行けるように、コロナ幹線いて実習ができない時は他の病院と調整し、全学生が臨地実習で学べるようにした。学生からは、「臨地に行くことで学べる内容も多く急な変更になっても臨地実習できてよかった」との意見を直接聞くことができた。おおむね全学生が目標達成できた。 令和2～3年度の統合実習では、すべての内容がリモートへ変更になり、実習内容の変更をすべて行った。臨地実習の目標と齟齬が内容、動画やグループワークを効果的に使用した。学生間でのディスカッションやワークも偏らないように、適宜メンバーの変更を行い学びが最大限になるようにした。また、卒業後の仕事としての内容も意識し、様々なグループでディスカッションすることによって、学習内容だけでなく対人能力や自己表現能力などもはぐぐまれ、能力の獲得と発揮ができるようにした。 令和4年度は、臨地実習に行けるように調整し、全員臨地実習で学ぶことができた。臨地実習では、今後臨地で就労することも見据え、チーム内で協力しながら具体的な生活課題に対する援助が実施できるよう

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
6) 老年看護学援助論（平成30年：3年次配当1単位 令和1年：2年次配当1単位、3年次配当1単位） ①授業資料 ②演習授業資料 ③疾患理解のためのプリント作成 ④eラーニング授業と資料作成 平成30年担当 担当講義：高齢者の基本的な生活援助（排泄・栄養・活動と休息・清潔）転倒転落・食事介助・嚥下困難・アクティビティケア・看護展開 演習授業：高齢者体験 片麻痺体験 夏季休暇中の実習前演習 陰部洗浄 移送移動 点滴中の更衣 片麻痺の更衣 看護展開の実際（看護計画の実技） 令和1年担当 担当講義：排泄・転倒転落・廃用症候群・リスクマネジメント（災害看護・医療事故）看護展開 令和2～3年担当 講義授業：排泄・排尿障害・転倒転落・廃用症候群・発熱・浮腫・倦怠感・脱水・退院支援・権利擁護 令和4年度担当 担当講義：排泄・排尿障害・転倒転落・廃用症候群・嚥下食事・退院支援・権利擁護 7) 「老年看護学援助論演習」 令和1年担当 担当講義（演習）：退院支援グループワーク・セルフアセスメント・脳梗塞移動トイレ介助 令和2～3年度担当 「老年看護学援助論演習」看護展開 1～12回ゴードンの機能的健康パターンを使った脳梗塞患者の看護展開、 令和4～5年度 看護展開 1～12回ゴードンの機能的健康パターンを使ったパーキンソン病患者・脳梗塞患者の事例の看護展開、関連図作成	平成30年4月～令和5年3月 令和5年4月～現在	「高齢者体験」ではグループワークで行う内容についての援助の方法の編成とないようについての目標や目的についてのプリントの作成を行った。また、杖歩行の援助方法の教授では、図式の資料と注意点を記入する用紙を作成し、実際に使いながら看護者・援助者・観察者と分け、肉体的だけでなく精神的な援助を含め考えるように指導した。 「転倒転落」では、事例をち使って転倒要因を考えるとともに、アセスメントスコアシートを実際につけアセスメントの視点と実際を行った。嚥下困難では、高齢者体験の感覚器系装具を付け、感覚器系の変化について体験させた。そのうえで事例を使って、栄養状態の評価をし食事摂取するという事とその困難について考えさせアセスメントさせた。アクティビティケアでは、写真等を使ってイメージしやすいようにした。また実際の学生間でも行った。 演習授業では、限りなく実践に近くできるように、グループごとでワーク形式で行った。 R2年度では、オンライン授業が中心であるが、学生が受け身にならないように、相互に意見交換やGWを使い授業参加できるように工夫した。eラーニングでは、すべ手を教授してしまわず、自分で考え調べたり、実習で考えて使えるような資料づくりを心かけた。 演習授業では、学生間でのディスカッションができるように、問題提起や発問などで実際の援助の方法に多角的に考えることができるように注意した。 看護展開の授業では、コロナ禍でオンライン授業が中心であったが、学生同士相談し合いながらZOOMを使用してグループワークを行った。わからない学生には、個別に指導し理解を促した。学生からは積極的に参加する姿勢があり、自己学習をしている姿も多かった。 令和4年からは、退院支援などでは実習時に必要なプレゼンテーションのスキルも養うためにパワーポイント資料での提出とした。 R5年度では、ペアワークを行い個別でも確実に看護展開できるようにし、実習でも使用できる内容の資料提供とした。老年看護学らしい、施設看護も視野に入れた事例を使用し、徹底した老年特有の高齢者の通夜身を生かした看護の考え方を学び実践できるようにした。 全学生ともおおむね目標達成できた 「成人老年看護学援助論Ⅰ」では主に高齢者が手術を受ける場合の注意点や看護の基本について授業を子なった。高齢者に多く、術後の影響を与える術後せん妄や認知症との違い、高齢者が医療従事者から説明をけるとときに注意や環境の整え方、等、看護実践に即したレベルでイメージしやすいように授業を展開した。また、学生が分かりやすいようにロールプレイをとりいれたり、板書や発言の機会を多くもてるように実施した。事後課題で学びが定着しやすいように反復した内容の考察を行った。 「成人老年看護学援助論Ⅱ」では、複数の疾患を持つ高齢者の看護の基本的なことから、多様な場の看護と、実際の高齢者の看護に活用できる内容を中心に授業を行った。授業のなかでは、高齢者の特徴とそれが医療や看護に及ぼす影響とを中心に授業追加した。授業資料では、視覚的にイメージしやすいように、必要書類やスコアシート、クリティカルパスなどを配布し学生が実践時に混乱しないように工夫した。自身の意見や看護として何ができるのか考えやすいようにグループワークを取り入れたたり、板書やpaperの形式だけでなく、パワーポイントで要点を絞った資料作成、も行わせ、授業内容の定着を図った。
2. 作成した教材等		

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
1) 老年看護学実習要項・評価表・記録用紙・学内実習用事例・学内実習用プログラム	平成30年4月～現在	学校奈良学園大学保健医療学部看護学科の専門科目「老年看護学Ⅰ・Ⅱ」（3年次配当 4単位）で、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習方法と内容、実習の進め方、実習の心得、健康管理の方法などについてまとめた冊子を作製した。老年看護学実習でないと経験できない看護援助の実技面でも、確手順書を作成し観察項目などの確実な習得を目指した。 R2～4年度は、コロナ禍の非常事態宣言にて臨地実習ができず、臨地と遜色ないように一人1事例事例を準備し、看護展開と実際の看護の内容について学内実習を行った。また臨地での受け入れが可能な施設では、感染予防とできるだけ多くの学生の受け入れをしてもらうために実習先変更や日程調整を行い、実習内容を組みなおし調整した。学生は到達目標へおおむね到達できた。評価表はパフォーマンス評価が適切にできるように、ルーブリック評価へ変更した。
2) 統合看護学実習要項（老年領域）・記録用紙・学内実習プログラム	平成30年5月～現在	学校奈良学園大学保健医療学部看護学科の専門科目「統合実習」（4年次配当 1単位）で、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習方法とスケジュール内容、実習の進め方、実習の心得、健康管理の方法、領域実習で実習できなかった看護技術の実習の仕方についてまとめた冊子を作製した。
令和1～2年 老年看護援助論での授業教材として、パーキンソン病・排泄の機能障害（排尿・排便）についての自己学習プリントの作成 浮腫のイグザミネーションの手順、脱水・浮腫・倦怠感・脱水のeラーニング後の確認テスト作成 テスト問題作成 老年看護概論の社会保障制度eラーニング資料作成 令和3～4年 ゴードンの機能的健康パターンの内容についてかみ砕き、内容がわかるように平癒な言葉に直した資料の作成 口腔ケア時の看護の課題作成 定期テスト問題作成	平成30年4月～現在	学生自身が学習内容を深められるように、解剖整理から、病態生理、症状検査、看護と発展的にできるように工夫をした。また、学習してきた内容は、授業の中で発表する時間をもちお互いの学習内容について振り返りを行った。また、提出後にはすべての学習内容についてチェックし、不足している部分についてはさらに復習として授業の中で補足説明を行い理解できるようにした。 eラーニングでは、テキストを使用し学習を深められるように発問の内容をおきながらポイントを学習できるようにした。暗記を必要とする科目に関しては繰り返す学習で使えるように、自分独自の資料が作成できるようにした。 実習で作成した資料をそのまま使えるように、実習時に必要な内容を盛り込んで資料とした。領域実習で使いながらアセスメントする学生を多数確認できた。
4) 老年看護学実習学内での事例作成 事例：高齢者特有の疾患患者11例 シュミレーターの設定 総合病院での実習計画スケジュールの作成	令和2年8月～現在	老難看護学実習Ⅰ・Ⅱではコロナ感染予防のために学内実習に切り替わることも多く、事例を使用し、学生へ臨地実習に近づけるようにした。シュミレーターなども使用し、異常音の聴取や心電図の読み取りなどもできるようにした。また2グループ共同での実習の場合の実習計画表を作成し、各グループで実習ができるように工夫し学びの低下を防ぐようにした。 学生からは、「実技指導もありよかった」という声や「少しでも臨地に行けて安心した」「患者さんと関わってよかった」という声が聞かれた。おおむね全学生は目標達成できた。
5) 国家試験対策講座 老年領域資料 出題傾向問題作成と解説パワーポイント資料	令和4年1月 令和5年12月	2022年度までの過去問題や参考書、学生の模擬試験結果から間違いやすい問題と出題傾向の強い問題を作成し配信下。そしてその解答と解説を行い、国家試験へ向けて知識の再確認と定着を行った。参加した学生からはおおむね好評であった。 令和5年度は資料のみ作成した。
6) 成人老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 試験問題	令和5年4月～現在	授業内容に合わせて学生の能力が発揮しやすいように、文章・記号挿入・○×などの問題形式にしたものを作成した。
7) 実習協議会報告書・実習報告会資料 ①実習報告書 ②インシデントアクシデント報告書 ③学生の実習出欠状況報告書 ④次年度の実習計画書	令和1年1月 現在	毎年行われる実習報告会の老年看護学領域の実習報告資料の作成を行った。学生の自己評価と教員評価のグラフを作成し、相違点や学びの内容についての考察を行い報告した。
3 教育上能力に関する大学の評価		

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
「老年看護学援助論演習」	令和2年3月～ 現在	学生評価では、積極的に参加できるような授業展開にしたため、参加度は4.33に上昇していた。しかし、on-lineということもあり、わかりやすさや満足といった内容評価は平均であった。おおむね学生は目標達成できていた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 奈良学園大学法人広報委員会 奈良学園大学保健医療学部入試広報	平成30年4月～平成31年3月 令和2年3月～ 現在	学外広報誌作成の参画と調整、広報誌の内容の修正 オープンキャンパス参画運営と教員への周知徹底、内容や物品の調整を行った。リハビリテーション学科開設の伴う広報活動として、外部向けシンポジウム運営調整を行った。当日はオープンキャンパスとの同時開催があり、教員と学生に対し企画説明・役割や時間調整等を行い運営した。また、学外広報としての高校への派遣授業の教員への意見聴取ととりまとめを行い教員派遣の調整をした。広報活動企画報告書の作成を行った。 入試面接のループリック案の作成を行った。
特記事項なし		
5 その他		
特記事項なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
1) 看護師免許	平成2年5月	登録番号第684127号
2) 厚生労働省専任教員養成課程修了	平成27年3月	
3) 次世代教育学 学士	平成27年3月	教育学部に在学し、看護教育学に特化した内容の教育学を学んだ。
4) 看護師・保健師養成所専任教員	平成27年3月	大学・短大・専門学校などでの看護師・保健師の養成教育、病院での新人教育などに携わる教員を認定する資格を取得した。
5) 学術修士	平成17年3月	
6) 心療回想士 5 級技術位	令和4年6月	内閣総理大臣認証法人第1050号特定非営利活動法人日本回想法学会認定心療回想法5級技術委心療回想士
2 特許等		
該当なし		

教 育 研 究 業 績 書			
令和5年11月10日			
氏名 田場 真理			
研 究 分 野		研究内容のキーワード	
臨床看護学(透析看護) 看護教育 (AL, GW)		血液透析 終末期 抑うつ 意思決定 アクティブラーニング グループワーク オンライン	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
1) 「基礎看護技術Ⅱ・Ⅲ」教育実績		H25年4月 ～ H27年3月	関西学研医療福祉学院（看護専任教員）にて、基礎看護技術Ⅱ（栄養、排泄、活動・休息、創傷、BLS・ALS、エンゼルケア等）についての講義・演習を担当した。講義ではグループワーク、ロールプレイングを取り入れ、学生が主体的に学べる機会を作る一方で、定期的に小テストも行い、学生自ら基礎知識の確認ができるよう工夫した。演習では、DVDの視聴や教員自らデモンストレーションを行いながらも、日常生活援助技術に関しては、学生のこれまでの生活体験を活かしよりよい援助の方法を考え実施できるよう工夫した。
2) 「小児看護学援助論」教育実績		H26年4月 ～ H27年3月	関西学研医療福祉学院（看護専任教員）にて、小児看護学援助論についての講義（全15コマ30時間）・演習（全7コマ14時間）を担当した。講義・演習では、グループワークやロールプレイングをとり入れた。その際、子どもの発達段階の理解とともに、子どもの最善の利益を守る事的重要性を伝えつつ、子どもと家族に必要な看護について学生自ら考えられるよう指導を行った。
3) 「基礎・成人・老年・小児看護学実習」教育実績		H25年4月 ～ H27年3月	関西学研医療福祉学院看護専任教員として、基礎・成人・老年・小児実習指導を行った。実習前には事前学習を課し実習での学びの準備を整えた。臨地では指導者と協力しながら、学生がより多くの気づき（学び）ができるよう関わった。
4) 「統合看護学実習」教育実績		H25年4月 ～ H27年3月	関西学研医療福祉学院（看護専任教員）にて、統合看護学実習指導を行った。実習前には事前学習を課し実習での学びの準備を整えた。統合実習では領域実習では体験できない管理実習や夜勤帯での実習も取り入れより深い学びが得られるようかわった。
5) 看護研究指導		H25年4月 ～ H27年3月	関西学研医療福祉学院（看護専任教員）にて、看護研究（ケーススタディ）指導にあたった。実習中の自身の看護をふりかえり
6) 「小児看護学概論・小児看護学援助論」教育実践		H28年4月 ～ H29年3月	奈良学園大学（助手）にて、講義・演習の補助的指導を行った。

	7) 「小児看護学実習」教育実績	H28 年 4 月 ～ H29 年 3 月	奈良学園大学（助手）にて、小児看護学実習指導を行った。
	8) 「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」教育実績	H29 年 4 月 ～ H30 年 3 月	奈良学園大学（助手）にて、主に看護技術演習の指導を行った。
	9) 「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」教育実績	H29 年 4 月 ～ H31 年 3 月	奈良学園大学にて基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ実習指導を行った。
	10) 「ヘルスアセスメント」教育実績	H30 年 4 月 ～ H31 年 3 月	奈良学園大学にてヘルスアセスメント全15コマのうち呼吸循環・環境機のアセスメント4コマを担当した。
	11) 「基礎演習Ⅰラーニングスキルズ」教育実績	H30 年 4 月 ～ R2 年 3 月	奈良学園大学にて、1 年次生担当の基礎演習Ⅰラーニングスキルズ、全 15 コマのうち、11 コマを担当した。（4 回は統合実習のため交代）
	12) 「成人看護学援助論Ⅱ」教育実績	H30 年 4 月 ～ R5 年 3 月	奈良学園大学にて、成人看護学援助論Ⅱ、全 15 コマのうち 12 コマを担当している。授業は、原則、オンラインによる動画等の配信を中心とした反転授業＋対面でのアクティブ・ラーニングで行った。
	13) 「成人看護学援助論演習」教育実績	R2 年 4 月 ～ R5 年 8 月	奈良学園大学にて、R3 年度までは成人看護学援助論Ⅱ、全 30 コマのうち 16 コマを R4 年度は成人（慢性）としての 15 コマ全てを担当した。授業は、原則、オンラインによる動画等の配信を中心とした反転授業＋対面でのアクティブ・ラーニングとしている。
	14) 「卒業研究」教育実績	H30 年 6 月 ～ 現在	奈良学園大学にて卒業研究Ⅱの研究指導を行っている。
	15) 「成人看護学実習Ⅰ」教育業績	H30 年 4 月 ～ R4 年 3 月	奈良学園大学にて、成人看護学実習（Ⅰ）指導を行った。
	16) 「成人看護学実習Ⅱ」教育業績	H30 年 4 月 ～ 現在	奈良学園大学にて、成人看護学実習（Ⅱ）指導を行っている。
	17) 「統合看護実習（成人）」教育実績	H30 年 4 月 ～ R5 年 8 月	奈良学園大学にて、統合看護実習指導を行っている。
	18) 「成人看護学概論」教育実績	R3 年 4 月 ～ R5 年 3 月	奈良学園大学にて、成人看護学概論、全 15 コマのうち R3 年度は 2 コマ、R4 年度は 7 コマ担当した。
	19) 「統合看護論」教育実績	R4 年 12 月	奈良学園大学にて、統合看護論 1 コマを担当した。
	20) 「ターミナルケア論」教育実績	R5 年 4 月 ～ R5 年 8 月	奈良学園大学にて、全 7 コマのうち、3 コマを担当した。
	21) 「成人老年看護学援助論Ⅰ」教育実績	R5 年 9 月 ～ 現在	奈良学園大学にて、全 30 コマのうち、7 コマを担当した。

	22) 「成人老年看護学援助論Ⅱ」教育実績	R5 年 9 月 ～ 現在	奈良学園大学にて、全 30 コマのうち、10 コマを担当した。
	23) 「情報科学」教育実績	R3 年 4 月 ～ R5 年 9 月	田北看護専門学校にて、非常勤講師として情報科学（全 15 コマ；前期科目）を担当している
	24) 「看護研究」教育実績	R3 年 4 月 ～ R5 年 9 月	田北看護専門学校にて、非常勤講師として看護研究（全 15 コマのうち 8 コマ；前期科目）を担当している
	2 作成した教科書，教材		
	1) 成人援助論演習（周術期のシミュレーション演習）のための事例（シナリオ）①	R2 年 4 月	R2 年度、R3 年度の成人援助論演習・急性期看護のシミュレーション演習の事例としてシナリオ（2 例）を作成した。同じ胃がんを受ける患者であっても、発達段階や術式、家族背景、性格の異なる 2 例を作り、同じ胃がんの手術を受ける患者であったとしても、個別性に応じて看護が変わることを学生が理解できるよう工夫した。
	2) 術後ベッド・環境、看護を理解するための動画ゲーム	R2 年 4 月	R2 年度、R3 年度の成人援助論演習・急性期看護をゲーム感覚で学ぶための事前学習動画を作成した。（R2 年度は、コロナ禍で対面授業が難しかったため、スマホを用いて動画形式で楽しく学べる教材は学生に公表であった）
	3) 成人援助論演習（肺がん・化学療法）のための事例	R2 年 6 月	R2 年度、R3 年度の成人援助論演習・慢性～終末期看護のシミュレーション演習の事例として作成した。診断時～1 次治療、2 次治療、3 次治療、BSC へと変化する患者・家族の変化とその時期時期で必要となる看護について学生が学べるよう工夫した。
	4) 学内実習用事例作成（食道がん・FP 療法＋RT)	R2 年 8 月	コロナ禍での臨地実習を補うための事例として作成した。
	5) 学内実習用事例作成（直腸がん・マイルズ手術、ストーマケア)	R2 年 8 月	コロナ禍での臨地実習を補うための事例として作成した。
	6) 学内実習用事例作成（胃がん・ESD)	R2 年 8 月	コロナ禍での臨地実習を補うための事例として作成した。

	7) 学内実習用事例作成（悪性リンパ腫・前処置・造血幹細胞移植）	R2 年 8 月	コロナ禍での臨地実習を補うための事例として作成した。
	8) 学内実習用事例作成（肝硬変）	R2 年 8 月	コロナ禍での臨地実習を補うための事例として作成した。
	9) 成人援助論演習用事例作成（慢性腎不全・透析導入）	R4 年 4 月	成人援助論演習 B（慢性期）のシミュレーション演習で使用するため、電子カルテ形式での事例を作成した。
	3 教育上の能力に関する大学等の評価		
	1) 成人援助論（成人老年援助論）Ⅰ・Ⅱの授業評価	R2 年 9 月 ～ 現在	独自で実施している Google Classroom による授業評価や大学 FD で行われている授業評価において、多くの学生から、「グループワークを取り入れた授業は他者の考えを知ることができ学びが深まる」との回答を得ている。 *一部の学生から事前課題が多い、グループワークは学びにくい、という意見もあるため、調整しながら行っている。
	2) 成人看護学概論	R3 年 4 月 ～ R4 年 8 月	独自で実施している Google Classroom による授業評価や大学 FD で行われている授業評価において、多くの学生から「わかりやすい」「聞き取りやすい」「授業資料が見やすい」との回答を得ている。
	3) 成人援助論演習	R2 年 4 月 ～ 現在	独自で実施している Google Classroom による授業評価や大学 FD で行われている授業評価において、多くの学生から、シミュレーション演習のため、理解しやすく楽しく学べる、との回答を得ている。レポートに対し、毎回フィードバックをしていることについても肯定的な回答が多くみられている。 *一部の学生から事前課題が多い、グループワークは学びにくい、という意見もあるため、調整しながら行っている。
	4 実務の経験を有する者についての特記事		
	1) 認定・日本重症心身障害看護師研修会看護研究アシスタント講師	H29 年 7 月 ～ H30 年 9 月	近畿地区日本重症心身障害心身障害福祉協会の依頼により認定研修の看護研究アシスタント講師として研究指導を行った

	2) 西奈良中央病院研究指導講師	R2 年 4 月 ～ 現在	依頼により、西奈良中央病院院内看護研究の指導を行っている。
	5 その他		
	職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
	事項	年月日	概 要
	1 資格, 免許		
	看護師免許 (第 1396705 号)	H19 年 4 月	
	修士 (学術)	H29 年 3 月	放送大学文化科学研究科生活健康プログラム 修士論文: 透析患者の抑うつにソーシャルサポートが与える影響と支援の在り方—医師、看護師、ピアサポートに関する考察—
	博士 (応用情報科学)	R4 年 9 月	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科 博士論文: ICT 活用によるメンタルヘルス不調予防のためのサポートに関する研究
	2 特許等		
	3 実務の経験を有する者についての特記事		
	1) 国家試験対策 WG メンバーとしての活動	H27 年 4 月 ～ H29 年 3 月	奈良学園大学保健医療学部国試対策 WG メンバーとして確認試験の問題作成、模試の試験監督などを行った
	2) FD 委員としての活動	H28 年 4 月 ～ H30 年 3 月 H31 年 4 月 ～ R2 年 3 月	奈良学園大学保健医療学部 FD 委員として、定期的な研修の企画運営などを行った
	3) 学生生活 WG メンバーとしての活動	H30 年 4 月 ～H31 年 3 月 R2 年 4 月 ～R4 年 3 月 R5 年 4 月 ～現在	学生生活部会メンバー (3 年次生担任) として保護者懇談会、卒業式、新入生宿泊研修などに関する活動を行った。 R2 年度はホームカミングデーをタスクフォースグループとして中心的になり実施した。
	4) 全学キャリア委員としての活動	H29 年 4 月 ～ H31 年 3 月	キャリア委員として、就職説明会、就職ガイダンス、卒業生に対するウェルカムデーなどの企画運営をおこなった。
	5) 学内広報委員としての活動	H31 年 4 月 ～ R2 年 3 月	広報委員として、パンフレット作製、オープンキャンパスの企画運営を行った
	6) 実習 WG メンバーとしての活動	R2 年 7 月 ～ 現在	実習 WG のメンバーとして大学全体として実習に関する調整・管理を行った。
	7) 全学学生支援運営委員会委員としての活動	R2 年 4 月 ～ R4 年 3 月	学生支援運営委員会メンバーとして全学学生支援に関する活動を行った。R3 年度は白書作成に携わった。
	8) FD カリキュラム委員としての活動	R4 年 4 月 ～ R5 年 3 月	FD カリキュラムのメンバーとして、看護学科 FD 研修会の企画運営、その他、カリキュラム評価検討などを行った

	9) 全学 FDSD 委員としての活動		R4 年 4 月 ～ R5 年 3 月	全学 FDSD 委員として、主に授業評価や TP について検討した	
	4 その他				
	研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称		単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)					
1 エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図		共著	R4 年 2 月	中央法規	看護学生用、病態・看護関連図に関する参考書である。 共著者：吉治仁志、西田直子（監修）、松浦純平（編集） <u>田場真理</u> （著） 本人担当部分：肝硬変
(学術論文)					
1 認知症高齢者を介護する娘介護者の体験－介護生活の中で体験する困難と、介護生活の支えとなるもの－		共著	H28 年 9 月	奈良学園大学紀要 5：67-79, 2016.	認知症高齢者である親の介護経験を有する娘介護者を対象に、介護の中で体験する困難と介護生活の支えとなっているものについて半構成的面接を行った。その結果、娘介護者が体験する困難として《親の現状を受け止める難しさ》など 7つのカテゴリーが、介護生活が続ける中で支えになるものとして《変わってゆく親を共有できる存在》など 4つのカテゴリーが見いだされた。 共著者：上山智恵子、 <u>田場真理</u> 、守本とも子 本人担当部分：半構成的面接によるデータ収集および、コーディング、カテゴリー化を行った。
2 外来透析患者の服薬コンプライアンス不良に至る因子の検討（査読付） ”		単著	H29 年 3 月	日本医療福祉情報行動学研究 4:25-30, 2017.	外来透析患者の服薬コンプライアンス不良に至る因子について、薬物に関する知識や理解度のほか、視力障害や指先の動きなど身体的側面の影響、ストレスなど心理・精神的側面の影響、そして薬物管理に関する家族のサポート状況など社会的側面の影響など軽 11 項目について検討した。その結果、服薬コンプライアンス不良に至る因子としては、患者の服薬に対する意識の低さが最も影響することが明らかとなった。

3 透析患者の抑うつにソーシャルサポートが与える影響と支援の在り方—医師、看護師、ピアサポートに関する考察—（修士論文）		単著	H29 年 3 月	放送大学修士論文	透析患者の抑うつに対する効果的な援助について示唆を得るため、ソーシャルサポートとしての医師・看護師・（患者仲間）ピアの援助について検討した。その結果、透析患者の抑うつを軽減させるために効果がある援助とは、身体症状を改善させるための看護師からの保健情報の提供であることが明らかとなった。
4 看護師のサポートが透析患者の抑うつに与える影響（査読付）		共著	H30 年 8 月	日本腎不全学会誌 20 (2) , 74-84, 2018.	看護師のサポートが透析患者の抑うつに与える影響について明らかにし、透析患者の抑うつに効果的な看護師のサポートについて検討した。結果は、透析患者が抑うつになる最大の原因は身体症状の悪さであり、それを自己管理により軽減させるための看護師の保健情報提供のサポートが、身体症状を改善させることで精神面である抑うつを軽減する効果があることが示唆された。 共著者：田場真理、井出訓 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成、投稿を行った
5 Support for Decision-making Regarding Continuing or Suspending Terminal-Stage Dialysis. （透析患者の終末期透析の意思決定支援の検討）（査読付）		共著	H31 年 3 月	医療福祉情報行動科学研究（Japan Information and Behavior Science for Health and Welfare）, 6, 13-19, 2019.	透析患者の終末期透析の意思決定支援について示唆を得るため終末期透析に対する透析患者の思いを質的量的に分析した。量的データからは、透析患者の多くは自らの死について考えたり、医療者や家族と話し合いをしていないことが明らかとなった。また質的データからは、透析患者には生への希望がある一方で家族への遠慮により延命への諦めがあることが明らかとなった。しかしながら、尊厳死への願いは共通しており、最期まで自分がどのように生きたいかを医療者・家族としっかり話し合いの場を持つよう調整することが重要であることが示唆された。 共著者：田場真理、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成、投稿を行った

6 認知症高齢者と家族の生活支援への検討 ― 認知症高齢者の気になる行動の分析より― (査読付)		共著	H31 年 3 月	医療福祉情報行動科学研究, 6, 55-63, 2019.	認知症高齢者家族の支援を検討するため、認知症高齢者の気になる行動を中心に、認知症高齢者と家族の抱える問題をインタビューより明らかにし、KJ 法により分類した。その結果、認知症高齢者と家族の抱える問題は「もの忘れ」「怒りっぽい」「排泄の問題」など 8 つの問題に分類された。これらの問題はいずれも生活問題としてそれなりに重要ではあるが、なかでも「弄弁」は家族が抱える最も困難な事象であることが明らかとなった。また、これらの問題はいずれも認知症という疾患に起因するものであることから、介護者の精神的負担を軽減するためには、認知症という疾患の理解を促すことが重要であることが示唆された。 共著者：守本とも子、 <u>田場真理</u> 、川口ちづる、新谷奈苗、永岡裕康 本人担当部分：実施・分析・一部論文作成を行った
7 透析患者の抑うつにピアサポートが与える影響 (査読付)		共著	令和 2 年 3 月	医療福祉情報行動科学研究, 7, 44-53, 2020.	透析患者の抑うつにピアサポートが与える影響について明らかにし、効果的なピアサポートの活用のための示唆を得ることを目的とした。2 変量解析・多変量解析の結果、透析患者の抑うつにピアサポートが影響を与えることは示されなかった。理由は透析患者が抑うつとなる最大の要因が患者自身の自覚する身体症状であるためであることが示され、分析から示され、透析患者の抑うつに対してピアサポートを効果的に活用しようとするならば、まずは患者の身体症状を改善することが医療者の役割として重要であることが示唆された。 共著者： <u>田場真理</u> 、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成、投稿を行った
8 “Support of doctor” influence on hemodialysis patients’ depression: Cooperation with doctors from a nursing perspective. (透析患者の抑うつに医師のサポートが与える影響―看護の立場から医師との連携を考える―) (査読付)		共著	令和 2 年 3 月	医療福祉情報行動科学研究 (Japan Information and Behavior Science for Health and Welfare), 7, 17-24, 2020.	透析患者の抑うつ改善のための効果的な医師との連携の在り方を看護の立場から検討するため、医師のサポートについて調査・分析した。結果、透析患者の抑うつに直接的に影響を与えているものは患者自身の自覚する身体症状であり、医師のサポートは間接的に影響を与えるものであることが明らかとなった。このことから医師の治療による身体症状の改善が行われれば、抑うつ状態も軽快へと向かう可能性があることが示唆された。看護師は身体症状に対する治療効果を高めるために医師と連携することが、抑うつ改善のための効果的な医師との連携であろうことが示唆された。 共著者： <u>田場真理</u> 、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成、投稿を行った

9 透析患者の抑うつに対する看護の実態（査読付）		共著	令和2年3月	医療福祉情報行動科学研究, 7, 55-62, 2020.	透析患者の抑うつに対する看護の実態として、抑うつ症状等の観察の頻度および情報提供の状況を明らかにし、課題について検討することを目的とした。その結果、対象者は経験豊富な看護師が多く含まれる集団であったといえるが、抑うつ症状の観察を常日頃行っている看護師は3割程度、情報提供を行っている看護師は1割にも満たないことが明らかとなった。また分析の結果、看護師経験年数、透析看護経験年数が長い人であっても、抑うつ症状等の観察ができていないわけではないことも明らかとなった。 共著者：田場真理、石垣恭子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・投稿を行った
10 A Discussion of Social Support for Dementia Elderly People and Family Carers（認知症高齢者と家族介護者におけるソーシャルサポートの考察）（査読付）		共著	令和3年3月	医療福祉情報行動科学研究（Japan Information and Behavior Science for Health and Welfare）, 8, 67-75, 2021.	認知症高齢者と家族介護者の生活とソーシャルサポートの実態について明らかにし、在宅での介護継続、QOL向上に必要な支援について検討した。その結果、医療・福祉が提供するソーシャルサポートの中で、在宅介護に関する相談や支援など手段的サポートや、介護についての情報提供といった情動的サポートに課題があることが明らかとなった。 共著者：守本とも子、田場真理、新谷奈苗、辻下守弘 本人担当部分：実施・分析・一部論文作成を行った
11 An Analysis of Related Factors of Subjective Health and Life Satisfaction among Caregivers of Dementia Elderly People（認知症高齢者の介護者における主観的健康感、生活満足度の関連要因の分析）（査読付）		共著	令和3年3月	医療福祉情報行動科学研究（Japan Information and Behavior Science for Health and Welfare）, 8, 77-83, 2021.	認知症高齢者の介護者のQOLと主観的健康感、生活満足度との関連を明らかにし、必要な支援について検討した。その結果、主観的健康感と生活満足度の間に高い相関が認められ、介護者の主観的健康感を高めることが生活満足度を高めることになることが示唆された。また、生活満足度は家計とも高い相関が認められ、福祉サービスの利用増加に伴い、介護者の経済的な負担も考慮しケースに応じた適切な社会資源の活用を生かした支援策を講じる必要が考えられた。 共著者：守本とも子、田場真理、新谷奈苗、辻下守弘 本人担当部分：実施・分析・一部論文作成を行った

12 オンライン上グループワークにおける学習成果に繋がる学生の態度と認知の関係（査読付）	共著	令和3年6月	Computer & Education vol.50 72-77. 2021	看護系大学生のオンライン上 GW の実態として、学生の態度や認知、学習成果の状況を明らかにした。結果、オンライン上 GW において、学生の学習理解の高まりには自信の高まりとの関係があり、自信の高まりには GW の良さ、そして GW への貢献の双方の認知の高まりを伴うことが明らかとなった。他方で、やりがいやスキルといった態度の高まりや、事前学習、自室で授業参加、心理的安全性も、間接的に学習成果と関係することが明らかとなった。 共著者：田場真理、石垣恭子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・投稿を行った
13. ICT 活用によるメンタルヘルス不調予防のためのサポートに関する研究	単著	令和4年9月	兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科 博士論文	ストレス社会と言われる現代を生きる人々のメンタルヘルスの不調予防に加え、人々がメンタルヘルスを良好に保ち、Well-beingを実現できるよう、ICTを活用したそのサポートの在り方について検討することを目的とした。具体的には、壮年期以降の人々の主なストレス・悩みの原因となる健康問題として、慢性疾患を取り上げ、その中でも末期腎不全により透析を必要とする人のメンタルヘルス不調の中心の問題である抑うつに着目し、それを予防・改善するためのサポートの在り方について検討した。また、青年期の大学生の主なストレス・悩みの原因となる学業不振に関する問題については、それを予防、さらにはより高い学習成果を目指し効果的なオンライン上アクティブ・ラーニングの在り方について検討した。

14 舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素		共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要 15 135-144, 2023.	舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素について、“I have”、“I am”、“I can”の3側面から明らかにし、舌癌サバイバーのメンタルヘルスを良好に保つための支援について検討することを目的とした。結果、“I have”では、【辛い時、困った時に支援を得られる環境がある】こと【心理的に支えてくれる人がいる】ことが、“I am”では、【楽観的に生きる】力、【自分も周囲の人も大切にすることがある】力があることが、そして“I can”では、【生活の再構築に向け模索・実践する】力、【心と体の健康を作る】力が見出された。舌癌サバイバーがメンタルヘルスを良好に保つためには、これらレジリエンスを構成する要素を舌癌サバイバーが身に付けられる、あるいは高められるよう調整、支援することが重要であることが考えられた。 共著者：田場真理、柳生貴裕、溝口みちる、桐田忠昭、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・投稿を行った
国際学会発表					
1 Analysis and problem of research on dialysis nursing at disaster time in the world (世界における災害時における透析看護に関する研究の分析と課題)		共著	令和2年2月	The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (6th WANS)	文献検討により世界における災害時における透析看護に関する研究の分析と課題を明らかにすることを目的とした。テキストマイニングによる分析の結果、災害時の透析患者の健康を優先的に考え、素早い対応ができるプログラムの開発と医療職種チームが連携することが重要であること、病院の医療職チームが実際に行動(アクション)を起こすことが重要であることが示された。今後の課題は、地域により地震やハリケーンなど多様な災害があるため、今後も多種多様な研究の増加が望まれる。 共同発表者：松浦純平、田場真理、小林由里、溝口みちる、守本とも子 本人担当部分：研究実施、・分析を行った

2 A systematic review of research on postoperative delirium onset prevention from the viewpoint of circadian rhythm in the world (世界におけるサーカディアンリズムの観点からみた術後せん妄発症予防に関する研究のシステマティックレビュー)	共著	令和2年2月	The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (6th WANS)	文献検討により、世界における先行研究からサーカディアンリズムとせん妄発症の関連性からせん妄発症予防について分析することを目的とした。4編の論文を精読し、サーカディアンリズムとせん妄発症の関連性についてテキストマイニングにより分析した結果、4編の論文中3編の論文から明らかになったことは、メラトニン産生がサーカディアンリズムを調節し、術後せん妄発症を予防する可能性が示された。今後は無作為ランダム試験による研究が進むことが期待される。 共同発表者：松浦純平、小林由里、<u>田場真理</u>、溝口みちる、守本とも子 本人担当部分：研究実施、・分析を行った
3 Analysis of nursing research on CPR in gender: a 10-year study in the world (世界におけるジェンダーの視点からの CPR 実施時に関する看護研究の分析)	共著	令和2年2月	The 6th International Research Conference of World Academy of Nursing Science (6th WANS)	文献検討により、世界における CPR 実施時の性に関する研究の分析と課題をテキストマイニングにより明らかにすることを目的とした。階層的クラスターの結果から学生の CPR 教育の中で性差に囚われずに確実な CPR の実施、振り返り、実施後のデブリーフィングが重要であることが明らかになった。男子女子学生という枠組みに入れ込まずに CPR 教育時における確実な CPR の手技とデブリーフィングが必要であることが示唆された。地域、国別の独自の文化的、宗教的背景があるため、性差による CPR 実施時の影響について取り組んだ研究は少数であった。性差に囚われずに確実な手技の習得につながる教育の必要性については共通していた。 共同発表者：松浦純平、溝口みちる、小林由里、<u>田場真理</u>、守本とも子 本人担当部分：研究実施、・分析を行った

4 Factors Related to the Perception of Nursing Students for Group Work in Online Classes(オンライン上グループワークにおける看護学生の認知に影響を及ぼす要因)(国際学会発表)		共著	令和2年11月	11th Biennial Conference of the Asia-Pacific Association for Medical Informatics (APAMI2020)	オンライン上で実施するグループワークにおける看護学生の認知に影響を及ぼす要因について明らかにし、効果的なオンライン上グループワークを行うための示唆を得ることを目的とした。分析の結果、オンライン上グループワークにおいて看護学生がグループワークの良さを認知するためには、学生自身がグループワークにやりがいを感じていること、グループ内の心理的安全性が確保されていること、自室など集中できる場所で授業に参加できること、ストレスマネジメントスキルがあることが影響を及ぼす要因であることが示された。一方、グループワークへの貢献を認知するためには、心理的安全性が確保されていない状況において学生がスキルを発揮すること、自室など集中できる場所で授業に参加できることが影響を及ぼす要因であることが示された。これらを考慮した授業設計が重要となることが示唆された。 発表者：田場真理、石垣恭子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った
(国内学会発表)					
1. 透析室における患者満足度調査—患者の声から現状の問題点と課題について考える—			H24年2月	奈良県医師会透析部会(奈良県医師会透析部会誌 18:1, 92.)	外来透析患者に対し、既存の透析患者用満足度尺度を用いて看護師に対する満足度を測定した。その結果、態度に関する満足度は高かったが、患者自身が疼痛を伴う穿刺技術に関する満足度は低いものであることが明らかとなった。共同発表者：田場真理、米澤麻理、森村美保 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った
2. 透析患者の抑うつに対する看護の実態		共著	H31年3月	日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方会学術集会(於 福井)	透析室で勤務する看護師が、日常的に患者の抑うつ症状についてどの程度観察を行っているか、その実態について明らかにした。結果は、経験豊富な看護師でさえも、ほとんど観察できていないことが明らかとなった。 発表者：田場真理、石垣恭子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った

3. 看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴ーテキストマイニングによる分析からー		共著	令和2年3月	日本看護研究学会 第33回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴を明らかにすることを目的に KHCoder にて先行研究の文章解析を行った。その結果、看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究は人材育成、能力評価、支援・指導体制、キャリア開発、隣地実践能力などの特徴があった。今後、病院や地域での看護師の臨床実践能力が求められていることが示唆された。 共同発表者：上野栄一、松浦純平、溝口みちる、<u>田場真理</u>、杉島優子 本人担当分：文献収集、分析を行った
4. 看護における AI（人工知能）に関する研究の現状と展望ーテキストマイニングを用いた分析ー		共著	令和2年3月	日本看護研究学会 第33回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	看護における AI に関する研究の現状と展望を明らかにする目的で対象文献を KHCoder を用いて分析した。結果、看護分野における AI 活用の現状は、介護支援ロボットスーツ HAL や手術支援ロボット da Vinci などロボットに関する研究とその効果について研究が多いことが明らかとなった。今後は患者の心に寄り添い、AI が導き出した以上の看護実践に取り組み効果を検証していく必要性が考えられた。 共同発表者：松浦純平、溝口みちる、<u>田場真理</u>、上野栄一 本人担当分：文献収集、分析を行った。
5. テキストマイニングを用いた看護系大学生が考える CPR 実施上の困難感（第1報）		共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	看護系大学生が考える一次救命処置実施上の困難感を明らかにし教育に示唆を得ることを目的とした。CPR で大事なことは、確実な手技のもと胸骨圧迫の継続である。結果より実施阻害要因の1つとして不安が明らかになった。不安の内容は確実な胸骨圧迫の実施ができるかと周囲の目がある中で CPR の2つの不安が明らかになった。CPR 教育では論理を理解した上で反復行動にて達成経験をj得ること、他者からの承認を与えること、様々な状況を想定して想像的体験にて自己効力感を高め、自分もできるという自信を持たせることを意識した教育が必要と考えられた。 共同発表者：松浦純平、<u>田場真理</u>、溝口みちる、守本とも子、上野栄一 本人担当部分：研究実施、・分析を行った

6. テキストマイニングによる看護系大学生が考える CPR 実施を阻害する理由（第 2 報）－要因の具体的内容－		共著	令和 2 年 12 月	第 40 回日本看護科学学会学術集会	看護系大学生が考える CPR 実施を阻害要因の具体的内容を明らかにし、教育への示唆を得ることを目的とした。CPR 実施を阻害する要因としては、人工呼吸実施への抵抗が強いことが明らかになった。CPR では無理して人工呼吸を実施するよりも確実な胸骨圧迫の継続が重要である。正しく優先順位を理解した上での確実な CPR は救命率上昇につながる。女性への AED 電極パッド貼付に対してプライバシーや羞恥心を感じることも阻害要因として明らかになった。対策としては、衣服の完全脱衣ではなく衣服の下からのパッド貼付などを普段から想定した教育・演習の必要性が示唆された。 共同発表者：田場真理、松浦純平、溝口みちる、守本とも子、上野栄一 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った
7. オンライン上グループワーク型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因		共著	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会第 34 回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	オンライン上グループワーク型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的とした。グループワークにおける態度として、スキルには、①心理的安全性 ($\beta = 0.46$)、②事前学習 ($\beta = 0.25$) が ($R^2 = 0.30$)、やりがいには、①心理的安全性 ($\beta = 0.41$)、②事前学習 ($\beta = 0.26$) が影響を及ぼしていることが示された ($R^2 = 0.25$)。今回仮定した因子の中でリーダーシップに有意に影響を及ぼすものはなかった。 共同発表者：田場真理、松浦純平、溝口みちる 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った
8. 看護過程におけるアセスメントに関する研究		共著	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会第 34 回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	看護過程におけるアセスメント能力に関する研究の特徴をテキストマイニングによる解析で明らかにした。共起分析の結果、看護とアセスメントと能力、今後と課題等がグループを形成した。対応分析の結果、[学生と実習と指導]、[支援と活動]、などの特徴が示された。アセスメントのコロケーション解析では、【アセスメント能力】【アセスメントシートを活用】【アセスメント能力の概念】【アセスメントの方法】【症状別アセスメント】【焦点を当てたアセスメント】【EBM に基づいたアセスメント】の 7 カテゴリーが生成された。 共同発表者：上野栄一、松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子 本人担当部分：文献収集、分析を行った

9. A 看護系大学生の CPR (心肺蘇生法) 教育に関する意識調査		共著	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会 第 34 回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	看護系大学生の CPR 教育に関する意識の実態を Tukey 法による多重比較により明らかにした。BLS 実施の自信について学年比較した結果、1 年と 3 年、1 年と 4 年の 2 群間について有意差 ($p < .005$) がみられた。BLS 実施時の困難感「胸骨圧迫」、「人工呼吸」、「呼吸の確認」の順番であった。死戦期呼吸の認知度は 42 名 (82.3%) が知っているとは回答した。認知度について、学年間で群間比較した結果、有意差はみられなかった。学年間で群間比較した結果、有意差はみられなかった。BLS 講義・演習を受講済であるため学生はやればできるという自信につながっているのではないかと推察する。今後は講義・演習での要指導強化内容は、確実な胸骨圧迫の手技の理解と技術修得、死戦期呼吸の見極め、ブライバシーへの配慮を考える教育が必要であることが示唆された。 共同発表者：松浦純平、<u>田場真理</u>、溝口みちる、守本とも子、上野栄一 本人担当部分：研究実施、・分析を行った
10. テキストマイニングによる ICU における術後せん妄に関する研究の現状と展望		共著	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会 第 34 回近畿・北陸地方会学術集会抄録集	本研究では、ICU における術後せん妄に関する研究の現状と展望をテキストマイニングにより明らかにすることを目的とした。形態素解析の結果、総抽出語数は 1,268 語、354 種類であった。頻出上位品詞は、せん妄 (45)、術後 (42)、患者 (20)、ICU (15)、検討 (15)、術前 (13)、訪問 (11)、要因 (10) などであった。共起ネットワーク分類の結果、術後せん妄発症予防的介入の効果、看護ケアの実際、対象患者側の視点、アセスメントシート作成の 4 つのクラスターに分類された。相関関係ではアセスメントシートと作成 (0.5)、術前と訪問 (0.45)、患者と手術 (0.42) 間に相関関係がみられた。階層的クラスター解析の結果、5 つのクラスターに分類された。ICU における術後せん妄に関する研究の傾向としては、術前 ICU 訪問 (11 編) を中心とした発症の予防的視点からの研究 (15 編)、せん妄発症要因探索に関する研究 (12 編)、アセスメントシート作成・効果検証 (6 編)、実態調査 (4 編)、患者の思いを実際に語ってもらい聞き取るなどの患者側の視点からの研究 (2 編) の 5 つの側面からの研究に取り組まれていることが明らかになった。 共同発表者：溝口みちる、松浦純平、<u>田場真理</u>、 本人担当部分：研究実施、・分析を行った

11. 舌癌患者のレジリエンスの構成要素		共著	令和3年7月	日本看護診断学会 第27回学術大会抄録集	舌垂全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素については明らかにすることを目的に、半構造化面接を実施、逐語録を作成し、その中からレジリエンスに該当する部分を抽出し、質的記述的に分析した。結果、舌垂全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素として《舌癌も舌癌になった自分も受け入れる》《家族・医療者からの支援を得る》《治療後の障害・後遺症改善へ向け模索・実践する》の3つのカテゴリーが抽出された。 共同発表者：田場真理、松浦純平、溝口みちる、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成・発表を行った
(その他雑誌)					
1 終末期透析についての意識と実態調査報告書		共著	H28年3月	NP0 法人奈良県腎友会 発行雑誌ばんび春号. 3-12, 2016	外来透析患者とその家族を対象に、終末期透析についての意識と実態を調査した。その結果、意思決定能力のあるうちに、自身の終末期医療について書面で提示しておきたいと考える患者が約半数、そうしてもらいたいと考える家族は半数いることがわかった。しかしながら、医療者とそういった話し合いの場は、ほとんどもたれていない現状が明らかとなった。 共著者：田場真理、守本とも子 本人担当部分：研究計画・実施・分析・論文作成、投稿を行った
2 2018年看護師国家試験対策 要点がわかる 出題傾向がみえる小児看護学		共著	H29年11月	ピラールプレス	看護師国家試験科目の「小児看護学」について、過去問を読み解くための要点をまとめた。 共著者：守本とも子（監修）、芝田ゆかり、田場真理、瀬山由美子（編著） 本人担当部分：目標Ⅰ「子どもと家族を取り巻く環境」「子どもの成長・発達」「小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護」の部分の執筆を担当した。

3	2018 年看護師国家試験 対策 要点がわかる 出題傾向がみえる成人 看護学（下）	共著	H29 年 11 月	ピラールプレス	看護師国家試験科目の「成人看護学」について、過去問を読み解くための要点をまとめた。 共著者：守本とも子（監修）、松浦純平（編著）、大山末美、梶村郁子、 <u>田場真理</u> （著） 本人担当部分：「内部環境調節機能障害のある患者の看護」「排尿機能障害のある患者の看護」の部分の執筆を担当した。
4	看護師国家試験 直前 社会福祉学領域ファイ ナルチェック	共著	R3 年 3 月	金芳堂	看護師国家試験の出題範囲・出題傾向を基準とし、社会福祉学に関連する法律的な解決や理論、あるいは看護実践との関わりについてまとめた。 共著者：守本とも子、富永堯史（編著）、星野政明（監修）、田場真理（著） 本人担当部分：第 6 章 所得保障（公的年金・社会手当・雇用保険・労働者災害補償保険）
	（講演）				
1	奈良県腎友会女性部会 での講演		H28 年 7 月		腎臓病患者会である NPO 法人奈良県腎友会より依頼があり、終末期の維持透析と事前指示書に関する講演を行った。 （於 桃谷楼）
2	奈良県腎友会北和地域 健腎会での講演		H30 年 2 月		NPO 法人奈良県腎友会（北和地域腎友会）より依頼があり、「豊かな人生の総仕上げのために－自らの人生の先に思いを馳せて語り合おう－」のテーマで新年のつどいの講演を行った。（於 生駒市南コミュニティセンターせせらぎ）
3	奈良県腎友会北和地域 健腎会での講演		H31 年 2 月		NPO 法人奈良県腎友会（北和地域腎友会）より依頼があり、「寝たきりにならないための日常生活で気をつけること」のテーマで新年のつどいの講演を行った。 （於 生駒市福祉センター）
	（学会等への貢献）				
1	日本サーモロジー学会 学術集会第 33 回大会		H28 年 6 月		奈良市（奈良学園大学）で開催された第 33 回日本サーモロジー学会学術集会の実行委員を担った。

2	奈良県腎不全看護研究会世話人		H30 年 4 月 ～ 現在		日本腎不全看護学会の下部組織である奈良県看護研究会の世話人として、研究会の管理運営（年 2 回の研究会）を行っている。
3	日本看護研究学会学術集会第 45 回大会		R 元年 8 月		大阪国際会議場（グランキューブ）で開催された第 45 回日本看護研究学会学術集会の実行委員を担った
4	第 34 回近畿北陸地方会学術集会		R3 年 3 月		奈良市（奈良学園大学）で開催の第 34 回日本看護研究学会近畿北陸地方会学術集会の実行委員（会計）を担った。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンサイト開催は中止となり、抄録集の発行のみとなった。
5	第 27 回看護診断学会学術大会		R3 年 7 月		奈良市（奈良学園大学）で開催の第 27 回日本看護診断学会学術大会の実行委員（会計）を担った。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンデマンド開催となった。
6	日本看護研究学会学術集会第 50 回大会		R6 年 8 月		奈良コンベンションセンターにて開催予定の第 50 回日本看護研究学会学術集会の企画実行委員を担っている

[注]

- 1 最近 10 年間の教育活動、研究活動について作成すること。
- 2 「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
- 3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。
 - ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
 - ④ 最近 10 年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
 - ⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教 育 研 究 業 績 書		
2024 年 5 月 12 日		
氏名 西出 順子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学、心理学	自己心理学、共感、 患者－看護師関係、相互作用	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 通信制教育でのレポート添削における工夫	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神援助論」（専門分野Ⅱ、必修2単位）「精神看護学演習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）において、通信制システムを通して、複数の課題項目に従ったレポートが送られてくる。学生の理解力に応じたコメントの工夫として、理論の簡略的な解説やレポートの書き方や考え方の筋道、具体例等、学生のレポートにワードの校閲機能を用い、学生の記述の文脈の中でコメントを返すように心がけた。学生からの感想として、「躓いているところ等のポイントでコメントをもらい、わかりやすかった」等の評価を得た。
2) 課題・レポートの活用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、次の講義内容の予習として、他の科目で習得した内容が講義内容と関連する場合、レポートにまとめたうえで受講する形をとっている。例えば、講義内容が「向精神病薬の副作用に対する援助」であれば、解剖学・生理学等で既習した錐体外路や副交感神経の作用について、有害反応の根拠となる基本をレポートにまとめ、授業に挑むようにしている。「精神看護学概論」や「精神看護特性論」は、「精神援助論」につながる基本をおさえているので、既習した内容が「精神援助論」の授業内容に関連する場合、既習の知識をレポートとしてまとめた上での受講としている。定期試験において、レポートと関連させた内容のところは正答率がやや高い結果となっている。学生の意欲の差はあるが、既習得の授業内容とリンクさせ学生にまとめさせることによって、授業に向かう動機付け及び順序立てた理解につながると考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学 保健科学部 看護学科において、1年次配当「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、予習としてポイント個所をまとめ授業前に発表する形をとっている2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、授業後にポイントを文脈を作ってノートにまとめ、授業期間中間と最終日に提出し、コメントをつけて返却する。これらにより、単位修得試験以外において、最低限、授業内容について考える機会を設けている。また、看護の対象を理解するツールとして用いるエリクソンの発達論に関しては、自己の発達と関連させてキーワードの考察を深めるためにレポートを課している。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 CNSコースの精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、半期、各2単位）において、授業内容に応じたテーマで日頃の看護実践場面をまとめたものを持参してもらい、授業素材とし、実践に応じた助言を行っている。
3) 演習・実習の効果的な活用	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤短期大学神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程 専任講師の講師「精神看護学実習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）において、帰納的学習法をとっている。2日間の見学実習の後、3日間のスクーリング授業を行う。見学した内容をスクーリングで援助の根拠づけを行い、さらに内容を深化させていく帰納的学習法を実施している。スクーリングでは講義やグループワーク、個別指導等の方法をとる。グループワークでは見学したことについて、対象理解や援助方法、治療的環境という観点で話し合い理解を深めていく。また、学んだことを統括するために、看護過程をイメージできる事例（発症から入院～退院後の経過を追った事例）を選択し、精神状態のアセスメントをしながら患者の内的体験のイメージを膨らませ、精神看護の基本的な姿勢を患者の自我を支えるという視点でおさえる。また、2日間の病院実習ではなかなか機会が得られない退院支援については、DVDや新聞の切抜きなどを活用し、そのつど学生に問いかけながら理解を求める。授業終了後のアンケートでは、レポート学習から見学したことまで、すべてがつながる内容だったと評価を得ている。
	平成21年4月～平成27年3月	兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科 非常勤講師「ヘルスカウンセリング」（2年生 45人クラス）において、行動の変容をはかるということとカウンセリングの関係性についての概説。心理学の視点から人の心について理解した上で、傾聴の基本姿勢、関係性から生じる厄介な問題（転移・逆転移）、医療現場でのコミュニケーションの流れについて説明する。授業開始前に臨地実習で実際の患者とのコミュニケーション場面のプロセスレコードを課題とし提出、その中からいくつかの場면을抜粋し、患者の話す言葉の意味や対応を考える。グループワークで事例検討を行い、対象理解とコミュニケーション方法について考え、ロールプレイを行う。授業後の感想で、学生の実際の実習場面でのプロセスレコードを教材として用いるため、学生の関心が高まったという内容が多く聞かれた。
	平成23年4月～平成27年3月	神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科の専門科目「こころと歯科衛生ケアプロセス」（2年生 約90名それぞれABクラスに分けて行った）において、演習形式で行った。人を理解するための理論と、様々な対象者と関係を築くための基本的な知識を学習し、医療現場に適したコミュニケーションを実践できる能力を身につける。対象者の心を様々な角度から理解する意味について解説。演習として、話をきく基本姿勢について学生同士、意識をしてロールプレイをする。好ましい態度と好ましくない態度。歯科衛生士と患者の関係性の中で生じる厄介な問題について事例を用いて解説。人を理解するための心理学の理論や障害のある患者の概説。演習で歯周疾患患者（成人）と高齢者の患者の2事例で、対象理解とコミュニケーション方法についてグループワークをし、考える場を設けた。

事項	年月日	概要
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、IBL(inquiry-based learning)方式のアクティブラーニングとロールプレイングを導入している。IBLは、①目的に沿った事例を作成（統合失調症、うつ病性障害等）②事例から数行の情報が入ったパートを3から4作成。パートごとに＜事実＞＜仮説＞＜必要な情報＞＜調べる項目＞に分けて進行していく。＜調べる項目＞では学生が次の授業までに分担して調べる。③②に続くグループワークでは、①で作成した事例を学生に提示し、病院実習で用いる記録用紙に情報を記入、治療薬について調べ、精神のアセスメント、セルフケア項目順に沿ってのアセスメント、全体図、看護計画を作成していく。④③で作成した看護計画をロールプレイングで実施する。また、ロールプレイングでは他に「かかわりを拒絶する患者」や「幻覚のある患者」等、病院実習でよく遭遇する場面を設定し行っている。IBL方式の少しずつの情報提供は、病院実習での情報のとり方を想定し、少しずつイメージを膨らませ、患者に問いかねられるようにと言う意図も含み行っている。学生からは、この方式に馴染めない者もいるが、情報から、考えを進めていく筋道がわかるとの評価ももらっている。ロールプレイングでは、患者像のイメージを掴むのが難しく、双方向のコミュニケーション効果までは望めないが、「このような場面に遭遇した時はどうすればいいのか」と意識することにはなっていると思われる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において3年次配当、「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修1単位）ペーパーペイシェントを用い、情報の収集の仕方、収集した情報の記録の仕方、アセスメント方法と看護援助の導き方について、小ステップでの個人ワークとグループでの意見交換の後教員の解説を行う。授業ごとに個人ワークは提出し、教員のコメント付きで返却することを看護過程終了までの5回行う。次に、別事例（ペーパーペイシェント）をグループで展開する。グループワークの内容は、情報の収集・アセスメント、援助の方向性までグループで検討しながら看護の展開をはかる。自分で思考したうえでグループで検討しあうことは、思考過程を広げ深めていくことができると考える。また、グループで立案した看護計画は学生同士で患者・看護師役を交代で行い実践し、その実践課程をプロセスレコードに記入し振り返りを行っている。模擬ではあるが実習で実施する看護実践課程を一通り体験している。

事項	年月日	概要
4) 視聴覚教育技術その他教材の利用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、精神障がい者の生きづらさや苦悩について、理解をはかるためにドキュメンタリーのDVDを活用している。「精神看護学概論」では、映画「精神」から統合失調症の女性のヒストリーを語る場面を視聴、後に解説をすることで、成育歴や生活環境が患者の精神状態や心理にいかに関与を及ぼすのかについて理解を図る。「精神看護特性論」では、自閉症の患者のDVDを用い、障害の特性や苦悩の理解を図る。「精神看護特性論」と「精神援助論」では、COMHBO地域精神保健福祉機構の作成するDVDを用い、SSTや訪問看護、心理教育など地域で暮らす障がい者の様々な治療やサポートについて患者の心理の描写とともに理解を図る。後の感想・評価からは、いずれも精神障がい者に対して、共感的にイメージ化が図れている一助となっていることがわかる。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科にて「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）で、抗精神病薬の有害反応や、閉鎖病棟のイメージ化を図るためにドキュメンタリーの映像を活用している。また、妄想や幻覚などの病的体験のイメージを広げ共感的理解の促進を図ることを目的に、当事者グループが作成した「妄想幻聴かるた」を活用している。 精神看護の理解が進んだ後に、奈良県の地域活動支援センターに通所する当事者にゲストスピーカーを依頼し、ご自身の体験と看護師の支援に関する体験をお話しいただいている。以上により、様々な生きづらさや背景を持つ対象と看護に必要な基本知識の理解を促進する。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅳ・精神看護学演習Ⅱ（専門科目、1年次配当、後期、各2単位）でSSTの実践について、流れやポイントを理解するためにDVDを活用している。
5) 双方向授業の実践	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤短期大学神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程 専任講師の講師「精神看護学実習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）では、2日間の見学実習の後、3日間のスクーリング授業を実施する。スクーリングでは講義やグループワーク、個別指導等の方法をとる。グループワークでは見学したことについて、対象理解や援助方法、治療的環境という観点で話し合い、話し合ったことを発表する形ですすめている。グループワークに適度に入り、質問や助言を行うことや、その後の発表では各グループの発表直後に質問や助言をしている。その後のレポートから、その場その時のやりとりは、学生に理解の深まりや広がりにつながっていることが読み取れる。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、講義形式をとる場合、適宜発問をし、周囲の学生と2分ほど話し合い、意見を発言してもらう。これらを1回の授業で4回～5回設けることで、学生の注意を喚起し、居眠りが減る傾向にある。
		神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）では、8日間の病院実習と半日の学内実習を行っている。病院での実習と学内実習では、学生に付き添い、対象者の背景から読み取る理解やコミュニケーションを通しての理解、精神状態や心理状態の把握、コミュニケーションの取り方や実施した援助についてなど、その場その時に応じた質問や助言を行っている。実習学生から返ってくる内容や感想、提出物の内容の充実さから効果が認められる。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において担当の1年次配当「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、ゼミ形式にて、常時間いかけと発言を繰り返して行っており、学生が自分の考えを発言する機会を多く持つようにしている。2年次配当「精神看護学概論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、授業の終わりにミニノートと質問を記述し、次回の授業の際に授業のおさらいの意図も含め、質問に答えている。オムニバスにて、次週担当しない場合は、GoogleClassroomにコメントを掲載し、学生に返している。2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、1単位）および3年次配当「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）においては、講義形式の際は発問を取り入れ、演習の際には、巡回し、質問ができる環境を整えている。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、1年次配当、半期、各2単位）では、理論や知識の説明後、臨床経験を有する学生の現場での体験を話してもらいながら関連付けて授業を進めている。
6) ディスカッションの導入	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤短期大学神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程 専任講師の講師「精神看護学実習」では、3日間のスクーリングは主にグループワークのディスカッションですすめられていく。学生の年齢層が20代後半から60歳代まで幅広く、人生経験も豊かなため、ディスカッションも活発である。ただし、個性も豊かで、他者の発言を聞き入れられなかったり、内容に偏りが見られることもあり、適宜介入が必要である。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」「精神援助論」において、隔離・拘束について“人権を守る”ということはどういうことなのかについてディスカッションをしている。ディスカッションをすることで精神障がい者の人権を守る意義について意識化を図る。また、精神状態やセルフケアのアセスメントをする際、まずグループで事例を用いて討議することからはじめ、個人作業に移行させている。グループによっては、討議までにはなかなか至れず、発言する者にグループが引っ張られる傾向も見られるが、学生同士が質問し教え合う場にはなっている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、少人数の中でさらにグループに分け、テーマに応じてディスカッションする時間を複数設けている。その時の約束事として、相手の意見を積極的に聞く・否定しない・話の腰を折らないなどを設け、自分の考えを発言し、他者に受け入れてもらえる体験を強化している。2年次配当「精神看護学援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）においては、幻聴妄想かるたをグループで行った後、患者の気持ちの推測や、似たような体験、どう関わると安心できるかについて討議し、理解を深める機会としている。3年次配当「精神看護学援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修2単位）においてはペーパーペイシェントの演習を通して、根拠を相手に伝えながら、グループで一つのものをまとめていくことを狙いとしている。自分の意見も主張しつつ、他者の考えも受け入れる態度を学習する機会としている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、1年次配当、半期、各2単位）では、社会で自立し仕事をしている者同士のディスカッションを通して、さらに建設的な学びになるように時には、教員はファシリテーターの役割を担いながら、ディスカッションを促進する。

事項	年月日	概要
7) プレゼンテーションの導入	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」において、他の授業で既に授業を受けた発達課題についてグループでまとめ、発達段階ごとにプレゼンテーションを行う。また評価は、各グループの成員同士が互いのグループワークの参加度について5段階で評価し、平常点として加算することになっている。ほとんどの学生が4～5の評価をしており、グループワークの参加に対する意欲が高いと考える。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」において、実習の最終日に各実習病棟ごと（1クール：10～18名、1病棟3～6人、実習病棟は2～4病棟）に各病棟の紹介と実習で看護展開をした2事例を取り上げ、援助の流れと学び・感想を模造紙にまとめて発表している。プレゼンテーションを通して、他病棟での実習内容を共有することで学びの幅を広げている。実習最終日でもあり、様々な思いを抱く中、プレゼンテーションに対する内容の質疑・応答、感想などの発言も比較的活発であり、主体的な参加が認められる。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「課題別総合実習」（専門分野、4年次配当、半期、必修4単位）において、実習を終えた後、実習病院で全実習病棟の看護部長・師長・指導者・かかわりのあった看護師に向けて、パワーポイントを用い、実習の成果を発表し、評価を受ける。自己の成果について実習病院で発表し評価を得ることは、学生にとって緊張度も高いが、また達成感も大きく、その後の自信につながっていくと考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、グループで話し合った内容を模造紙やパワーポイントを活用して、プレゼンテーションを行っている。学生は、初めて体験するものも多いが、グループで要点をまとめ、分担しながら行っている。3年次配当「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修1単位）においては、グループワークの成果である看護過程の経過と援助の方向性について、決められたパワーポイントの枚数内と制限時間内で発表をしている。制限のある中で、メンバーが協力し合い、おのおののマンパワーを生かしつつ成果を発表する場は、学生にとって達成感を得、自信を得る機会となっている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（専門科目、半期、各2単位）において、授業内容について、あらかじめ各自で調べプレゼンテーションを行うことで、主体的な授業参加、学習となっている。

事項	年月日	概 要
8) 小テストの活用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、軸となる理論については、小テストを実施し、理解の定着を図っている。小テストの項目としては自我防衛機制、エリクソンの発達論、精神の症状、薬の有害反応、ペロウとトラベルビーの関係性の進捗等がある。これらの知識を臨地実習において活用していることから、繰り返しの学習効果によるものと考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、精神看護学の重要な内容の授業が続く、内容は多岐にわたり、その都度の予習復習が求められるが、この時期、他科目も同じように進行しているため、学生は学ぶことが多く、能力を超えるものも多い。小テストをこまめにするすることで、要所要所でいやおうでも、振り返り学習機会を持つことで、ポイントは抑えられると考える。
2 作成した教科書、教材		
1) 各授業、レジュメを作成し配布する。	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤短期大学神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野Ⅱ、必修1単位）「精神看護学実習」のスクーリングにおいて、講義の要点の理解と、復習に活用するために、授業のアウトライン及びポイントを1回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布している。内容は、複数のテキストから一部抜粋しまとめたものや、また対象を理解するための理論については、精神分析関連（フロイト・コフート等）の本の一部をまとめたもの、傾聴や共感の意味などについては、教員の様々な経験を統合し、文章化したものを使用。実習スクーリングでは、社会福祉に関する文献や新聞の切り抜き等を活用し、実際の場面に近い形の内容になるように心がけた。授業後には、ポイントがわかりやすいなどの感想を得ている。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、講義の要点の理解と、復習に活用するために、授業のアウトライン及びポイントを1回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布している。「精神看護特性論」「精神援助論」では、精神状態のアセスメントについては他の授業で馴染みがなくイメージしにくいことを受け、DVDで視聴した事例について、学生が考えた後に、教員が精神状態をアセスメントしたプリントを配布し、比較し考えるようにしている。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、レポートの書き方、要約の仕方のところで、朝日新聞の天声人語を学生が興味を持ちやすいと思われるテーマを8つほど選び教材を作成した。その中からさらに、学生を選び、グループで内容の精読や要約を行っている。2年次配当「精神看護学概論」（専門科目、2年次配当、前期、必修2単位）、2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）においては、毎回講義内容のポイントをまとめたうえで関連するアニメポイントを用い視覚的に工夫したレジュメを配布している。

事項	年月日	概 要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 神戸常盤大学学生による授業評価		神戸常盤大学において平成27年度に実施された学生による授業評価によると、「精神看護学概論」では、授業内容 4.2, 授業方法 4.3, 学習成果 4.2, 総合評価 4.5 「精神看護特性論」では、授業内容 3.4, 授業方法 3.4, 学習成果 3.5, 総合評価 3.3 「精神援助論」では、授業内容 3.6, 授業方法 3.5, 学習成果 3.8, 総合評価 3.7であり、2年・3年次の授業においては満足度が高いとは言えない。
2) 奈良学園大学保健医療学部看護学科における学生による授業評価		2022年度「精神看護援助論」では、授業方法に関する内容の＜先生の説明はわかりやすいですか＞3.54、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.77 2022年度「精神看護援助論演習」では、授業方法に関する内容について1組＜先生の説明はわかりやすいですか＞3.43、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.21、2組＜先生の説明はわかりやすいですか＞4.07、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.93、基本同じ内容と方法の授業をしているにもかかわらず、この点数差について考察するが、一つ思い浮かぶのは印象の問題が考えられる。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) なし		
5 その他		
1) 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程における教育実績	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の専任教員（講師）として、以下のような科目を担当した。
	平成19年4月～平成27年3月	「精神看護学概論」（平成19年4月～平成27年3月） 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野Ⅱ、必修1単位）において、精神の健康の基本的概念と精神看護の目的、精神の機能、パーソナリティの発達と阻害要因、精神障害の概説、援助の方法論、ストレスと対処行動、精神医療と看護の歴史的動向や精神看護の役割と課題についての概要の内容の授業を行った。対象理解のために精神力動的視点で心理を推察することや精神状態をアセスメントしていく方法と、精神援助として傾聴・共感がどうして重要になってくるのか等、ドキュメント映画「精神」のDVDを視聴し、関連付けながら解説することで、精神看護の概要を理解させる効果があった。

事項	年月日	概 要
	平成19年4月～平成27年3月	「精神援助論」（平成19年4月～平成27年3月） 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神援助論」（専門分野Ⅱ、必修1単位）では、様々な精神障害の学習に加えて、精神障害を有する人の精神機能上の問題やセルフケアに及ぼす影響について理解し、患者の苦悩を理解したうえで、基本的な援助のありかたを理解することを目的とした。テキスト学習でおさえるべきポイントを“学習の要点”として提示、テキスト学習をしたうえでレポート課題に取り組む。レポートの設題は、統合失調症・感情障害（鬱）、施設症の患者の理解（疾患・治療・心理）と看護援助に関する内容を設定した。添削のポイントとして、テキストを丸写しにするのではなく、基本をおさえたうえで、障害の理解や解釈、看護上の問題、障害からひきおこる患者の心理状態等を推察したうえでの援助等、学生自身の考察等を含むことを求めた。添削と再提出を複数回繰り返すことによって、個人に合わせた進度で理解が図れた。
	平成19年4月～平成27年3月	「精神看護学演習」（平成19年4月～平成27年3月） 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神看護学演習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）では、対象を総合的に理解し、効果的な看護実践ができることをねらいとし、レポート添削による指導をおこなった。＜統合失調症急性期＞＜感情障害（鬱）＞＜アルコール依存症＞の事例から設題を提示し、テキストや文献を活用し、対象理解をすすめる、状況に合わせた根拠のある援助を考えさせた。添削と再提出を複数回くりかえし、学生に応じた理解をはかった。
	平成19年4月～平成27年3月	「精神看護学実習」（平成19年4月～平成27年3月） 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の講師として担当の「精神看護学実習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）では、2日間の見学実習の後、3日間のスクーリング授業を行った。見学した内容を、スクーリングで援助の根拠づけを行い理解させていく帰納的学習法を実施した。講義やグループワーク、個別指導等の方法をとった。主にグループワークで見学したことについて、対象理解や援助方法、治療的環境という観点で話し合った。これらを通して、精神の病からひきおこる様々な生きづらさを抱える患者の理解と援助、精神科病棟の特殊性等、精神看護についての理解を深化させた。
2) 神戸常盤大学保健科学部看護学科における教育実績		神戸常盤大学保健科学部看護学科の専任教員（講師）として、以下のような科目を担当している。
	平成27年4月～平成30年3月	「精神看護学概論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）において、精神の機能と精神の健康・不健康に関する基本概念、および様々な成長・発達段階にある人の精神・心理状態を理解するための基礎的な理論の概要、精神看護実践に活用する理論の基礎的知識の内容の授業を行い、精神看護を支える基本的な知識の修得をはかっている。

事項	年月日	概要
	平成27年4月～平成30年3月	「精神看護特性論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）においては、ライフサイクルにおける危機と心と精神の問題、精神障害を有する人の精神機能上の問題や苦悩、セルフケアに及ぼす影響、各種療法と看護援助に関する基礎的な知識、精神保健福祉施策の変遷や精神障がい者に向けられる偏見の問題等を理解する内容となっており、グループワークや演習等を行い、医療・福祉・看護における現状の理解と課題を意識化させている。
	平成27年4月～平成30年3月	「精神援助論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）においては、精神ならびに身体の病をもつ人を総合的に理解し、適切な看護援助を組み立てる基礎的能力を培うことを狙いとした内容となっている。講義・グループワーク・IBL(inquiry-based learning)方式のアクティブラーニングとロールプレイング等の演習を通して、代表的な精神の病と生活への影響、精神の病をもつ人に対する看護展開の基礎、精神の病をもつ人と家族への看護援助の基礎、適切な社会資源の活用を理解させている。また、リエゾン精神看護の役割及び機能や精神看護における倫理についての理解も図っている。
	平成27年4月～平成30年3月	「健康支援実習Ⅲ（精神）」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）では、一学生につき8日間の精神科病院での実習と半日の学内実習を行っている。精神の病をもつ人を生物学的・心理的・社会的側面から総合的に理解するとともに、良好な治療的関係を構築し、セルフケアニーズとストレングス視点に基づく看護実践能力の基礎を培うことを目的とした実習内容になっている。その場その時に応じた指導内容によって、精神看護の統合を図る効果がある。計14週/年の精神科病院（急性期・回復期・慢性期）において学生指導を行う。
	平成27年4月～平成30年3月	「課題別総合実習」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学の講師として担当の「課題別総合実習」（専門分野、4年次配当、半期、必修4単位）では、自己の課題を明らかにし、課題を達成するために精神科病院での実習を希望する学生が対象となる。学生自身が実習計画を立て実習を行うことで、総合的な実践能力を高め、自己の将来の看護展開能力へとつなげる実習となっている。13日間の病院実習と2日間の学内実習から成り、病院実習最終日に成果を発表することでさらなる学習効果を得ている。
	平成27年4月～平成30年3月	「看護研究」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「看護研究」（専門分野、4年次配当、通年、必修2単位）では、研究方法の基礎力と研究的態度を身につけることを目標としている。精神看護学に関連する研究課題を選択した学生を対象に、一緒に研究過程をたどることを通して論文をまとめ上げ、目標を達成している。

事項	年月日	概要
	平成27年4月～平成30年3月	「看護活動基礎実習」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「看護活動基礎実習」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）では、看護専門職の実際の活動場面の見学実習を通して、看護の対象と機能・役割について学ぶ内容となっている。実習形態の学習に不慣れな学生のフォローと、実習場面でのポイントをその場その時におさえながら実習を進めることで成果を得ている。
3) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科における教育実績	平成23年4月～平成26年9月	神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科の兼任講師として、以下の科目を担当した。
	平成23年4月～平成26年9月	「こころと歯科衛生ケアプロセス」（平成23年4月～平成26年9月） 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科の兼任講師として担当の「こころと歯科衛生ケアプロセス」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）においては、人を理解するための理論と、様々な対象者と関係を築くための基本的な知識を学習し、医療現場に適したコミュニケーションを実践できる能力を身につける内容となっている。演習形式の授業を通して、心のメカニズムを理解し、歯科衛生ケアプロセスの場面に応じた対応能力を身につけ、それを基礎に対象者、あるいはその支援者への対応ができる基本が習得できた。
4) 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科における教育実績	平成18年4月～平成30年3月	兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として以下の科目を担当している。

事項	年月日	概要
	平成21年4月～平成28年3月	「ヘルスカウンセリング」 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として担当の「ヘルスカウンセリング」（2年次、14時間）においては、臨地実習前に行動変容とカウンセリング技術の関係性、心の理論、相互作用に関する理論、医療現場でのコミュニケーション技術についての内容の授業を行い、実習後に学生が実習でとってきたプロセスレコードを素材に、演習を行う。これらのことを通して、人の心の成り立ちと関係性についての理論的な観点をおさえた上で、実習で体験したケースから、関わり方の基本と応用を習得した。
	平成28年4月～平成30年3月	「健康心理学」 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として担当の「健康心理学」（2年次、4時間）においては、オムニバスで演習部分を担当した。臨地実習後に学生が実習中にとってきたプロセスレコードを素材に、対象者の思いに寄り添ったコミュニケーションの理解を図った。
5) 奈良学園大学保健医療学部看護学科における教育実績	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の専任教員（助教）として、以下のような科目を担当している。令和2年4月に講師となり、以下科目を担当する
	平成30年4月～令和元年前期	「基礎演習Ⅰ」（ラーニングスキルズ） 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年次前期配当、必修1単位）においては、1年生が大学の学習に慣れ、4年間の大学生活を有意義に送るための基礎を習得することを目的としている。講義ノートのとり方、文献資料の検索、学術的な文章の読み方、グループワークの進め方などについてゼミ形式の演習を通じて学習する。慣れたグループの中で、自分の意見を発言し他者に受け入れられる体験を通して、自己発信する基礎的な力を培っている。
	令和2年6月～現在に至る	「精神看護学概論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門科目、2年次前期配当、必修1単位）においては、他教員と分担・協力して授業を展開している。主に人間の精神の機能や脳の仕組み、発達段階における漸次的心理葛藤など、看護の対象理解を促進する基本的や自身のメンタルヘルスの向上をはかる部分を担当する。令和5年度よりカリキュラム変更にて（専門科目、2年生前期配当、必修2単位）になり、オムニバス形式で、主に人間の心の働きとパーソナリティ、心の発達論、精神看護の基盤となる理論と実践に関する内容について担当する。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学援助論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学援助論」（専門科目、3年次前期配当、必修2単位）においては、他教員と分担・協力して授業を展開している。様々な精神疾患や精神障がい者を理解し、精神看護学の基礎的知識と看護を学ぶことを目標としている。例えば、治療的な患者－看護師関係を成立させる方法、精神障がい者の観察の方法と治療について、精神科医療現場における身体合併症の看護について、精神症状や問題行動とその援助について、精神科リハビリテーション及び地域におけるサポートシステムの現状・課題について修得する。 令和2年度より（2年次後期配当、必修1単位）講義形式に変更。精神障害の理解から様々な治療方法、精神保健福祉法、精神疾患と苦渋の症状と看護のポイントについて修得する。
	令和2年4月～現在に至る	「精神看護援助論演習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次前期配当、必修1単位）においては、ペーパーペイシェントを用い、情報の収集の仕方、収集した情報の記録の仕方、アセスメント方法と看護援助の導き方について、小ステップでの個人ワークとグループでの意見交換の後教員の解説を行う。授業ごとに個人ワークは提出し、教員のコメント付きで返却することを看護過程終了までの5回行う。次に、別事例（ペーパーペイシェント）をグループで展開する。グループワークの内容は、情報の収集・アセスメント、援助の方向性までグループで検討しながら看護の展開をはかる。また、グループで立案した看護計画は学生同士で患者・看護師役を交代で行い実践し、その実践課程をプロセスレコードに記入し振り返りを行っている。模擬ではあるが実習で実施する看護実践課程を一通り体験している。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学実習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学実習」（専門科目、3年次後期配当、必修2単位）においては、精神の健康上の問題を有する人とその家族について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解するとともに、治療的な関係を築き、精神看護における看護実践能力の基礎を培うことを目的に精神科病院にて実習を行う。実習時間中は実習場にて、その場その時に応じて助言を行う。令和2年度は病院実習がかなわなくなったことを期に、訪問看護ステーションでの実習を行ったところ生活者としての対象をどのように支えていくかということの意識を強めることができた。令和3年度から病院実習と訪問看護ステーション両方の場で実習をすすめていく。
	平成30年4月～現在に至る	「統合看護学実習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「統合看護学実習」（専門科目、4年次後期配当、必修2単位）においては、看護過程の展開はもとより多重課題や看護マネジメント、多職種連携、地域連携などを視野に入れた実習を行っている。令和3年度から、学生自身の課題と探求したい内容に応じて個別の計画を立て、主体的な実習の中で看護観を深め、探求する意義を学ぶ。
	平成30年4月～現在に至る	「卒業研究Ⅱ」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「卒業研究Ⅱ」（専門科目、4年次前後期配当、必修1単位）においては、学生の興味関心のああるテーマを文献検討し、論文を作成する。少人数グループ（2～4名）でゼミ形式で進めている。
	令和3年～現在に至る	「統合看護論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「統合看護論」（専門科目、4年次後期配当、必修2単位）において、精神看護学分野において担当する。精神看護の全体像をおさえたうえで家族・地域も含めた複雑事例の看護の展開について、小テストの事例からアセスメントと支援の方向性について解説し、精神看護学についてさらに実際に根差した気づきと理解の深化を促進する。
6) 奈良学園大学大学院看護研究科における教育実績	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の専任教員として、以下のような科目を担当している。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅰ（歴史・法制度）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にノーマライゼーションの概念と実際について担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅱ（精神・身体状態の評価）」 奈良学園大学大学院看護学研究科講師として主に心理機能評価・身体機能評価を担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅲ（精神科治療技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主に治療技法（精神療法）について担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅳ（精神看護理論、援助技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にSSTについて担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学演習Ⅰ（精神科治療技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にカウンセリングの基本技法について担当し、各々の実践による経験による検討や模擬演習をしならすめる。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学演習Ⅱ（精神看護理論、援助技術）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にSSTについて担当し、計画立案と模擬演習を行う。
	平成30年4月～令和4年度	「特別研究」（専門科目、1・2年通年、8単位） 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として、学生の研究テーマから研究計画、倫理申請、データ収集、結果、論文の作成まで助言を行った。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	「課題研究」（専門科目、2年通年、4単位）奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として、学生の研究テーマ、研究計画、倫理申請、データ収集、結果、論文の作成まで助言を行った。データ収集においては、直接ケア実習、上級ケア実習の実践内容から抽出するため、実習の進行の最中においてもテーマに焦点を当てた助言を行う。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許		
1) 看護師免許証	昭和60年5月9日	第532000号
2) 修士（人間文化学）	平成15年3月	甲子園大学大学院人間文化学研究科人間文化学専攻 修了 人間文化学 修人第9号 論文題目「看護師の共感性に関する認識と特徴」
3) 臨床心理士資格認定	平成16年3月20日	第11561号
4) 公認心理師登録	平成31年2月5日	第14522号
2 特許等		
1) なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 医療法人朗源会おおくまりハビリテーション病院（常勤3年間、非常勤5年間）	平成16年4月～平成25年3月	脳梗塞・脳出血発症後、ギランバレー症候群等の回復期で後遺症（四肢麻痺や失語等）から抑うつ状態、否認、強い悲嘆反応等の心理的問題を持つ患者と家族に対し、ベッドサイドやデイルームで対話やコラージュを用いた心理療法を行い、障害を受容していく過程に寄り添った。JR福知山線で電車事故に巻き込まれリハビリを要する患者の心的外傷に対して心理療法を行った。他には多系統萎縮症（難病指定）で極度の起立性低血圧や全身の筋力低下が著しく進行し悲嘆にくれる患者に対し、対話で心理療法を行い生きる意味を模索した。外科病棟で医師・看護師から依頼のある癌末期で抑うつ状態の患者に対して心理療法を行った。医療スタッフ（看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・医師）に対し、心理的問題を持つ患者の精神・心理状態についての情報提供や関わり方のコンサルテーションを行った。職場に馴染めない新人スタッフや職場・家庭内で問題を抱えるスタッフに対しカウンセリングを行った。
4 その他		

事項	年月日	概 要
1) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究C（課題番号：24593282） 研究代表者 武ユカリ 研究題目「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」	平成24年度～平成27年度	在宅看護の臨床現場に特化した暴言、暴力に関する調査はまだ少なく、現状も明らかになっていない。本研究では在宅看護における暴言、暴力の発生状況、対応の現状と、それらの発生する背景や要因や対応困難事例について、明らかにした。困難事例、暴言・暴力についての訪問看護師への個別面接調査や訪問看護ステーションに対する郵送質問紙調査、グループ対話による困難事例の困難に関する検討を行った。在宅看護におけるリスクマネジメントや、療養者と家族に対する支援の在り方について検討した。

事項	年月日	概 要
2) 常盤大学テーマ別研究助成金 研究代表者 西出順子 研究題目「在宅で生活する精神障がい者と家族のストレングスに焦点を当てた支援方法の検討ー 訪問看護師のストレングスへの着目点とケアの成果 ー」	平成28年5月～平成29年2月	訪問看護師が在宅で生活する精神障がい者と家族（以下、対象者とする）に対して行っているストレングス に着目した支援方法とその成果を明らかにした。対象者を訪問する看護師に半構造化面接を行い、得られた結果から意識化されず実施されているストレングスに着目した支援内容をカテゴリ化にて明らかにし、成果について検討した。
3) 奈良学園大学共同研究助成金 研究代表者 西出順子 研究題目「COVID-19 状況下でのグループワークにおける学生の体験」	令和4年5月～令和5年3月	令和3年度に実習を終えた4年生に臨地実習とグループワーク演習についての体験についてインタビュー調査を行った。データはM-GTPにて解析中である。
4) FD委員会 委員	平成19年4月～平成27年3月 平成28年4月～平成30年4月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程在籍中と神戸常盤大学保健科学部看護学科において、FD委員として活動を行っている。大学教職員の能力開発を目標とし、平成19年度から全教員に向けて年2回の研修を行っている。平成28年度は 1. 教育改革を進めようとする当大学の教職員の理解を進めるために最近の教育改革の動向を文科省の大学改革官から聞く機会を企画する。 2. 主体的かつ深く志向する学生を育成するための教育技能を学ぶためにディープアクティブラーニングのワークショップを開催する。 3. 学科内のFD活動を計画的に進める 4. 公開授業を促進し、教員相互の教育技法を向上させるを目標に進めている。学科内FDでは、全体のディープアクティブラーニングのワークショップの前に、学科内で活発にアクティブラーニングを行っている教員に依頼し、模擬授業を実施、そのあとグループワークを行い、アクティブラーニングの効果的な方法について検討を行った。
5) 国家試験対策委員会 委員	平成28年4月～平成30年3月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程在籍中と神戸常盤大学保健科学部看護学科において国家試験対策委員をしている。看護師国家試験対策として、学科教員の講座や業者の模擬試験や講座を組み入れたプログラム作り、模擬試験成績の振るわない学生へのフォロー、学生主体の学習会のサポート等を行っている。平成27年度生の看護師国家試験の合格率は95.1%であった。
6) 入試委員会 委員	平成26年4月～27年3月	兵庫県、京都府、滋賀県、関東地域等で入試広報を行った。また、受験生の書類審査、合否判定の資料作成等を行った。神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制過程において、学習から遠ざかっていた学生が入学後すぐにテキスト学習にとりくめることを目的に入学前教育を行った。内容はテキストの活用の仕方、レポートの書き方、また、模擬のレポート設題を設け、テキストを活用しレポートをまとめていく過程について解説を行った。参加は任意であったが、地方からも参加があり、参加率は70%と学生の意欲の高さがうかがわれた。

事項	年月日	概要
7) 入学試験の出題 看護学 委員	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学 保健科学部 看護学科 編入試験の精神看護学に関する問題を作成した。
8) 一般社団法人 日本精神分析的自己心理学協会の運営する精神分析的心理療法家養成のための訓練研究所による通年の研修を受講「現代自己心理学Ⅰ」「現代自己心理学Ⅱ」「フロイトの著作」	平成24年4月～26年3月	自己心理学はコフートが生み出した理論であり、自己愛に問題を抱え（自己観の問題を抱え）生活の中での生きづらさを体験する患者への精神分析的アプローチの一つ。「現代自己心理学Ⅰ・Ⅱ」では、自己心理学・間主観性理論・関係性理論の考え方や臨床の中で活用する方法を学んだ。クライアントとセラピストとの治療的な関係性の中で、その場その時に生じている事象を捉え、目指す方向性を定める指針となる理論について学ぶとともに各自の臨床事例を持ち寄り、グループスーパービジョンを受けた。この理論は患者―看護師関係においても、関係性の鍵概念・アセスメントと治療的なアプローチにおいて十分に活用できる理論である。「フロイトの著作」では、神経症水準（不安障害・恐怖症等）の患者の捉え方、治療的な関りについて古典を理解し、自己心理学と比較しながら差異を理解する内容となっていた。フロイトは一者心理学であり、自己心理学は二者心理学といわれるが、その差異を理解することができた。
9) イギリス研修旅行（トラウマ・インフォームドケア研修）に参加	平成28年9月18日～9月25日	医療法人寿栄会有馬高原病院主催の研修旅行に参加。イギリスを訪問し、認知症の方が利用する施設・病院の視察を行い、またスウォンジー大学で研修を受けた。認知症を患った方が利用する施設や病院を見学し、トラウマ・インフォームド・ケアの観点から日本との差異を認識し、よりよいケアのありかたについて考える機会を得た。患者―看護師関係は平等であり、患者の意思と尊厳が最大限に守られる理念のもと物理的・人的環境が作られていた。スウォンジー大学では当事者（てんかん）から治療による有害反応から生活障害を引き起こした体験や、治療の弊害を訴え発言する場を確保する活動について話を聞いた。また、研究者からはメンタルヘルスシステムが細分化されすぎ、ケアの評価が患者個人の思いや願いが重視されず、数値のみに頼る弊害を明らかにしたうえで見直すための研究や、患者目線からみたケアの評価の検討等の研究について聞く機会を得た。
10) 第2回 臨床精神看護学研究会 準備事務局員	平成29年1月～5月	平成29年5月20日 有馬高原病院で開催予定。発表会の運営と準備に関する役割を担う。

事項	年月日	概 要
1 1) FD委員会 委員	平成30年4月～平成31年3月、令和4年4月～令和5年3月	奈良学園大学において『教育力をあげるようなFD活動』をテーマに2回/年の研修会を企画運営に携わった。8月日頃の指導の中での困難さや課題を出し合い次回FDプログラム作成につなげるためのワーク、3月コーチングについて 令和4年度は、教育に関する現状の課題や取り組みの工夫について、グループワークを中心としたF D研修会を3回開催した。第1回テーマ「PROGテストの結果の説明を受け、教育の工夫についてのグループワークで話し合い、結果を共有する」、第2回テーマ「学生の授業態度によく見られる2ケース <集中力が続かない学生><事前学習が不十分なまま実習に行き、自己評価が高く、自分のことを振り返られない学生>について工夫や対処方法を検討する」、第3回テーマ「後期の授業を振り返り、次年度への改善策を発見する」その他、1年次生対象に地域住民との交流「健康フェスティバル」を企画運営した。
1 2) 人権教育研究推進委員会	平成30年4月～平成31年3月	奈良学園大学において、奈良県大学人権教育研究協議会の企画する研修会に参加するとともに、1回/年の研修会を企画運営する。30年度は「ハラスメントを防止するために」の企画運営に携わった。
1 3) 実習ワーキング	平成31年4月～令和2年3月	奈良学園大学において、3年次各領域の臨地実習枠の作成、4年次統合実習の実習枠の作成、実習場の開拓、実習方法の見直し、実習要綱の見直し、コロナ渦においての臨地実習方法などについて検討した。また、実習における学生の進捗状況やケア方法なども検討し共有しあった。
1 4) カリキュラムワーキング	令和2年4月～令和5年3月	奈良学園大学において、新カリキュラムに向けて、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを新たに定め、カリキュラムの立案に携わった。
1 5) 教務ワーキング（令和4年度教務部会に変更）	令和2年4月～現在	奈良学園大学において、時間割や単位修得に関する判定方法と各種日程・期間、履修の手引き、入学前試験、新入生ガイダンスや新年度ガイダンスに関する内容検討と実施に携わった。その他、学習・授業に関する問題など適宜検討した。
1 6) 学生生活部会	令和4年4月～令和5年3月	学生の状況の共有、他、学生からの提案窓口の設置と事項の共有、支援などを検討した。

事項		年月日	概 要	
17) 日本看護研究学会 第50回学術集会 企画準備委員		令和5年4月～令和6年8月	令和6年8月24日25日奈良県コンベンションセンターにて学会が開催され、広報はじめ企画準備に携わる。	
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1. 会話でわかる看護師のコミュニケーション技術	共著	平成30年9月	中央法規	第6章 様々な分析からわかる看護師のコミュニケーション技術の中の「共感の視点を分析してわかるコミュニケーション技術」のテーマで自己心理学を用い共感に着目し会話を分析した。(p. 98～107)
2. 改訂版 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図関連図	共著	令和2年1月 (改訂版発行日)	中央法規	ワンポイントラーニング 身体合併症を担当する。生活習慣病、生活習慣病から生命にかかわる疾患へ、衛生面からの問題、ロコモティブ症候群など、精神障がい者と関連の深い合併症について解説した。(p. 149)
(学術論文)				
1. 精神科病院におけるトラウマインフォームドケアの有用性について 資料(査読なし)	単著	平成28年3月	甲子園大学 発達・臨床心理センター紀要10. 11号合併号 p. 30～33	トラウマインフォームドケアは、アメリカの精神科医療におけるコア戦略の中でも核となる概念の一つであり、トラウマインフォームドケアを導入することで入院中の再トラウマ体験を防止し、速やかに回復を図ることが狙いとされ、精神科病院においてこの考え方が浸透している。日本では、2015年に川野がアドバイザーとして所属する特定医療法人寿栄会有馬高原病院で病院をあげてトラウマインフォームドケアの理解を深め、臨床の中で実践を試みている。トラウマインフォームドケアについて、以下二点考察を行った。一つは自己心理学を用い個別的なケアの有用性について、もう一つは組織における管理的な側面からの取り組みの必要性について考察を行った。
2. 看護のケアリング機能—共感の意味についての一考察— 研究報告(査読付)	単著	平成29年12月	日本サイコセラピー学会雑誌第18巻第1号 p. 87～95	急性骨髄性白血病(AML)で化学療法を受けた50歳男性の看護援助の経過について報告し、看護師の患者に対する共感的理解と看護師のニーズに焦点を当てて考察を行う。生活のほとんどが受け身的にならざるを得ない患者にとって、過酷な入院生活で生じる感情こそが自己の存在を確認するものとなる。しかし、時には患者から発せられる感情は、看護師のニーズに反することもある。看護師は共感を通して患者の気持ちに寄り添いながらも、時としてアンビバレントな感情を抱え、関係性の中でその瞬間に浮かび上がってくる言語・非言語の表現を返し、それを受けて患者は反応し看護師に投げかける。この絶え間ないやりとりがケアリングであり、危うくなる患者の自己存在感を支えることとなる。

事項			年月日	概 要
3. 訪問看護師にとっての対応困難事例の困難要素について：テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析より原著（査読付）	共著	平成29年12月	日本在宅医学会雑誌第19巻第1号 p. 11～18	困難事例について多職種連携チームでの対応を促進するため、訪問看護師の困難要素を明確にすることを目的とした。訪問看護師12名に対する半構造化面接法による個別面接調査、横断研究で、テキストマイニングソフトを用い解析し、困難要素の分類を行った。【体制・マネジメント】【職務】【疾患・障害】【現状認識】【治療・ケアに対する反応】【利用者・家族の不服】【人間関係】【療養環境】の8カテゴリーの困難要素を特定し、「利用者・家族の感情」「訪問看護師の職務意識」「地域体制の整備と訪問看護ステーションのチームマネジメント」について考察した。 分担部分：構想・デザイン・データの取得・分析・解釈に関与 共著者：武ユカリ、小坂素子、西出順子、安斎三枝子、金川治美
4. 20歳代女性のカウンセリング場面の分析～自己心理学の観点から治療的かわりについて焦点を当てて（査読付）	単著	平成30年3月	精神看護におけるディスコース分析研究会誌第5巻 p. 25～32	カウンセリングの一場面を取り上げ、会話分析を行った。セラピストは60代の男性。患者は20歳代の女性であり、職場でのハラスメントをきっかけにパニックになり、認知行動療法をベースに定期的にカウンセリングを受けていた。定期的に行われている面接場面を患者の同意を得て録音・録画し、そのうちの1セッションの逐語録を作成した。本稿では、セラピストが患者のいつもと違う様子を察知し、手法を切り替えた1セッションを取り上げ、治療的関りについて自己心理学の主要概念である「自己対象ニード」「自己対象体験」「共感」「相互的調制」に焦点を当て分析を行った。セラピストとの安定した自己対象体験は、患者の傷ついた自己対象（男性像）を修復し、成果に通じる可能性を大きく持つと考える。
5. 相互作用を振り返るための概念枠組みーポスト自己心理学の臨床活用（査読付）	単著	令和2年3月	第3回 臨床精神看護学研究会（奈良） p48～52	患者看護師関係のプロセスを振り返るツールとして、自己心理学派のリヒテンバーグの動機付けシステム理論をとり上げる。リヒテンバーグの言う動機付けとは、シンプルには「何がその人を動かすのか、その人は何を求め、何を避けるのか」を指しており、これを関係性の中で湧く「欲求」と捉え、以下7つの欲求・動機付けシステムを挙げている。①生理的要請に対する心理的調節②個人への愛着③集団への親和性④養育⑤探求と好みや能力の主張⑥身体感覚的快と性的興奮⑦引きこもりや敵意を用いた嫌悪的反応、これらの欲求には感情が伴い、その先には意図や目的がある。これら7つのシステムが相対的に「今ここで」あるいは「その時そこで」重要あるいは優勢かということとは刻一刻と変化する事柄といえる。この動きを相互作用として丁寧に捉えることが、その場その時の関係性をアセスメントすることにつながると考える。今回は、事例を用いて理論の概要を紹介する。

事項			年月日	概 要
6. 精神障害を有する患者の理解を促進する授業方法の工夫—『幻聴妄想かるた』を教材にした学生の体験と学び—(査読なし)	単著	令和2年12月	奈良学園大学紀要第13集 p. 177～188	〔目的〕『幻聴妄想かるた』を取り入れた演習が、学生にどのように体験されているかを把握し、学習への影響や体験の中で生じている現象について考察し、さらに効果的な授業方法を検討する。〔研究方法〕『幻聴妄想かるた』を用いた演習後、任意によるアンケート調査を行った。〔結果〕『かるた』を行っている時の感想は【学生の感情体験】【現象・対象理解】【作品の印象】に、精神障がい者に対する理解では【精神障がい者に対する理解】【グループメンバーの視点の差異】【関わりの姿勢】に、幻覚妄想を有する精神障がい者に対する援助では＜聞く＞＜寄り添う＞＜受けとめる＞＜共感する＞＜否定も肯定もせず、幻聴を深めることは言わない＞＜幻覚・妄想の対応へのとまどい＞〔考察〕『幻聴妄想かるた』を用いた演習は、自由な雰囲気の中で楽しみながらも、幻聴妄想体験の不思議さや、わからないさが探究の動機付けに適切だったこと、そして、学生同士安心して楽しめる場を作り、そこでの討議がイメージの拡充や理解の促進に効果的だったことが示唆された。課題として、共感的な支援につなげるために、学生自身が当事者に近い体験ができるような工夫が必要であることが明らかになった。
(その他)				
[実践報告]				
1. 患者を支えるための概念枠組み—自己心理学の臨床活用	単著	平成29年11月	第2回 臨床精神看護学研究会誌 2017年 p. 2～5	筆者は看護師の経験を持ちながら大学・大学院で心理学を学習する機会を得た。多くの理論を学び、臨床心理士としてリハビリテーション病院に入職し、患者と自己の理解、関係性の把握に活用してきたが、精神分析系の理論を治療的な関りに用いようとする、病院臨床では使うことが難しい現状に行き当たった。その理由として、治療の枠組みが厳密であること、患者自身が自己を分析し、把握していくためのモチベーションを必要とすること等が考えられた。模索する中で、患者の言動と筆者の心理がちょうどマッチした自己心理学に出会った。本稿では筆者の臨床での経験を通して、これら理論の活用の概要を紹介する
[学会発表]				
1. 訪問看護の困難事例についての哲学的グループ対話を用いた検討	－	平成26年7月	第22回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会(兵庫県神戸市)	2012年2月～2013年8月哲学的対話手法 (Neo-Socratic Dialog:以下NSD) を用いて、異なる背景の参加者(訪問看護師、その他の医療介護職、一般人、倫理等専門家、メディア関係者等)による対話から困難事例の「困難」とは何かについて検討し、結果を報告した。第1回討論から「療養者の意思を尊重しながら、医療ニーズに応えるため、訪問看護師の判断をもとに、関係者(医師、療養者、介護者等)との高度な連携が求められること」、第2回討論から「療養者の生活の多様な価値観のなかで、看護職が重視する価値の実現のため専門的援助を行うこと」、第3回討論から「療養者の生活上の問題に直面しても、ときに訪問看護師1人では援助手段を見出し難いこと」が導かれた。本人担当部分: NSDに参加、結果分析を行った。共同発表者: 會澤久仁子、武ユカリ、金川治美、西出順子、小坂素子、安齋三枝子

事項			年月日	概 要
2. 訪問看護師の対応困難事例における困難要素の検討ー全国質問紙郵送調査の結果より	ー	平成28年7月	第18回日本在宅医学学会（東京）	8カテゴリ28分類に整理した個別面接調査の分析結果と文献検討、グループ対話で得られた結果を含め、岩間の分類を参考に質問項目を作成した。回答数588（回収率29.4%）、うち505（有効回答25.3%）を分析対象とした。65項目について最終的に全40項目、4因子を抽出し、以下の通り命名した。i「家族・利用者の抑制のバランスが保てていない態度」、ii「訪問看護師の能力レベルと組織の協力体制」、iii「利用者・家族の疾患と状態に起因する生活能力の低下」、iv「家族が円滑にケアすることを阻む状況」全体のクロンバックα係数は0.96であり、各因子のクロンバックα係数は0.89～0.92で内的整合性は高い結果が得られた。 本人担当部分：質問紙の作成（訪問看護師への個別面接調査と語りの内容からカテゴリの作成とネーミング、文献やグループ対話で得られた結果から質問項目を考えた）、結果分析（因子分析過程におけるデータの絞り込みとネーミング）、発表内容の検討を行った。 共同発表者：武ユカリ、金川治美、小坂素子、西出順子
3. 訪問看護師が感じる困難要素の検討ーインタビューによる質的分析と質問紙による量的分析の統合ー	ー	平成28年8月	第2回 日本混合研究法学会（東京）	訪問看護師は療養者と家族を対象に個別性の高い多様な援助ニーズに対応しなければならず、対応困難事例に遭遇することが多い。文献研究ではこれまで対応困難事例に関する訪問看護領域の研究は少なく、何が困難の要素となっているかについて検討されていなかった。また哲学的対話手法（NSD）による調査では、訪問看護の対応困難事例には非常に複雑な困難要素があるが、それらにはいくつかの抽象的な枠組みがあることが示唆された。そこで本研究では対応策の検討につなげるため、訪問看護師の感じる困難要素の構造を明らかにすることとした。研究方法は、質的研究の結果から訪問看護における困難要素を抽出し、その結果得られた知見をもとに、仮説検証のための量的研究につなげ統合した探索的順次的デザインを用いた。混合研究法を用いることで、より実態に沿った調査を行い、困難要素の構造を明らかにした。本人担当部分：発表内容に関連する研究への関与と発表内容の構成と内容検討。共同発表者：武ユカリ、小坂素子、西出順子、會澤久仁子、金川治美
4. 在宅で生活する精神障がい者の支援方法の検討ー訪問看護師のストレスに着眼したケアの一考察ー	ー	平成30年7月	第49回日本看護学会ー在宅看護ー学術集会（佐賀）	【目的】訪問看護師が精神障害を有する療養者に対して、独自の方法で行っているストレスに着眼した支援方法を明らかにする【方法】[研究対象]A県下の訪問看護ステーション6施設、各施設管理者に推薦された看護師10名[研究期間]平成28年9月～平成29年2月[研究デザイン]質的記述的研究[分析方法]質的統合法（KJ法）【結果】元ラベル74枚から①困りごととは強みに通じるゲート②身体をいたわる③好きなことは現実感覚強化の糸口④自信は新たな希望のエネルギー源⑤望みや願いを第1に守るの5要素を抽出した。【結論】訪問看護師は日々の関りの中で自ずとストレスに着眼しながら支援をしている。時に、利用者の願いや望みが過剰に作用し体調を崩すことにもなるが、あきらめずに将来に希望を持ち共存していく手立てを一緒に探ることが、地域での生活を支えていく上で重要であることがわかった。 本人担当部分：研究計画、文献検討、インタビューガイドの作成とインタビュー、結果分析、考察、発表 発表者：西出順子、木村聡子、鶴飼知鶴、畑吉節未

事項			年月日	概 要
5. ト라우マに関する看護研究の特徴－テキストマイニングによる解析－	－	令和4年7月	第28回日本看護診断学会学術大会 Web開催	【目的】トラウマに関する文献検討から、トラウマの研究の特徴を明らかにし、今後のケアの方向性について検討すること【方法】医学中央雑誌ウェブ版（2022年4月10日現在）（1998年12月～2022年1月）を用いた。検索はトラウマ、看護、原著論文、本文有とした。結果、72件抽出され本研究対象とした。テキストマイニングにより、タイトルと抄録内容について共起分析、コロケーション解析対応分析をして、トラウマ研究の特徴をみた。【結果・考察】多岐にわたる研究（対人ストレス、災害、疾患や出産体験など）がなされ、トラウマの研究の特徴として、「トラウマへの支援」、「様々な外傷に関連するストレス」「ケア行動の効果」「障害の治療」「退院困難な患者の家族への支援」があった。トラウマのケアに対する有効性の研究はほとんどされておらず、今後の検証が期待され、また、看護診断の指標にT I Cの新しい概念を取り入れることも必要と考える。本人担当部分：結果分析、考察 発表者：上野栄一、西出順子、山崎陸世、高田勝子
6. 高校生のマインドフルネスが心身の健康状態に及ぼす効果の関係性	－	令和5年1月15日	第66回日本心身医学会近畿地方会Web開催	【目的】高校生のストレス軽減法として、マインドフルネス呼吸法に着目し、健康状態に及ぼす効果を検討する。【方法】高校生16名に起床後に5分間の呼吸を2週間実施し、呼吸開始前と14日目健康状態と主観的ストレス度を測定した。また、毎日の呼吸前後に現在の気分を数字で評価し、ノンパラメトリック検定を行った。【結果】2週間後の主観的ストレス19項目中7項目に優位差があり、また、呼吸前後で気分の変化指数が上昇した。本人担当部分：実施準備、データ打ち込み、結果考察 発表者：高田勝子、上野栄一西出順子
7. COVID-19感染症拡大の状況下での精神看護学実習における看護学生の学び	－	令和5年3月4日	第27回日本看護研究学会東海地方会	【目的】Withコロナ時代における臨地実習の教育につなげるため、看護学生へのインタビューによる調査を行い、今後の教育の示唆を得ること。【方法】研究 対象者14名の学生にインタビューを行った。分析はKrippendorffの内容分析法に準じた。【結果】「病院実習」では、実際に『患者－看護師関係のコミュニケーション』を通して『患者視点へシフト』することで『精神患者の生きづらさを認識』し、【精神看護実習ならではの体験】をしていた。また、受け持ち患者の【看護展開】を通して『意図的な看護ケア』について『自己の未熟さに気づき』ながらも『患者からもらったことば』に感動していた。さらに目標とする『将来の看護師像』ができ【将来への展望】につながった。「訪問看護実習」では、学生は『利用者精神障害の心情を感じ取る』ことで『訪問看護を活用する意義』を深め、【病院から訪問看護へのつながりの実感】があったが【精神科病院イメージ化の困難】を感じていた。「学内実習」では、《事例での看護展開のジレンマと限界》を感じながらも『アセスメントの共有』や『ディスカッションに対する満足感』などの《グループワークの強み》を認識し、様々な【グループワークの長短】があった。また《臨地での体験不足による自信のなさ》から精神看護の【イメージと現実のギャップ】を感じていた。【考察】病院実習とは異なる実習でも、違った視点の学びがあると提示することで学習効果が期待されると考える。本人担当部分：インタビュー、カテゴリ生成、結果分析、考察 発表者：山崎陸世、西出順子、高田勝子、上野栄一

事項			年月日	概要
8. 新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴	—	令和6年3月16日	第37回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会	新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴 を明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌 Web 版にて、キーワード「新型コロナウイルス、メンタルヘルスを設定し、 検索した結果（2023 年 12 月 14 日）、70 件検索され、本文のある 63 件の抄録をテキストマイニングを用いて分析した。単語頻度解析では、「感染」は、「調査」「対象」「パーセント」「結果」、「新型」「コロナ」「ウイルス」と関連しており、新型コロナウイルスは当初、未知のウイルスとされており、新型コロナウイルス感染に対して多くの調査が行われていた。また、不安に関する記述が多く、不安と「COVID19」と「メンタル」「ヘルス」の関連性は高いことが示され、今後のさらなるメンタルヘルスの必要性が示唆されていた。 担当部分：結果分析、考察 発表者：上野栄一、蓮池光人、西出順子

教育研究業績書

令和6年 3月 31日

氏名 林 文子 印

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学		小児看護 小児救急 子ども家庭療養支援	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 1) 清恵会医療専門学院 ・小児看護学実習指導 ・基礎看護学実習指導 ・精神看護学実習指導 ・事例研究指導 ・クラス担任 ・オープンキャンパス担当 ・国家試験対策実施	平成23年～平成24年	清恵会医療専門学院看護科3年生約50名に小児看護学実習を担当し指導にあたった。小児病棟では川崎病、ネフローゼ、気管支喘息、肺炎などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。保育所では健康な乳幼児の生活と発達に応じた保育の指導にあたった。「事例研究」では小児看護学領域の研究に臨む学生の指導を行った。クラス担任として2年生約40名を受け持ち、学校生活における学生の管理（成績管理、健康管理、必要時面談など）をとクラス運営を行った。	
2) 宝塚大学看護学部 ・小児看護学Ⅳ（演習） 「小児のバイタルサインズ測定」 「離乳期の児の食事」 「児の抱き方・着衣」 ・小児看護学実習 実習指導 ・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ 実習指導 ・総合実習 実習指導 ・看護の探求 研究指導（補助） ・成人看護学実習（慢性期）実習指導 ・チューター制度における学生支援 ・国家試験対策補講（小児看護学） ・オープンキャンパスにて看護ミニ体験講座実施小児看護学【子どもの食事】	平成24年～平成29年	宝塚大学看護学部3年次生約100～130名のを担当し、小児看護学Ⅳ（演習）「バイタルサインズ測定」「離乳期の児の食事」「児の抱き方・着衣」についての技術演習を担当した。 小児看護学実習では小児病棟および小児外来にて1 クール2週間の実習を、10～13グループに分け指導にあたった。小児病棟では、川崎病、ネフローゼ、気管支喘息などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。実習最終日には各学生が、「看護上の問題」と「患者の全体像」を発表し、その講評や指導にあたった。 総合実習では小児看護学ゼミ受講学生の小児関連福祉施設や教育機関等での実習の指導にあたった。看護の探求では学生がこれまでの看護の学びから選択し設定したテーマに合わせ、看護研究の指導にあたった。 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの各期の実習で1年次、2年次生に対し指導にあたった。 成人看護学実習では、1クール3週間の実習を毎年2 グループ担当し、慢性期疾患を持つ患者とその家族への看護の指導にあたった。 2年次生のチューターを担当し、修学状況や就職および健康面の相談など学生生活のサポートにあたった。また必要時 保護者を含めた面談を行うなど問題を抱えた学生に対してチューター主任や学生委員会と連携し指導や支援を行った。	
3) 大阪倭倭高等学校看護科・看護専攻科 ・基礎看護学実習Ⅱ実習指導 ・老年看護学実習 ・成人看護学実習	平成26年～平成27年	大阪倭倭高校の看護科および看護専攻科の学生約30 名に、基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習、成人看護学実習の各領域実習を担当し、担当する学生の臨地での指導と学内演習の実技指導にあたった。	
4) 太成学院大学 ・小児看護学実践実習	平成28年～平成29年	太成学院大学看護学部の学生に対して小児看護学実践実習の指導にあたった。病棟では主にウイルス感染による呼吸困難や消化器症状のある児への看護を展開した。またレスパイト入院を利用する児の管理と家族への対応に触れる機会もあり、児を中心とした家族看護について考える機会となった。小児外来では、見学実習を展開した。疾患に罹患した児とその家族への家庭療養への支援、小児の発達・発育を支える役割・機能について学習できた。	
5) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 ・基礎看護技術演習Ⅰ 「活動を支える援助技術」 「睡眠と休息を支える援助技術」 ・基礎看護技術演習Ⅱ・Ⅲ 「栄養と食生活を支える援助技術」 「総合演習」	平成30年～	奈良学園大学保健医療学部看護学科1年次生約90名に対し、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ「活動と運動」「睡眠・休息」「食事と栄養」「総合演習」を担当し講義・演習を行った。また2年次生約90名に対して基礎看護技術Ⅱの「食生活を支える技術」を担当した。各単元の講義では療養生活を支える必要な援助に関する基礎的知識と概念について教授し、演習では学生間で模擬患者と看護師となり、安全・安楽に基づいた技術を展開し習得できるよう指導にあたった。	

・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・卒業研究Ⅱ ・基礎演習Ⅰラーニングスキルズ	令和元年10月～	基礎看護学実習Ⅰでは、一年次生が実習病院施設をとおして医療と看護の組織および役割について学習した。対象者の治療・看護の提供場面を見学し、ケアの一部実施およびコミュニケーションを経験することで、対象者の生理的・精神的・社会的側面の理解を深めることができた。 基礎看護学実習Ⅱでは、2年次生が看護過程演習で学修した看護過程を用いて、対象者に必要とされる援助を計画し、実施、評価を行った。また既習の看護技術の知識を活用し、対象者の安全・安楽・自立に基づいた技術の実践を行った。学生を対象者との関わりを通して基本的な援助的関係についても養うことができた。 卒業研究の指導では、学生が自らテーマを設定し問題提起したことについて関連する既存の研究論文を用いて分析する過程を指導した。学生の主体性で調査・思考することによって論理的な思考方法を身に付けることができた。 基礎演習Ⅰでは、1年次生7～8名の小グループ演習を行った。個々の学生が助言・指導のもとに興味関心のあるテーマを設定し、各自で文献検索を行い調査したことについてグループディスカッションを行いテーマと課題について深めた。 3年次生約80名に対し、小児看護学実習を担当し指導を行った。小児病棟では川崎病、ネフローゼ、気管支喘息、肺炎などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。保育所では健康な乳幼児の生活と発達に応じた保育の指導にあたった。 2年次生約90名に対し、小児看護援助論の授業を担当した。健康障害および治療や入院が子どもと家族に及ぼす影響をとらえ看護の方法・支援の在り方を、小児期に必要な看護の理論を用いて検討していけるよう授業を行った。 3年次生約80名に対し、小児看護援助論演習の授業を担当した。小児と家族への看護過程の展開方法と、基本的な看護技術について演習形式の授業で学習した。看護過程展開演習では、紙上事例を通して、健康障害をもつ小児と家族のニーズのアセスメントと看護支援の方法を理解し、看護支援を学習した。技術演習では、発達段階を踏まえた基本的な小児看護技術をシミュレーター等を用いて学習した。
2 作成した教科書、教材 1) 宝塚大学看護学部 ・小児看護学実習要項 ・実習オリエンテーション資料 ・講義資料（国家試験対策用問題） ・オープンキャンパス【体験講座】資料 「子どものバイタルサインズ測定」		宝塚大学看護学部小児看護学実習要項（平成25年度以降）の作成にあたり、実習目標の検討やスケジュールの設定および記録類を作成した。また、東大阪市立医療センター小児病棟実習の導入にあたり、臨床との打ち合わせや事前研修を行い、各種資料およびオリエンテーション資料を作成し、学生の指導に用いた。その他、市立池田病院、北野病院においても同様に資料を作成し、臨地での実習の進行および学生指導を行った。小児看護学の講義に使用する資料の一部として国家試験問題の作成を担当した。オープンキャンパスでは「子どものバイタルサインズ測定」を参加者が体験するための資料を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 1) 宝塚大学看護学部 ・小児看護学実習施設の開拓	平成26年10月	宝塚大学看護学部小児看護学における臨地実習病院として、市立堺病院・大阪労災病院を実習病院として新たに開拓し、実習を行った。
職務上の実績に関する事項		

事項	年月日	概要
1 資格、免許 看護師資格取得		看護師免許看護師免許取得（第857665号）
2 特許等		なし

3 実務の経験を有する者についての特記事項		なし		
4 その他 1) 宝塚大学看護学部活動 ・FD委員会 ・キャリア委員 2) 奈良学園大学保健医療学委員会活動 ・学生会部（平成31年3月まで） ・自己点検・評価委員（平成30年～令和2年3月） ・国家試験対策委員（平成31年～令和2年3月） ・実習ワーキング 3) 地域貢献活動 ・厚生労働省小児救急電話相談（＃8000）大阪府小児救急電話相談相談員 ・NPO法人小児救急サポートネットワーク認定員 ・大阪府小児救急電話相談マニュアル改訂 ・病院における電話対応スキルアップ研修会ファシリテーター ・お父さんに役立つ育児セミナー “子どもの病気やケガの対処—＃8000での相談” ・第30回日本外来小児科学会年次集会ワークショップ9〈電話相談から学ぶクリニックの電話対応〉	平成25年～平成28年 平成30年～現在に至る 平成19年～現在に至る 令和2年～ 令和3年8月	宝塚大学看護学部にてFD委員会、キャリア委員会に所属した。FD委員会では教員の研修企画や開催にあたった。キャリア委員会では、卒業生にシャトル研修を開催し「若手看護師のためのキャリアアップ研修」を実施するなどの活動を行った。 奈良学園大学において、学生会部に所属し部会の活動を行った。主な活動は、新入生研修の計画、運営、引率を行い、その他の学年では学生への問題対応、研修会の開催、意見収集など学生生活にかかわる諸々の業務を行った。 自己点検・評価委員に所属し、会議を通して白書の見直し点検や作成作業に携わった。 国家試験対策委員に所属し、定期的な会議に出席し、各学年の国家試験対策に関する検討と過去の成績の分析、ガイダンスでの説明、模試を実施するなどにも携わった。 実習ワーキンググループに所属し、担当領域を代表し、全領域の実習における計画、学生や施設の配置調整および課題を検討するなど、実習の進行に携わった。特に令和2年以降、新型コロナウイルス感染症流行のために、これまでの実習が困難となり、そのための実習施設の変更や学内実習における教育内容の検討など繰り返し審議を諮り、学生の教育の保証に努めた。 厚生労働省小児救急電話相談事業（＃8000）大阪府小児救急電話相談の相談員として、子どもに起きる突発的な病気やケガについて家庭での療養方法や対処について相談を受けている。保護者の子どもの症状の緊急性についての判断支援となっており、全国的に利用件数は毎年増加している。 子どもの救急電話相談に携わる相談員の対応マニュアルの改訂について携わった。 「病院における電話対応スキルアップ研修会」にて、患者や家族への医療従事者の対応力向上のための講座にてファシリテーターを務めた。 「お父さんに役立つ育児セミナー」にて、子どもに起きる病気や突発的なケガの対象方法、また＃8000の活用法方法などを紹介した内容の講演を行った。 クリニックへの電話を介する会話と顔の見える会話の印象の違いを体験し、電話の会話の注意点を学ぶと共に、子どもと保護者の立場に立って話をよく聴くことの大事さとスキルを考えるワークショップのメンバーとして、開催に携わった。開催はコロナ禍のためWEB開催となった。参加者13名であった。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1、なし				
学術論文 1、小児救急電話相談（＃8000）における電話相談員の職務満足に関連する因子の探索（修士論文）	共著	平成29年3月	和歌山県立医科大学	子どもの急病時などに家庭での対処を保護者に支援する、小児救急電話相談（＃8000）の相談員370名を対象に、相談対応の向上を図るために質問紙調査を行った。まず質問紙作成のため相談員に予備調査を行い、データから電話相談の職務満足概念を質的分析し抽出した。その内容から54問の質問項目を作成し、コミュニケーション・スキル尺度および自己肯定感尺度を使用し調査を行った。回収した質問紙よりデータの因子分析を行ったところ、電話相談員の職務満足は【肯定的感情】【労働環境】 ¹⁴ 【自律性】

				からなる23項目の尺度で構成された。また【肯定的感情】には自己効力感やコミュニケーション・スキルおよび相談に必要な電話対応スキル
2、卒業して8か月目及び2年目の看護師に対するキャリアアップ支援の試みーアサーティブネス研修を実施してー	共著	平成29年3月	宝塚大学要ARTES No30	など電話相談の実践そのものと関連しており、電話相談対応の向上には職務満足が有用であることが明らかとなった。そのため相談員が従事する環境を調整することや、それに向けた支援の重要性が示唆された。 共同研究者：林 文子、内海みよ子 A大学卒業生のキャリアアップ支援として、組織人としての役割を考えることを目的に、卒業して8か月目及び2年目の卒業生を対象とした合同研修を行った。研修参加者のアンケートより、アサーティブネスという概念から、他者の権利を守りながら自分の権利を守り、自分の意見を伝えることの大切さを学んだ。卒後8か月目の参加者は、先輩と話をし、1年後の姿を予測できた。卒後2年目の参加者は、1年前の自分を振り返り、自分の成長を実感するとともに、職場の後輩への接し方を考えていた。それぞれの立場で重要と感じる点や考える視点は異なるが、お互いの考えを知ること、職場におけるチームワークへの理解が深まった。研修の意義を実感し、今後も継続する必要があると考えられた。 共同研究者：美王真紀、岩下真由美、岡和美、江口秀子、合田友美、寺田准子、大和志麻、福島美幸、上田裕子、林文子、人見啓江、西絵里 担当部分：データ分析
3、健康な高齢者におけるケリーパッドを用いた安楽な洗髪姿勢時の股関節・膝関節の屈曲角度、及びそれら角度と基本属性の関連（原著論文）	共著	令和2年	日本健康医学会雑誌	健康な高齢者において、ケリーパッドを用いた仰臥位での洗髪援助時に、安楽だと感じる股関節及び膝関節の関節屈曲角度を明らかにし、それら角度と対象者の基本属性との関連について検討した。対象者は51名の高齢者で、バイタルサイン、基本属性、関節角度に関するデータを収集した。 1) 人が安楽だと感じる股関節の平均屈曲角度は 34.7 ± 9.6 度、膝関節の平均屈曲角度は 73.2 ± 20.1 度である、2) 人が安楽だと感じる股関節と膝関節の屈曲角度のバランスは、股関節の屈曲角度に対し膝関節の屈曲角度が平均 2.1 ± 0.3 倍である、3) 股関節・膝関節の屈曲角度は、性別や年齢、体格（身長、体重、BMI、体脂肪率、大腿長、下腿長）を含む基本属性と相関関係を認めない、4) 大腿長の長さからみて高値群と低値群では股関節の屈曲角度に差があり、高値群のほうが低値群より有意に値が小さい ($p < 0.05$)、ということが明らかとなった。以上から、今後実際にケリーパッドを用いた仰臥位での洗髪援助時に股関節や膝関節の屈曲角度を決定する際には、本研究結果を活用されることが望まれる。木村静 澤田京子、上山直美、葉山有香、林文子、中馬成子 担当部分：データ分析
(学会発表) 1、慢性疾患児との対応経験と担任の対応の分析（査読あり）	共著	平成26年8月30日	日本育療学会第18回学術集会（於新潟県）	慢性疾患児に関わる教育機関関係職種の役割を明確にし、連携を円滑に進めるために質問紙調査と面接調査を行った。慢性疾患児と身近に関わっている担任の対応を分析し、学内体制としての担任への支援の方法を検討したところ、各

				担任は児に対する配慮や対応策など情報共有の工夫をしていた。そのため、管理職の統率力により連絡調整の方法や連携プログラムが明確なことなどが学内体制の充実につながることが明らかになった。 共同研究者：河合洋子、中塚志麻、大見サキエ、横田雅史、津田聡子、<u>林 文子</u>、江村多加子 担当部分：データ分析
2、健康な女性高齢者における床上仰臥位での洗髪時の膝関節屈曲の有無が対象者の感覚に及ぼす影響の違い 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	平成30年12月15日	日本看護科学学会第38回学術集会（於愛媛県）	健康な女性高齢者に対し仰臥位でケリーパッドを用いた洗髪援助における膝関節の屈曲の有無が対象者の感覚に及ぼす影響の違いについて調査した。対象者（12名）の年齢は70.5（±1.8）歳（平均値±SD）であった。感覚データでは大腿・下腿の筋の緊張感において伸展群は34.9（±10.5）点、屈曲群は5.1（±2.1）点で、屈曲群のほうが伸展群より筋の緊張感が低く、有意差を認めた。（p=0.021）姿勢の安心感では、伸展群は58.7（±11.1）点、屈曲群は94.5（±1.9）点で、屈曲群のほうが伸展群より安心感が高く、有意差があった。 （p=0.021）したがって 仰臥位での洗髪時に膝を伸展するより屈曲したほうが、足にかかる筋の緊張感が有意に少なく、安心感が得られることが科学的に明らかとなった。今後は対象者数を増やすことや身体的な影響も含めて総合的に検討すること、さらに実際にベッド上で洗髪援助を受けている高齢者を研究対象者として研究を進めていくことが課題として考えられる。 共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、<u>林文子</u> 担当部分：データ分析

3、女性高齢者における仰臥位で洗髪援助を受けるときの股関節と膝関節の屈曲の有無が、血圧と脈拍に及ぼす影響についての検討 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	平成31年3月9日	日本看護研究学会第32回近畿北陸地方会学術集会	健康な女性高齢者に対し仰臥位でケリーパッドを用いた洗髪援助における膝関節の屈曲の有無が対象者の血圧と脈拍に及ぼす影響について調査した。屈曲群→伸展群の順で実施した者が6名、伸展群→屈曲群で実施した者が6名であった。洗髪前後の比較は、血圧では有意差がなかったが、脈拍では屈曲群において前81.3(±11.6)回/分が、後69.1(±9.8)回/分に、伸展群において前82.0(±10.6)回/分が後71.0(±10.4)回/分、2群ともに洗髪前後で有意差があった(p=0.001、p=0.000)各側手項目の変化率における2群の比較では全て有意差は認めなかった。したがって女性高齢者では仰臥位で洗髪援助を受ける際、洗髪前より洗髪後に脈拍が有意に減少するが、膝関節の屈曲の有無によって脈拍の減少における有意な違いは認めないことが明らかとなった。今後は対象者数を増やすことや心理的な影響も含めて総合的に検討すること、さらに実際にベッド上で洗髪援助を受けている高齢者や療養患者を研究対象者として研究を進めていくことが課題として考えられる。共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、 <u>林文子</u> 担当部分：データ分析
4、ベッド上仰臥位での洗髪時における安楽な膝関節および股関節の屈曲角度と基本属性との関係 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	令和元年8月20日	日本看護研究学会第45学術集会(於大阪)	健康な高齢者がベッド上仰臥位で洗髪援助を受ける際に安楽だと感じる体位における股関節と膝関節の屈曲角度と、それら角度と基本属性との関係について調査した。対象者は女性高齢者12名であった。対象者が安楽であると感じる関節の屈曲角度は、正規分布を辿ると仮定され、股関節では42.3±7.9度、膝関節では88.4±20.4度であった。また、股関節と膝関節の屈曲角度はともにBMIと体脂肪率と負の相関関係が認められた($\gamma = -0.60 \sim -0.67$, $p < 0.05$)。以上から、仰臥位での洗髪援助時には、上記、安楽な股関節や膝関節の屈曲角度に調整することを目安とし、BMIや体脂肪率の値が高いほど関節屈曲角度は低くなることが示唆された。共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、 <u>林文子</u> 担当部分：データ分析
5. A県で小児救急電話相談(#8000)に携わる相談員の様相	共著	令和2年3月21日	日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方学術集会	A県の小児救急電話相談に携る看護師を対象に電話相談の職務状況、経験上の思いや考えを質問し、電話相談の職務の様相を調査した。アンケート内容を質的記述的に分析しカテゴリー分類した。＜子どもの救命・救急医療に貢献している＞＜保護者の対処行動が向上される＞＜保護者の思いに応える＞＜保護者の不安や問題が解消・軽減される＞＜現代の子育て環境に対応する＞＜対応力を向上したい＞＜管理やサポート環境が重要＞＜救急医療と電話相談のあり方＞の8つのカテゴリーが抽出された。A県の相談員の職務は、様々な育児環境にある保護者のニーズの把握と救急医療情勢を相互させ、保護者に適切な相談ができるよう駆使していた。電話相談員が保護者のニーズに応え、力の発揮ができるよう支援する必要性が示唆された。共同研究者：林文子、木村静香
6. 仰臥位での洗髪援助についての文献レビュー	共著	令和2年3月21日	日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方学術集会	仰臥位での洗髪援助における研究の動向を調査した。健康な者を対象とした研究が9件、患者を対象とした研究が8件(心疾患と切迫流産が各3件、貧血が2件)であり、対象者数では5～80名の範囲であった。洗髪の方法では、洗髪台を使

				用した研究が6件、ケリーパッドを使用した研究が5件であった。「洗髪車を利用」「ベッド上」「膝の下や頸部に枕を使用」など具体的な記載もみられた。また、血圧、脈拍、呼吸数などの客観的指標や、苦痛、爽快感、疲労感などの主観的指標が測定されていた。さらに、「腹部の張り」「筋の緊張」「血圧や心拍数への変動」が生じたという研究もあったが、仰臥位での洗髪援助の安全性や安楽性が確認できたという研究結果が多かった。 仰臥位での洗髪援助の先行研究では、臨床研究は全体の半数程度であり洗髪台やケリーパッドでの検討が多い。対象者の負担を主観及び客観的指標から検討している。洗髪の安全、安楽を確認する研究結果が多いことが明らかとなった。研究者：木村静、葉山有香、林文子、上山直美、澤田京子 担当部分：データ分析
7、Literature review on the psychological effects of hair-washing support on subjects		令和2年2月	The 6th International Nursing Research Conference of Nursing Science,	(Purpose) To examine the research trends in Japan on the psychological effects of hair-washing support on subjects. (Methods) Using Ichushi-Web without restrictions regarding the year of publishing (but excluding conference proceedings, meeting minutes, review articles, and commentaries), we performed searches with the keywords “hair washing” and “body position or posture.” Next, we narrowed the results to 16 papers that dealt with the psychological effects on subjects who underwent hair washing (search date: February 6, 2019). Thereafter, the trends in these previous studies were observed (Results) Eight studies targeted healthy persons and eight studies targeted patients with disease (including three cases of threatened premature delivery). The number of subjects ranged from 5 to 80. Body positions examined included the supine position, sitting position, Fowler’s position, lateral position, and prone position; of these, the supine position was most common, with 11 hits. Subjects’ emotions such as distress, fatigue, exhilaration, postural stability, etc. were measured. The supine position and Fowler’s position were associated with many positive emotions, such as relaxed, easy, and “no oppressive” feelings, while the sitting position was associated more often with more negative emotions, such as tiredness, fatigue, and pain. (Discussion) Examination of extant research on various hair-washing positions and psychological evaluation indicators grouped according to the subjects’ condition revealed that each position was chosen to maximize the comfort of subjects. However, due to the limited number of references and cases, further research may be necessary for generalization.
8. 小児救急電話相談（#8000）における電話相談員の職務満足度を構成する概念の検討	共著	2020年11月6日	第67回小児保健協会学術集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる相談員の職務満足度を構成する概念を明らかに職務環境の在り方および向上への示唆を得る。調査は平成 28 年 4 月から 5 月で、参加者は小児救急電話相談に5年～10 年携わっている看護師の資格を有する相談員 13 名であった。参加者にはアンケート用紙を用いて、電話相談の職務について、やりがいや満足感あるいは使命感や誇りを感じたこと、環境について改善して欲しいことなどを質問し、自由記述による回答を得た。【結果】相談員の職務満足度の概念は、仕事に対するやりがいや誇り、使命感などからなる〈仕事に対する肯定的感情〉〈仕事の成果の確認〉〈#8000 の在り方・存在意義〉と、専門性の発揮や良い

				相談を行うことに関する〈相談員としての自律〉〈充実して仕事ができる環境〉の5つのカテゴリーで構成された。【考察】参加者は、子どもの病状に対する保護者の不安や疑問が電話相談によって解消されたことで〈仕事の成果の確認〉がなされ、保護者から得られる良い反応に対してやりがいや満足感を得ることができ仕事に対する肯定的感情を抱いていた。さらに子育てをする保護者への支援として〈#8000 の在り方・存在意義〉の高さを認識し、良い相談が行えるよう自己の課題や目標を見出し〈相談員としての自律〉の意識が、仕事を向上させる努力として発揮されていた。そして同僚や管理者による周囲からのサポートは〈充実して仕事ができる環境〉として相談員を支えていた。電話相談の専門的知識や相談のスキルが発揮され、相手から得られる反応によって良い相談ができたことを認識し、肯定的な感情を抱くとともに相談員という専門的な職務の意識を高めていた。それが相談員の満足につながっていることが考えられた。【結論】相談員が力を発揮し質の高い相談を行うためには、職務満足の検討が有用であることが示唆された。林 文子、内海みよ子、桧山恵美子、宮下佳代子、木村 静
--	--	--	--	---

9. 大阪府小児救急電話相談（#8000）に寄せられる新児についての相談内容	共著	2020年11月6日	第67回日本小児保健協会 学術集会	2018年度大阪府 #8000には58,694件（1日平均160.8件）の相談が寄せられ、新生児に関する相談は772件（4.6%）である。新生児期の相談は育児相談に分類される内容が主で、相談件数は2017年度81件、2018年度155件と倍増している。そこで新生児についての相談内容を分析し、保護者の不安の要因を明らかにした。2018年度大阪府小児救急電話相談 #8000への新生児の育児相談の内容について音声データ（148件）を週数別に分析した。生後1週までの新生児の相談内容は「37.5度前後の体温」「呼吸が変ではないか」、生後2週では「首を反らして抱っこしてしまった」「ずっと寝ている」「ミルクの量」、生後3週では「ミルクを噴水状に吐いた」、生後4週では「おなかが張っている」との相談が多かった。相談員は夜間救急への受診の可否の判断について返答することが多いが、新生児の相談の場合は帯下など新生児期特有の知識が必要とされる。また保護者も相談内容をどのように伝えたらよいのか迷い言葉が明確でない場合がみうけられた。近年、産後入院期間の短縮や個室入院が多くなり、新生児を養育する保護者は、日々変化する子どもの様子に異常ではないかと戸惑いながら自身の育児に不安をもち #8000へ相談している。# 8000事業の認知が広がり活用に繋がっていることは、育児不安から情緒不安定や育児放棄(虐待)に陥る保護者を援助する手立てとなりうる。しかし #8000事業を利用する保護者のニーズは、適切な受診の判断と育児支援と幅広く、新生児期の子どもをもつ保護者の困りごとや不安に十分に寄り添い対応するには専門的な知識が必要である今後、#8000事業は出産した産院・地域の保険センター・助産師会・産婦人科医会とも連携し新生児期の育児相談に対応できるような体制となることが望ましい。宮下佳代子、的場仁美、林文子、阿部榮子、福井聖子
10、小児救急電話相談（#8000）への発熱に関する相談の分析～子どもの状態と相談に至る背景～	共著	2021年3月21日	第34回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会	#8000への発熱の相談内容と子どもの状態を分析し保護者のニーズと有用な電話相談対応を検討する。2018年度A県 #8000への5歳以下の子どもの発熱の相談で、〈熱の高さ、機嫌、食事水分、摂取量、睡眠状況、排尿状況の全身状態に関する5項目を聞き取った3284件を分析対象とした。分析は、全身状態5項目と〔相談目的〕、症状の〔開始時期〕、受診や家庭療養など保護者への勧奨を〔対応〕としたカテゴリーごとに集計し、χ^2 検定を用いて検証した（$p < 0.05$）。【結果】発熱に関する保護者の〔相談目的〕は“受診について”2732件

				(83.9%)が多く、摂取、睡眠状況、排尿状況に差を認めた($p < 0.00 \sim 0.05$)。 症状の〔開始時期〕では“今起こった”が1290件(39.5%)と最も多く、熱の高さ摂取量、機嫌に差を認めた($p < 0.00 \sim 0.05$)。〔対応〕は“これから受診”となる事例が311件(9.6%)あり、〈摂取量〉、排尿状況に差を認めた($p < 0.00$)。子どもの全身状態の詳細は、体温“38.5℃以上”での相談が2640件(80.4%)と最も多く、〔機嫌〕は“普段通り/少し元気がない”が1291件(39.3%)、〈摂取量〉は“普段通り”929件(28.3%)、〔睡眠状況〕“眠れる”が941件(28.7%)であった。【考察】5歳以下の子どもの発熱では38.5℃以上での相談が多く熱の高さに不安を抱き電話相談の利用に至るが症状の開始時期や機嫌・摂取量など保護者が相談に至った経緯にはばらつきがあり、発熱に伴う全身状態の悪化や受診を勧奨する事例は少ない。【結論】5歳以下の子どもの発熱に関する相談は、子どもの全身状態を保護者と一緒に丁寧に確認し、保護者の相談目的と不安の詳細を把握し、子どもへの有効なケアにつなげる必要がある。宮下佳代子、林文子(データ分析)
11、健康な男性高齢者の仰臥位での洗髪姿勢時における安楽な股・膝関節屈曲角度と下肢長、下肢周囲径との関係についての検討	共著	2021年3月21日	第34回日本看護研究会 近畿・北陸地方会 学術集会	健康な男性高齢者が仰臥位での洗髪姿勢時に安楽だと感じる股・膝関節の屈曲角度、下肢長、下肢周囲径の関係を明らかにする。データ収集期間は2019年11～12月であった。対象者はA市シルバー人材センターに登録のある男性高齢者27名であった。測定項目は年齢、バイタルサイン(以下VS)、下肢長(大腿長、下腿長)、下肢周囲径(大腿周囲径、下腿周囲径)、左右の股・膝関節の屈曲角度であった。測定手順は、まず下肢長、下肢周囲径を測定した。次にベッドに仰臥位にて臥床後、頭部にケリーパッドを挿入し、対象者の最も安楽な体位における股・膝関節の関節屈曲角度をデジタル角度計(シンワ測定社製)で測定した。分析方法は、測定項目間で相関関係をみた(Pearsonの相関係数)。統計学的分析はSPSSを使用し、有意水準は$p < .05$とした。 【結果】年齢は73.3 ± 4.4(平均値$\pm$SD、以下同様)歳で、VSに問題はなかった。股関節は53.5 ± 5.9度、膝関節は107.7 ± 10.3度、大腿長は37.5 ± 2.6cm、下腿長は38.1 ± 2.5cm、大腿周囲径は43.4 ± 2.7cm、下腿周囲径は35.1 ± 2.7cmであった。関節角度と下肢長や周囲径との間には相関関係がなかったが、股関節と膝関節の屈曲角度では正の相関関係があった($\gamma = 0.91, p = 0.000$)。 【考察・結論】安楽な洗髪体位における股・膝関節の屈曲角度は対象の下肢長や周囲径とは関連がないことがわかった。また、股関節の屈曲角度が大きくなれば膝関節の屈曲角度も大きくなり、両者は関連性を持ちながら安楽な体位を保持することが示された。今後は、下肢以外の体格や身体組成も含めた詳細な検討が望まれる。本研究は同志社女子大学学術研究奨励費による助成を受けた。 木村静、和泉美枝、葉山有香、眞鍋えみ子、林文子、假谷ゆかり、澤田京子
12、小児救急電話相談(#8000)の実践とコミュニケーションスキル、自己効力感との関連	共著	2021年3月21日	第34回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会	小児救急電話相談(#8000)に携わる看護師の電話相談の実践に関連する要因を明らかにする目的で、#8000事業に属する看護師211名を対象に質問紙調査を実施した。調査は①電話相談実践状況(7項目)②特性自己効力感(23項目)③コミュニケーションスキル(6下位因子、24項目)、看護師の背景要因には実践年数、小児看護経験の有無、研修参加状況、マニュアルや地域医療情報の充実感を質問した。分析は、背景要因との関連にMann-WhitneyのU検定、一元配置分散分析を行った。 ①②③の各合計得点を算出し、Spearmanの順位相関分析を実施した。①との関連を認めた変数の重回帰分析(Stepwise法)を行った。統計学的分析はSPSS(V

小児救急電話相談（#8000）に携わる看護師の肯定的感情と実践およびコミュニケーションスキルとの関連	共著	2022年3月14日	第35回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会	er. 26.0)を使用した($p<0.05$)。【結果】電話相談の実践「子どもをとらえる適切なトリアージ」「保護者の不安や相談の趣旨の理解」「家族を含め子どもの症状をとらえる」「相手が理解し納得できる話し方」「状況に応じた家庭内療法の提供」「地域医療を考慮した臨機応変なアドバイス」の6項目に、③の総得点、下位因子「解読力」「他者受容」「関係調整」との相関を認めた($r=0.33\sim0.44$)。また背景要因「地域医療情報の充実感」に有意な差を認めた($p<0.00\sim0.04$)。自己効力感との相関は認めなかった。①を従属変数とした重回帰分析では、③下位因子「解読力」が特に影響しており、($\beta=0.013\sim0.386$, $p<0.001$)。電話相談の実践には、子どもの看護の専門知識と保護者の声を理解し対話によって進めるコミュニケーションを活用し、家庭状況やニーズの把握、地域医療の情報提供を充実して行うことが重要と考えられた。電話相談の実践は、看護師のコミュニケーションスキルと地域医療情報提供の充実に関連し、電話相談の促進には、これらの向上の必要性が示唆された。林 文子 木村 静 小児救急電話相談(#8000)に携わる看護師の肯定的感情と実践およびコミュニケーションスキルとの関連を明らかにする。#8000に携わる看護師229名(有効回答率69%)を対象に、①肯定的感情と②電話相談の実践スキル「トリアージ」「保護者の不安や趣旨の理解」「話の聞き方」「話し方」「家庭内療法の提供」「地域医療受診のアドバイス」の6項目、および③コミュニケーションスキル因子「解読力」「他者受容」「関係調整」との間に正の相関関係を認めた($r=0.30\sim0.43$)。看護師は電話相談に求められる実践力とコミュニケーションを駆使し、様々な相談および子どもと保護者の不安や問題の解消に対して、やりがいや成果などの肯定的な感情を感じていることが明らかとなった。さらに適切なトリアージやアドバイスなどの必要なスキルについて、自身の判断や経験が役立ち活かされることで、電話相談への肯定感が高められてる可能性が示された。これらのスキルを獲得していく取り組みの充実が必要であると考えられた。林 文子、木村 静
小児救急電話相談（#8000）における電話相談院の職務満足に関連する因子の探索	単	2022年7月9日	日本小児看護学会第32回学術集会	目的】#8000電話相談員の職務満足に関連する因子の探索を目的とした。【方法】#8000電話相談員370名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。調査は、職務満足に関する質問54項目、特性自己効力感23項目、コミュニケーションスキル24項目、電話相談実践状況7項目、属性には年齢や性別、小児看護や電話相談の経験年数、従事する理由等を質問した。職務満足に関する質問は相談員を対象とした予備調査から質的分析により構成した。分析は、職務満足を因子分析により抽出し、信頼性と妥当性を検証した。次に属性、特性的自己効力感、コミュニケーションスキルを各変数とし、職務満足と相関および有意な差を示した変数との重回帰分析を行い、職務満足に関連する要因を検証した。本研究は所属機関の倫理委員会の承認を得た。開示すべきCOI関係にある企業および団体等はない。【結果】調査は有効回答のあった229名(有効回答率62%)であった。相談員の職務満足は、第1因子(11項目)やりがいや使命感などで集約する【肯定的感情】、第2因子(6項目)従事する職場の環境で集約する【労働環境】、第3因子(6項目)仕事の向上意欲などで集約する【自律性】の3因子構造であった。各因子のクロンバックa係数は0.8以上を示し、信頼性が検証され、因子分析の結果から構成概念妥当性が検証された。重回帰分析では【肯定的感情】に、コミュニケーションスキル下位因子「関係調整」、電話相談の実践「子どもの症状をとらえる適切なトリアージ」「保護者に共感する話し方」「地域医療を考慮した臨機応変なアドバイス」と「特性的自己効力感」「今後の飛躍や展望」が関連していた。【結論】相談員の職務満足は、相談の実践状況や職場環境に関する内容が示され、仕事の発揮や向上には職務満足を高めることへの有用性が示された。
洗髪が頭皮・頭髮の清潔に及ぼす影響に関する文献レビュー		2024年3月16日	第37回日本看護研究学会近畿・北陸	文献検討により、洗髪が頭皮・頭髮の清潔に及ぼす影響を明らかにする。研究対象者の属性は、入院患者が8件

—			地方会学術集会 (53.3%)、大学生など健康な者が6件(40.0%)、人毛モデルが1件(6.7%)であった。対象者数は、1～10名が7件(46.7%)、11～30名が3件(20.0%)、31～50名が4件(26.7%)、51名以上が1件(6.7%)であった。洗髪方法：洗髪方法は、ケリーパッド、洗髪車が各5件、洗髪台と洗髪椅子が3件、シャワー入浴装置、入浴用車椅子が各2件、記載無しが5件であった(複数回答)。洗髪の手順や手技は、記載有りが6件(40.0%)、無しが9件(60.0%)であった。清潔に関する測定項目：細菌(ブドウ球菌のみを含む)が7件、落屑量・フケが6件、頭皮の皮脂量が4件、陰イオン界面活性剤残留濃度が3件、他にATP値、pH値、頭皮の水分量、頭皮の発赤の有無などがあった(複数回答)。また、これら項目の測定時期は、洗髪前後での測定が9件、洗髪後のみの測定が7件であった(複数回答)。清潔に関する研究結果：洗髪前後で測定値を比較した9件では、洗髪後、頭皮・頭髮が清潔になったと評価した文献は5件、清潔効果が評価できなかった文献7件、髪型により評価に差を認めた文献1件であった。洗髪方法では、洗髪援助で一般的に用いられるケリーパッドや洗髪車、洗髪台での検討が多い一方、手技を含め洗髪方法が不明な文献も多く、今後は手順を明確に示し、洗髪方法による差の検討も必要だと考えた。測定項目では落屑量や発赤など研究者の視覚的な観察項目による判定や、洗髪前後の測定値を比較していない研究もあり、今後、看護技術のエビデンス構築に向けて、より客観的で再現性の高い測定指標を用いた検証が望まれる。さらに、研究結果では、清潔効果を認めた文献より、確認されない文献が多く、髪型による差もみられた。対象の条件によって選択すべき洗髪方法や手順が異なる可能性もあるため、効果が認められなかった先行研究における対象者や洗髪方法の特徴を踏まえ、より清潔効果の高い個別的な洗髪方法の検討が必要であると考えた。 科研費(基盤研究C、科研番番号23K09851)による研究助成を受けた。木村 静、和泉美枝、葉山有香、岡崎和子、林文子、眞鍋えみ子
---	--	--	--

教育研究業績書		
2024年 3月 31日		
氏名 山本 真樹子		
研究分野	研究内容のキーワード	
社会医学、看護学及びその関連分野	助産学 女性の思い 助産師のありよう	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
・小レポートの活用	2018年～2020年 前期授業期間	関西大学人間健康学部・人間健康研究科の非常勤講師として担当した「医学一般I」（専門・選択科目、1年次配当、半期）において、授業1回目に学生自身がその時点で考える「健康とは」を小レポートとして課した。小レポートから学生たちの授業に期待しました求めている内容およびプレコンセプションケアを意識した内容とすることで、学生が自身や家族を含めた周囲の健康について考え、生活変容に繋がるように講義内容を工夫した。学生からの毎回の授業後の感想及び意見と授業評価アンケートより、学生自身や家族を含めた周囲の健康や生活に意識がいくようになっていた。
・視聴覚教育教材の作成と利用	2021年6月7日	本校の「母性看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）において、ある授乳場面の褥婦と助産師とのやりとりを教員が演じる視覚教材を作成し、褥婦の言動から心理・社会面の情報収集の方法、母性看護学の主要な理論を用いてどのようにアセスメントし、どのようにケアとして表現しているかを考察し、実習に繋がられるような演習とした。
2 作成した教科書、教材		
・母性看護援助論演習の画像媒体	2021年6月	本学の「母性看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）において、ある授乳場面の褥婦と助産師とのやりとりを教員が演じる視覚教材を作成し、看護過程の演習で活用した。Class roomで共有し、繰り返し自由に活用できるようにした。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
・学生による授業評価アンケート結果における評価	2020年7月	・関西大学人間健康学部・人間健康研究科の非常勤講師として担当した「医学一般I」（専門・選択科目、1年次配当、半期）に対して2020年度に実施された学生による授業評価において、約7割の学生が、「友人や後輩に推薦したい授業内容」「総合的に判断してこの授業は意義のあるものだった」と回答していた。（回答数293/330人：88.7%）
	2022年1月	「母性看護援助論」の学生評価は、授業への積極的な参加度3.95、説明のわかりやすさ3.80、要点の明確さ3.89、授業内容の分量の適切さ3.57、聞き取りやすさ4.05、資料のわかりやすさ3.82と、概ね、学生は授業に積極的に参加しており、授業は要点が明確で説明や資料もわかりやすく、聞き取りやすい。授業の分量は多いからどちらとも言えないという状況であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		
・助産学共用試験問題作成	2021年4月～6月	助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験問題を作成し、登録を行った。

		2022年6月～12月	全国助産師協議会の「令和4年度助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進事業」において、協力員として一つのグループでリーダーとなり、3回のzoomによるオンラインミーティング、メール会議等を行い、厚生労働省に試験問題を登録した。	
職務上の実績に関する事項				
事項		年月日	概要	
1 資格、免許		1998年3月 2023年8月	看護師免許(第1018456号)、助産師免許(第106495号)、保健師免許(第88011号) 新生児蘇生法「専門」コース更新 認定番号A-15-41281	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. 妊娠糖尿病と診断された女性の体験についての一考察～出産後の振り返りから～	共著	2023年3月	医療福祉情報行動科学研究Vol. 10, pp47～54(2023. 3. 24)	GDMと診断された女性の体験について知り、助産師の支援方法を検討することを目的に研究を行った。女性の語りから、「GDMと診断された後の思い」「糖尿病という言葉への反応」など7つのカテゴリーが抽出された。GDMを診断される妊娠週数から、身体面の治療やケアと同様に、母親役割取得過程への影響を考えた関わりが必要であると示唆されていた。(8頁)
2女性の出産体験と助産師のありよう	単著	2016年2月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学専攻学位論文	女性の出産に焦点を当て、出産経過での身体変化に対する女性の身体感覚と、女性とその出産の場を共有する人との関係性と、出産の方向性を示す一つの因子である時間という3つの視点から、出産を女性がどのように体験しているか、また、助産師が女性の出産をどのように捉えて関わっているのかを知り、出産の意味と出産の場における助産師のありようを検討することを目的におこなった。
(その他)				
・看護研究	一	2017年～2018年9月	済生会茨木病院	EPDSを使用する時期の検討についての研究

教 育 研 究 業 績 書		
令和6年3月8日		
氏名 井上 理子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学	精神看護学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 京都府看護専修学校 外部講師 精神看護学の講義	平成23年4月～ 令和元年3月	専門必須科目 2単位 2年生 「精神看護学方法論Ⅱ」 精神疾患患者の心理や対応の方法について、臨床における事例を基に、テキストには記載されていないリアリティをもって理解できるように工夫した。
2) 京都府医師会看護専門学校 専任教員 (1) 精神看護学領域担当 (2) 事例を用いた精神看護学演習 (3) オンラインによる実習 【精神看護学実習】 (4) 動画を用いた学内実習 【精神看護学実習】 (5) 臨地実習 【基礎看護学実習Ⅰ】 【基礎看護学実習Ⅱ】 【成人看護学実習Ⅰ】 【成人看護学実習Ⅱ】	令和2年4月～ 令和5年3月	専門必須科目 2単位 2年生 「精神看護学方法論Ⅱ」 フロイトの「自我とイド」を用いて、学生自身の日常的に起こり得る人間関係を事例としながら人間の心理について理解しやすいように工夫した。 専門必須科目 2単位 2年生 「精神看護学方法論Ⅲ」 オレム-アンダーウッド理論を基に、統合失調症患者の事例を用いて、精神科看護はマニュアル化できないことを踏まえ、主体性をもってオリジナリティに富んだ看護計画を立案できるよう工夫した。 専門必須科目 3年生 新型コロナウイルス感染症拡大のため臨地実習は中止となりオンラインでの実習を行うことになった。1グループ6人として、全員に異なる事例を渡し、臨床経験を生かして、患者の思考や特性について伝え、グループメンバー全員が6症例について学べるよう工夫した。 専門必須科目 3年生 新型コロナウイルス感染症拡大のため臨地実習は中止となり学内で実習を行うことになった。精神に障害をもつ当事者の語る動画やバーチャルハルシネーションの動画を用いて、患者の病的体験をリアルに感じ取れるよう工夫した。 専門必須科目 1年生 医療者としての自覚が芽生えるように、患者へのかかわり方、看護師としての視点の持ち方について一緒に考えられるように工夫した。 専門必須科目 2年生 学生と共に患者への看護援助を行う機会を多くつくりテキスト通りにならない援助の実際を理解できるようにかかわった。また、看護過程の展開を初めて経験するため、記録だけに追われず、常に患者の状態に視点を置くことを意識できるように工夫した。 専門必須科目 2年生 学生の理解度を確認しながら、情報収集から看護計画の立案、実施、評価について、可能な限り時間をかけて看護過程の思考をもてるように工夫した。 専門必須科目 3年生 短期間で患者の状態が変化する周手術期や急性期の看護については、振り返りの時間を確保し、患者に起きている状況から必要な援助までの理解を深められるよう工夫した。

【成人看護学実習Ⅲ】		専門必須科目 3年生 神経難病や慢性的な経過を示す疾患では、一緒にベッドサイドに行くことで、身体状態だけでなく心理状態や家族への支援も含めて学べるように工夫した。
【精神看護学実習】		専門必須科目 3年生 実習先によって、学べる内容が大きく異なるため、不足する部分について、具体的な事例に基づいて説明をしながら学べるように工夫した。また、カンファレンスでは、精神科医療における身近な社会問題について考えられるよう工夫した。
【在宅看護学実習】		専門必須科目 3年生 施設内だけでなく地域で暮らす当事者の支援をするために、家族も含めたアセスメントや社会制度にも着目できるように工夫した
【統合実習】		専門必須科目 3年生 自身の臨床経験を通して、多重課題に対応しながら、就職後のリアリティショックを軽減できるように臨床現場の実践を学べるよう工夫した。
3) 奈良学園大学 保健医療学部 看護学科 (1) 看護技術の基礎Ⅰ	令和5年4月～現在	講義で生理的メカニズムや看護技術の基本的なことを教示し、技術演習では事例を用いて手順の作成から学生自身で作成してもらい、単なる技術の習得でなく思考しながら実施できるように工夫している。
(2) 看護技術の基礎Ⅱ	令和5年4月～現在	医療に関する技術であることから、講義で生理的メカニズムと留意点について教示し、臨床での様々な場面について伝えることで、現場の状況を可能な限り想像しながら実施できるよう工夫した。
(3) 卒業研究Ⅱ	令和5年4月～現在	学生の示すテーマに沿って、文献検索、分析、論文作成までに指導計画を立て、説明と実施を繰り返しながら研究について一連のプロセスを理解できるよう工夫した。
(4) 基礎看護学実習Ⅰ	令和5年4月～現在	初めて医療機関に白衣を着用しての実習であることから、医療職者を目指すうえで患者を捉える視点や社会の中で看護師の担う役割について助言することで理解できるように工夫した。
(5) 基礎看護学実習Ⅱ	令和5年4月～現在	初めて患者を受け持ち看護過程の展開を学ぶ実習であることから、学生と共に患者にかかわり、記録の指導同時に一緒に思考を整理し、看護過程のプロセスに応じた思考ができるように工夫した。
(6) 統合実習	令和5年4月～現在	学生自身の掲げたテーマに基づき、臨地実習よりも詳しく、広い視点をもって主体的に学べるように、承認をしながら可能な限り手を貸さず、自律できるように工夫した。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 長岡ヘルスケアセンター 平成21年4月～平成27年3月：病棟管理職 平成27年4月～令和2年3月：看護部管理職 (看護教育・院内感染対策)		【看護研究】 看護部教育委員および看護教育専門師長として、職員の研究的思考の定着と研究方法の能力向上を目的として、文献検索、研究計画書作成、実施段階、論文作成、発表スライド作成に至るまで、毎年2～3病棟の指導を行っていた。

平成21年4月～
令和2年3月

【緊急時の対応】

患者の急変対応を確実にできることを目的とし、各病棟の研修委員を中心に病棟で発生しそうな事例の台本を一緒に作成して、シミュレーション形式で実施。全病棟の振り返りには必ず参加し、できなかったことを前向きに捉えるように伝え、不足している点の学習の必要性について自覚してもらえるように工夫していた。

【フィジカルアセスメント】

患者の身体症状の把握と異常の早期発見・早期対応ができるようになることを目的とし、バイタルサイン測定の正しい方法や正常と異常の捉え方、検査値の見方、精神科で起こり得る身体症状と対応方法（水中毒、イレウス、リフィーディング症候群など）、基本的な身体症状についての観察項目や看護について、身近な患者の事例を用いながら理解しやすいように工夫していた。

【CVPPP】

CVPPP施設認定トレーナーとして、院内で発生しうる暴力について、防止対策と発生時の対応ができることを目的とし、リスクアセスメントとディエスカレーションについては講義、ブレイクアウェイとチームテクニクスについては演習を交えて、実践に活用できるよう工夫していた。

【医療安全研修】

病院の管理職者として院内における医療事故を防ぐことを目的として、薬剤投与に関するインシデント、アクシデントの事例に基づいて、誰でもミスをすることを前提に、チームで薬剤過誤を起こさない方法のロールプレイを取り入れて実践に活かせるように工夫していた。

【認知症対応研修】

認知症患者の急増に伴い、認知症患者に適切な対応ができる看護職者の育成を目的として、認知症の種類、症状について講義し、具体的に安心感を与えられるような声掛けの方法を演習に取り入れたり、認知症高齢者虐待についてグループワークすることで、倫理観をもって対応できる職員になってもらえるよう工夫していた。

【実習指導者研修】

看護部教育専門師長として、実習学生への指導と共に職員自身の実践している看護の振り返りと指導能力の向上を目的とし、事前に指導者から学生指導についての悩んでいることについてアンケート調査により研修テーマを決定したうえで、グループワークなども取り入れながら、指導者のメンタルケアもできるよう工夫していた。

【プリセプター研修】

看護部教育専門師長として、新人職員の指導をすることによって、プリセプター自身の指導力向上と看護師として成長することを目的とし、自分自身の新人の頃を思い出してもらいながら、共に成長することを自覚できるように工夫していた。

【看護補助者研修】

看護部教育専門師長として、看護補助者の能力向上を目的として、役割についての説明、おむつ交換や食事介助の方法についての演習、看護者への不満なども聞き取り、看護職者との円滑な関係を構築できるように、チームの一員として自覚してもらえるよう工夫していた。

平成27年4月～
令和2年3月

3) 院内感染対策専門師長としての院内講義	平成27年4月～ 令和2年3月	【診療報酬研修】 看護部管理職者として、職員が経営的な視点をもてることを目的として、診療報酬の仕組み、看護職者にかかわる診療報酬について、実務上注意しなければならないことなどを、事例を用いて理解できるように工夫していた。 【院内感染対策研修】 院内感染対策専門師長として、職員の感染症の持ち込みやクラスター発生を未然に防止するための能力向上を目的として、正しい手指衛生の方法、個人用防護服（PPE）の着脱方法、嘔吐物の処理方法などについて、各部署のICT委員に指導し、講師を担えるようになってもらい、病棟での指導を継続できるよう工夫していた。
5 その他		
京都府看護協会：研修責任者研修受講	平成27年6月～ 平成28年2月	看護部の教育担当責任者として、成人教育、コーチングとティーチングの違い、看護職者の教育計画、研修企画について学び、立案した計画を発表した。
大学教授による看護研究勉強会（院内）	平成29年4月～ 令和2年3月	聖カタリナ大学の軸丸清子教授から、看護研究の基礎（文献検索、研究計画書作成、論文作成）と質的研究（インタビュー方法、分析方法）について学び、指導の下で研究を実施した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許 准看護師免許 看護婦免許証 CVPPP（包括的暴力防止プログラム）施設認定 トレーナー 奈良学園大学 看護学研究科 看護学専攻 修士	平成8年3月 平成13年4月 平成23年2月 令和5年3月	第15188号 第1129001号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
保健所、近畿厚生局の監査対応	平成21年4月～ 令和2年3月	看護部管理職者として、監査時に必要な資料準備、当日の対応をしていた。 職員が監査の内容と日々の業務の必要性について理解できることを目的として、日頃から看護基準や診療報酬に関する事項について説明していた。
精神保健福祉法実地指導対応	平成21年4月～ 令和2年3月	看護部管理職者として、監査時に必要な資料準備、当日の精神科医の診察の対応をしていた。 職員が精神保健福祉法の理解と法律を遵守した医療を提供できることを目的として、主に、入院形態、行動制限、設備といった点について、根拠を伝えながら、理解しやすいように説明していた。
マニュアル作成	平成27年4月～ 令和2年3月	看護教育専門師長として、職員の看護技術の習得や統一を目的として、変更した看護技術についてのマニュアル追記修正や、新たに取り入れる看護技術についてのマニュアルを作成していた。 院内感染対策専門師長として、職員が正しい感染対策を行えるように、マニュアルの更新や新たな感染症のマニュアルを作成していた。
保健所との連携	平成27年4月～ 令和2年3月	院内感染対策専門師長として、早期に感染拡大を防止するために、感染症（活動性結核者の発生、インフルエンザや原因不明の感染症）がクラスター化した際、毎日データ表を用いて保健所に感染者報告を行いながら、検査の実施や現場の感染対策の確認や指導を実施していた。

実習受け入れ調整		平成27年4月～令和2年3月	看護部教育専門師長として、実習学生が学びやすい環境を提供するために、看護専門学校3校、看護大学1校の実習を受け入れの日程や人数の調整を行っていた。すべての学生に対して病院オリエンテーションを実施し、実習指導者会議には参加していた。学校側からの病院に対する苦情の窓口となり、必要な場合は病棟師長の指導を行っていた。反対に、学生の問題についても、病棟から聞き取り、学校側に伝える役割を担っていた。	
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1				
2				
3				
:				
(学術論文)				
1. BSCの実践としての看護能力向上への取り組み	共 著	平成28年9月	日本医療バランスト・スコアカード研究 Vol.13 No.1 September 2016 P104-106 (査読あり)	BSCの戦略目標として、「職員基礎教育の徹底」を掲げ、看護部教育委員が、病棟への出張研修という病棟現場の教育を具体的なアクションプランとして実施。研修を継続していくなかで、有効性を実感した職員から依頼を受けるようになったことから、プランの効果について考察した。 ◎井上理子, 中北勝彦, 木下大作, 谷口光一
2. 看護管理者が経験を通して認識している精神科看護の魅力とその伝え方に関する研究	共 著	令和2年6月	第50回日本看護学会論文 看護管理 50巻 P19-22	精神科病院における看護者の確保は切実な問題となっている。看護管理者が精神科看護の魅力について経験を通してどのように知覚・認識し、後輩看護者にどのように伝えているかを明らかにした。 谷口光二, ◎井上理子, 山本由紀, 軸丸清子
3. 日本の精神医療の実態とその課題に関する文献的考察 -イタリア及びイギリスの精神医療との比較を通して-	単 著	令和6年3月	京都女子大学大学院 発達教育学研究科博士 後期課程研究紀要	精神医療の実態を記した希少な書籍を用いて、日本の精神医療の実態を示すとともに、イタリア及びイギリスといった既に精神医療を変革させた国との比較を通して日本の精神医療の課題について考察した。 ◎井上理子
(発表)				
1. 認知症高齢者へのバックハグクッションを用いたBPSD改善効果の検証	共 著	平成30年6月	第53回 京都病院学会	認知症高齢者は、BPSDによって在宅や施設での療養が困難となっている。空間認識力の低下している認知症高齢者に背後から抱きしめるような形態のクッション（バックハグクッション）を使用し、唾液アミラーゼ活性の変化を明らかにして、BPSDへの効果を検証した。 辻 堪子, 奥田安子, ◎井上理子
2. 手指衛生に着目した「おむつ交換」の定着に向けて	共 著	令和元年4月	日本感染管理ベストプラクティス”Saizen”研究会 第14回セミナー	認知症高齢者の入院が急増するなか、おむつ交換を要する人も増えている。そのため、自己流で実践しているおむつ交換方法の現状を把握し、手指衛生を重要ポイントとした手順の作成と教育後の実践方法の変化について明らかにした。 明石香代子, 坂中邦彦, ◎井上理子
3. 精神科慢性期閉鎖病棟の日常生活にかかわる看護者の思いとアドボカシーの実践	共 著	令和元年9月	日本精神科看護協会 京都支部 研究発表会	精神科病院では、患者に対して、未だに支配・管理的な対応が続いている。そこで、精神科慢性期閉鎖病棟に勤務する看護者の語りから、患者の日常生活にかかわる看護における看護者のアドボカシーに関する思いと実践を明らかにした。 井上理子, 武井恵美, 奥田友子, 小谷洋司

4. 言葉で意志を伝えることのできない認知症高齢者の行動の意味を模索するプロセスに関する研究 :	共著	令和2年6月	第55回 京都病院学会	認知症の進行により言葉で意思を伝えることのできない認知症高齢者の行動について、多職種で仮説を導き出し、その仮説に沿ったケアを実践しながら、行動の意味を模索するプロセスを振り返りった内容を考察した。 山口桂介 山本知 山根川松子 井上理子
(その他) 1 2 3 :				

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

研究分野		研究内容のキーワード		
ライフサイエンス / 公衆衛生学、公衆衛生学分		性感染症、看護、社会的孤立、女性支援、社会資源		
教育上の能力に関する事項				
事 項		(西暦記載) 年月日	概 要	
1, 教育方法の実践例		2016年10月 2020年-2022年 21年1月-2023年2月	老人保健施設等で行われる老年看護学実習を実施した。 病院にて精神看護学実習を実施した。 訪問看護ステーションにて在宅看護学実習を実施した。	
2, 作成した教科書, 教材		2017年4月1日 2020年-2023年	老年看護学概論等で使用する配布資料を作成した。また、実習要項や実習記録を作成した。 担当授業(精神看護学援助論、地域在宅看護学援助論、地域在宅援助論演習)の資料は自ら作成した。	
3, 教育上の能力に関する大学等の評価		2020年-2022年	学生の主体的な学びを促す対応を心がけていた。実習先の指導は一任されていた。ゼミ対応は准教授と共に対応し、英語論文読解に対する指導を行った。	
4, 実務の経験を有する者についての特記事項			基礎や精神、在宅、老年など、様々な領域での助手、助教としての教育経験がある。	
5, その他		2022年6-8月 2023年4月 2024年5月	国際看護論Ⅱ(1単位)を副担当として実施運営した。フィンランドとブータンの医療に携わった専門家から話を聞き、自身のエチオピアでの体験も共有した上で、学生にwell-beingの定義を考える機会を提供した。 上記内容をメンタルヘルス論でも実施した。	
職務上の実績に関する事項				
事 項		(西暦記載) 年月日	概 要	
1, 資格, 免許		2006年4月1日	看護師、保健師免許取得	
2, 特許等				
3, 実務の経験を有する者についての特記事項		2020年	HIVを含む性感染症検査施設でのカウンセリングと採血をボランティアとして関わった。また、中学生の性教育の授業を実施し、性への正しい知識普及と理解を促した。	
4, その他		2022年-現在	社会的困難女性をサポートする支援者を対象としたKYOTO SCOPEを運営するため、(一社)SRHR japanを立ち上げた。支援者とのケース勉強会やNHKとの共同調査、RISTEX研究への協力などを実施中である。	
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1「大阪市内のHIV検査相談施設における個別施策層の受検者動向: 記述疫学研究」	単著	2020年3月	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系	行政の実施した質問紙データを2次利用し、大阪市内のHIV検査利用者の中で、リスク層の受検動向を明らかにした。
(その他) 1「ホームレス者の健康と生活および保健行動」 2「エチオピア遠隔地における感染症対策の脅威 ～リファラとサーベランスの検証から～」 3「地域で生活する高齢者の睡眠障害と抑うつとの関連」	共同 共同 共同	2006年7月 2013年3月 2018年6月	第3回日本高齢者虐待防止学会 日本国際保健医療学会 第31回西日本地方会 日本老年看護学会第23回学術集会	ホームレスの人々の保健行動について、インタビューにより明らかにした。 エチオピアのアムハラ州での、サーベランス上の疾患と医療機関への紹介事業の実施状況を明らかにした。 シルバー人材センターの高齢者を対象に、質問紙調査を実施し、睡眠と抑うつとの関係を明らかにした。

4「社会的孤立状態にある女性に対する病院ソーシャルワーカーの実践と課題」	共同	2019年10月	日本女性医学学会第34回学術集会	社会的孤立女性に対する病院でのソーシャルワークの実践と課題を明らかにした。
5「繰り返す人工妊娠中絶、社会的ハイリスク妊婦、被虐待、虐待加害は病院で認識・対応されているか」病院職員対象の質問紙調査」	共同	2019年10月	日本女性医学学会第34回学術集会	病院で職員を対象に、社会的孤立女性に対する認識を、質問紙調査にて明らかにした。
6「社会的孤立女性に対する効果的ソーシャルワークチームのコンピテンシーに関する質的分析」	共同	2020年9月	日本ヘルスコミュニケーション学会第12回学術集会	社会的孤立女性を支援している支援者たち20名へのインタビューを質的に分析し、ソーシャルワークのコンピテンシーを明らかにした。
7社会的孤立女性への支援の困難に関する質的分析	共同	2021年12月	日本看護科学学会学術集会講演集	社会的孤立女性を支援している支援者たち20名へのインタビューを質的に分析し、ソーシャルワークの困難さを明らかにした。
8性と生殖に関する健康と権利についての行動・意識調査	共同	2023年10月	第82回日本公衆衛生学会総会抄録集	NHKと共同で行ったインターネット調査結果から、性や生殖に関する男女の意識の差について明らかにした。
9地域の多様な支援者から見たアルコール問題を含めた社会的困難を抱える対象者への視点の集約	共同	2023年8月	日本アルコール関連問題学会大会	ケースカンファレンス事例を提示し、地域の多様な支援者の視点で支援を考えた結果、医療介入に導いた事例を報告した。
10Social resources necessary to support women with alcohol use disorders	共同	2023年3月	EAFONS conference	アルコール依存症をもつ女性を支援につなげるため、ケースカンファレンスを開催し、地域連携を構築したことを報告し
11Japanese attitudes towards spousal consent for abortion	共同	2023年10月	FIGO 2023 World Congress	NHKと共同で行ったインターネット調査結果から、中絶に対する同意についての意識の差を明らかにした。

教 育 研 究 業 績 書

2024 年 5 月 13 日

氏 名 速水 裕子

印

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
看護学、ジェンダー	地域看護学、老年看護学、女性学、産業看護、労働	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) 高齢者リフト演習	2014 年 5 月	欧米諸国と比較し、高齢者のリフト活用が日本では立ち遅れているなか、福祉用具事業者より高齢者用リフトをレンタルし、学生にリフト操作やリフトで移乗する高齢者体験を実施し、介護施設や病院でリフト活用ができる人材を育てることを意図して、老年看護学演習を実施した。
(2) 高齢者吸引演習	2014 年 5 月	吸引器や掃除機につける専用ノズルを活用し、高齢者が窒息しそうになった時に、どのように緊急的に看護介入するかを、果物のバナナを利用して、吸引の演習を実施した。
(3) 排泄介助演習	2014 年 6 月	状態に合わせた適切な排泄用具の活用法について、演習形式で介護実践についての演習を行う。適切な尿器、便器の活用の仕方から、尿取りパッド、おむつの選択から、おむつ交換の実際についての演習を実施した。
(4) 高齢者のレクリエーション	2014 年 6 月	過去の学生の実習でのレクリエーションの実践の写真を活用しながら、回想法等を取り入れた、高齢者の老年期の自我の統合に向けたレクリエーションについて、実例を提示しながら、授業で老年看護学実習に向けた高齢者レクリエーションについて説明した。
(5) 高齢者の活動と休息(睡眠)	2014 年 6 月	過去の学生の実習での活動と休息についての実践例を活用しながら、高齢者の活動と休息の実際について授業を実施した。
(6) 高齢者の事例について、看護展開の演習	2022 年 4～5 月	片麻痺高齢者の事例を通して、老年看護援助論の演習で、2コマ担当し、老年看護記録の記載方法の演習や一部計画を立てる、看護実践後に記載する SOAP の形式で書いてみる演習を行った。
(8) ALS 患者と若年性認知症当事者の比較についての演習	2022 年 10 月	ALS や高次脳機能障害についての成人老年看護援助論で自身が運営する福祉ラジオでの若年性認知症当事者の声発信の映像を活用しながら、ALS 患者との比較について検討させる演習を実施した。

2 作成した教科書、教材		
教科書		
(1) 公衆衛生看護活動論 技術演習 第2版	2014 年 4 月	出版社:クオリティケア 著書全体の概要: 高齢者保健、母子保健、成人保健、結核感染症、難病、家庭訪問、健康教育、地域組織活動等、多種多様な領域を網羅し、保健師が活動の中で出会う様々な個人や家族、集団や地域の事例を演習形式で展開している。事例について考えるために必要な知識や考え方を記載し、事例を通じて学生が、活動展開について考えることができるように構成されている。対象に応じた実践方法を自ら考え、支援方法を導き出すことができ、活動技術や状況判断能力が向上するように作成されている。(297 頁) (編集:岩本里織、北村眞弓、標美奈子、草野恵美子) 共著者:金子仁子、標美奈子、<u>速水裕子</u>、林友紗、北村眞弓、中山貴美子他 10 人 担当部分の概要: 第1章 家族支援方法-家庭訪問 統合失調症の患者の事例を通して、家族を単位として支援する必要性、家庭訪問からわかったことの整理の仕方、初回家庭訪問、ジェノグラム・エコマップによる家族の関わりと家族ととりまく支援の現状の整理の仕方、次回家庭訪問、家族支援のポイントをまとめる。支援を展開するうえで、家族各々の気持ちを考え、整理しながら支援方法を考えていく過程について、学生のグループワークでの報告を提示しながら、経時的にわかりやすく解説している。(pp.11～22 共著) 家族各々の気持ちを丁寧に考え、段階的に家族を取り巻く状況を整理していく過程を詳しく指導しているため、学生がゆっくり頭の整理をしながら、自分たちで考え、地域看護職としてのよりよい支援を模索できるものとなった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		

4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) FMgig「認知症介護ラプソディ」という福祉・社会貢献(SDG)系ラジオの運営、パーソナリティ業務	令和元年 4 月 ～ 現在まで	福祉・社会貢献(SDG)系で活躍する医療・福祉職、活動家、認知症や障害の当事者等をお招きし、ラジオ発信やディスカッション等を実施している
(2) 成人期の対象者についての保健指導	平成 29 年 4 月 ～ 現在まで	某自治体の職員に対し、産業保健師として保健指導を実施している
(3) コロナ電話(疫学調査等・検査案内)業務	令和 2 年 6 月 ～ 令和 5 年 3 月まで	某自治体でコロナ感染者等を対象に疫学調査や検査案内、相談業務を実施した。
(4) 絆フェス(埼玉県の福祉職からなる団体)に講演	令和 2 年 7 月	福祉ラジオ発信におけるこれまで大事にしてきた番組ポリシーを伝え、コロナ禍で福祉職を勇気づけるための啓発講演

(5) 福岡の第一高校に「夢授業」	令和 2 年 7 月 令和 3 年 7 月	夢のある仕事(ラジオ)をしている一例として高校生に福祉ラジオの内容やこれまでの自身の人生について語る授業を実施
-------------------	--------------------------	---

(6) 20 周年記念事業講演 社会福祉法人 蒼隆会 特別介護老人ホーム「すばる」奈良県香芝市	2023 年 3 月	20 周年記念事業記念講演を実施し、認知症高齢者について著書「認知症介護ラプソディ」のストーリーの主人公の祖母や祖母介護の体験から、住民に役立つ情報や知見を提供し、質疑応答により、住民の相談を受ける
---	------------	---

5 その他		
(1) International Conference on Dementia and Alzheimer Rehabilitation (国際学会) Organizing Committee.(組織委員)	令和 3 年 ～ 現在	International Conference on Dementia and Alzheimer Rehabilitation(国際学会)にて Organizing Committee.(組織委員)として、運営業務に携わる。
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許		
(1) 看護婦免許	平成 10 年 3 月	第 977702 号
(2) 保健婦免許	平成 10 年 3 月	第 84414 号
(3) TOEIC	平成 20 年 1 月	815 点
2 特許等		
なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
介護保険要介護認定調査員研修 修了	平成 11 年 7 月	平成 11 年 10 月からの要介護認定調査の実施に備えて研修を受講した。
4 その他		
(1) 全国保健師教育協議会スキルアップ 研修	平成 21 年 7 月	保健師国家試験問題の改善の仕方および地域看護実習の内容の在り方についてグループワークを行った。

(2) 公衆衛生活動・研究論文の書き方 研修修了	2011 年 8 月	公衆衛生活動に関する研究について、統計分析の仕方から論文での表し方について講義やグループワークにて学習した。
(3) 新聞等での実践活動の掲載 ①産経新聞 「女性と派遣労働～一選択肢として評価を」	2012 年 10 月 2 日	「女性と派遣労働～一選択肢として評価を」と題する内容を執筆。
②毎日新聞 タイトル:『介護職の苦悩 番組で発信 ～ネットラジオの保健師の速水ユウさん～』	2020 年 5 月 8 日朝刊	毎日新聞阪神と大阪エリアの朝刊に、コロナ禍での介護職の声の発信について『介護職の苦悩 番組で発信 ～ネットラジオの保健師の速水ユウさん～』と題して、マスクの供給が止まり自前になっていることや、事務職と違って介護職がテレワークはできず、現場でどのようにしたらよいか困っているというラジオ発信内容が新聞にカラー写真付きで掲載される。小さい fmGIG 西宮ラジオでの発信が新聞を介して大きい発信へと展開していった。
③神戸新聞 タイトル:「女性の自殺予防を防ごう 大阪の保健師が協会設立」	2021 年 4 月 5 日朝刊	「女性の自殺予防を防ごう 大阪の保健師が協会設立」と題して、西宮のインターネットラジオ局パーソナリティが協会を発足させ(会長に就任)、黄色りぼんを西宮の作業所で制作している様子や寄り添う声かけの黄色りぼんの LINE スタンプを販売していることが取り上げられた。
④トヨタ財団国際助成プログラム 「認知症と地域共生社会」のホームページ タイトル:fmGIG ラジオ認知症介護ラプソディー介護、福祉、医療、健康の発信を助けるラジオ」	2021 年 7 月	トヨタ財団国際助成プログラム「認知症と地域共生社会」のホームページに「認知症と地域共生社会」の実践として「fmGIG ラジオ認知症介護ラプソディー介護、福祉、医療、健康の発信を助けるラジオ」というタイトルでラジオの内容が紹介される。
⑤認知症白書 2022	2022 年 3 月	「fmGIG ラジオ認知症介護ラプソディ」の内容が紹介される。

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)					
1.	公衆衛生看護活動論 技術演習(再掲)	共著	2014 年 4 月	クオリティケア	高齢者保健、母子保健、成人保健、結核感染症、難病、家庭訪問、健康教育、地域組織活動等、多種多様な領域を網羅し、保健師が活動の中で出会う様々な個人や家族、集団や地域の事例を演習形式で展開している。事例について考えるために必要な知識や考え方を記載し、事例を通じて学生が、活動展開について考えることができるように構成されている。対象に応じた実践方法を自ら考え、支援方法を導き出すことができ、活動技術や状況判断能力が向上するように作成されている。 (総ページ数 297 頁) (編集:岩本里織、北村眞弓、標美奈子、草野恵美子) 共著者:金子仁子、標美奈子、<u>速水裕子</u>、林友紗、北村眞弓、中山貴美子他 10 人 担当部分:第 1 章 家族支援方法 家庭訪問 統合失調症の患者の事例を通して、家族を単位として支援する必要性、家庭訪問からわかったことの整理の仕方、初回家庭訪問、ジェノグラム・エコマップによる家族の関係と家族ととりまく支援の現状の整理の仕方、次回家庭訪問、家族支援のポイントをまとめる。支援を展開するうえで、家族各々の気持ちを考え、整理しながら支援方法を考えていく過程について、学生のグループワークでの報告を提示しながら、経時的にわかりやすく解説している。 (pp.11～22 共著)

2.	派遣ナースのコミカルなお仕事	単著	平成26年 12 月	メディアポート	派遣ナースの面白い現場エピソードストーリー (総ページ数: 146 頁)
3.	認知症介護ラブソディ〜笑って学ぶ認知症介護が楽になる 40 の知恵	単著	平成 28 年 9 月	メディカルパブリッシャー	認知症の祖母の介護の様子を綴りながら、老年看護のポイントをまとめた実用書 (総ページ数: 255 頁)
4.	認知症の人がその人らしく生きるための介護術	単著	令和 2 年 8 月	メディカルパブリッシャー	認知症の祖母の介護の様子を綴りながら、認知症の人がその人らしく生きるためのポイントをまとめた実用書 (総ページ数: 237 頁)
5.	「新型コロナウイルス ナースたちの現場レポート」	共著	令和3年 3 月	日本看護協会出版会	コロナ禍で活躍した保健師、看護師の 1 人として、「小さな声の発信を届けたいーラジオパーソナリティが見たコロナ禍」というタイトルでコロナ禍でのラジオ発信や保健所の看護業務についてまとめた。 (総ページ数: 743) (担当部分:p412—419)
.					
.					

(学術論文)				
1	心身のストレスおよび作業量からみた体圧移動で座面が変化する ER チェアの評価ー健康成人女性および高齢者を対象としたプレテストの結果からー	共著	2016年3月	甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 第 10 号
				心身のストレスおよび作業量から体圧移動で座面が変化する ER チェアの作業内容や量による違いから、心身のストレスを脳波や唾液による生体反応で評価したところ、ER チェアに心身ストレス、作業量の観点から評価できる要素があることが判明した。 共著者: 丸尾智実、兼田美代、臼井キミカ、辻下守弘、 <u>速水裕子</u> (2016)
	(その他)			

1. What broadcasted about corona on my dementia friendly radio program (口頭発表、基調講演)	単	2021 年 3 月	International Conference on Dementia and Alzheimer Rehabilitation	コロナ禍初期に医療、介護職の声を集め、分析し、マスク等の医療物品不足やコロナ禍で感染予防をしながら介護する医療介護職の苦悩を福祉ラジオで発信した内容について発表した。
2. How I appeal right of people with dementia in my book? (口頭発表、基調講演)	単	2021 年 7 月	International Conference on Dementia and Alzheimer Rehabilitation	「認知症介護ラプソディ」という自身の祖母についてのストーリーで学ぶ実用書について、認知症の人の権利について本書でどのように訴えているかについて発表した
3. How I broadcasted the project of 48people with dementia in 48prefecture? (口頭発表、基調講演)	単	2022 年 2 月	International Conference on Dementia and Alzheimer Rehabilitation	「48 都道府県から 48 人認知症当事者発信プロジェクト」でどのようにラジオ発信をしたかを発表した。
【研究補助金獲得状況】				

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名 松居 典子

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
母親の育児不安, 育児困難, 多胎育児	育児不安, 育児困難, 多胎, 育児支援	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1「母性看護学方法論」（藍野大学短期大学部）	H28～H31	妊娠期, 分娩期, 産褥期, 新生児期の演習を指導する 産褥期の経過とアセスメント、看護について講義する 卒業研究を指導する
2「研究Ⅱ」（藍野大学短期大学部）	H28～H31	
3「ゼミナール」（藍野大学短期大学部）	H28～H31	8～9名でのグループ研究を指導する
4「母性看護学実習」（藍野大学短期大学部）	H27～H31	臨地実習を指導する
5「母性看護援助論」（奈良学園大学）	R2～	分娩期, 産褥期の経過と看護について講義する
6「母性看護援助論演習」（奈良学園大学）	H31～	妊娠期, 分娩期, 産褥期, 新生児期の演習を指導する
7「母性看護学実習」（奈良学園大学）	R1～	臨地実習で実際の対象に応じた看護について指導する
8「ウィメンズヘルス学」（奈良学園大学）	R2～R4	女性のライフサイクル各期の健康課題と健康支援について講義する
9「助産診断技術学Ⅲ」（奈良学園大学）	R2～	産褥期の助産診断、助産ケアについて講義やグループワークによる指導を行う
10「助産診断技術学演習Ⅰ」（奈良学園大学）	H31～	分娩期のケアを演習指導する
11「助産診断技術学演習Ⅱ」（奈良学園大学）	H31～	妊娠期, 産褥期, 新生児期のケアを演習指導する
12「助産診断技術学実習」（奈良学園大学）	R1～	臨地実習で実際の対象に応じた助産ケアを指導する
13「ラーニングスキルズ」（奈良学園大学）	R2	1年生に文献資料の検索や論文作成などゼミ形式で指導する
14「卒業研究Ⅱ」（奈良学園大学）	H31～	卒業研究を指導する
2 作成した教科書, 教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	H29～	学生による授業評価アンケートにおいて評価を得る
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1 藍野大学 短期大学部 助手	H27, 8～ H31, 3	
5 その他		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
1 看護師免許	H10, 4	
2 助産師免許	H11, 4	
3 受胎調節実地指導員	H11, 4	
4 藍野大学 看護学研究科 看護学修士	H31, 3	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1 滋賀県大津市新生児訪問	H27～31	新生児訪問を実施 計測, 指導, 相談など

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 解いて、わかる覚えて合格小児看護学看護の統合と実践問題集	共著	R2, 3	株式会社 PIRAR PRESS	小児看護学領域の看護師国家試験対策 A5 版 全 96 頁 編著：山口求 監修：守本とも子 小児看護学部分を共著
2 看護師国家試験直前社会福祉学領域ファイナルエック	共著	R3, 3	株式会社金芳堂	社会福祉学領域の看護師国家試験対策 A5 版 全 170 頁 編著：守本とも子、富永堯史 監修：星野政明 「児童家庭福祉 次世代育成支援・少対策」P. 125～P. 128 を単著 健やか親子 21, 少子化対策について
3 2021 年出題傾向がみえる母性看護学 中項目にみた要点と解説付過去問題集	共著	R3, 11	株式会社 PIRAR PRESS	母性看護学領域の看護師国家試験対策 A4 版 編著：松浦純平 監修：守本とも子 要点編および過去問題編の分娩期を単著
(学術論文) 1 定額までの双子の育児 験から生まれた母親の技	単著	H31, 3	藍野大学看護学研究科 看護学専攻修士論文	双子を育児中の母親 8 名へのインタビューを行い、定額までの育児体験から生まれた、双子育児ならではの育児方法や、察方法、児への関わり方などの育児の夫を検討し、母親の創意工夫から生まれた双子育児の方法を育児支援に役立てる
2 重症心身障害児（者）の 清潔援助としてスキンケ アの提供によるストレス に関する研究	共著	R2, 2	日本医療福祉情報行動 動科学会誌「医療福祉情報 情報行動科学研究」 第 7 巻 2020 年 3 月 P. 73～P. 81	入院中の重症心身障害児（者）をケアとコントロール群に分けケア群にはカラダキレイとシュクレを用いて清潔ケアを行いストレスへの効果を検証し (共著者：山口求、松居典子他 10 名)
3 重症心身障害児（者）の 清潔援助としてスキンケ アの提供によるストレス に関する研究	共著	R2, 3	アビサル・ジャパン KK 委 受託研究報告書 令和 2 年 3 月 P. 1～P. 9	入院中の重症心身障害児（者）をケアとコントロール群に分けケア群にはカラダキレイとシュクレを用いて清潔ケアを行いストレスへの効果を検証し (共著者：山口求、松居典子他 10 名)
4 N I C U 退院後の母親 求める入院中の育児支援	共著	R2, 3	日本小児保健協会	N I C U に入院経験のある、第 1 子育中の母親 8 名へのインタビューを行入院中に求めている育児指導や育児支援を検討し、NICU での母親への指導・援助を考案した。 (共著者：寺本久美子、松居典子、今村美幸)
(その他) 1 2				

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 5 月 1 日

氏名 松浦 尚子

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
基礎看護学	基礎看護技術演習，評価、学校看護師	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) 国家試験対策における e ポートフォリオの導入	平成 27 年 4 月～現在	国家試験対策のため，e ポートフォリオを活用し，学生の目標を明確にし，モチベーションを低下させず国試に向かわせ合格に導いた。
(2) 基礎技術演習へのルーブリックの導入	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	基礎看護学方法論Ⅳ（診療の補助技術）」（2 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，基礎看護技術演習でルーブリック評価を導入し，学生のパフォーマンスを含む主体的学修，演習後の課題レポートの基準の明確化を行った。
(3) 人体の構造と機能の授業において書画カメラの活用	平成 30 年 4 月～令和元年 8 月	「人体の構造と機能Ⅰ，Ⅱ」（1 年次配当，半期，必修科目，各 2 単位）において，栄養の消化と吸収を担当し，書画カメラを活用しながら，消化器の構造と機能の理解を深める取り組みを行った。
(4) 社会福祉学の授業でのグループワークの導入	平成 30 年 4 月～令和元年 8 月	「社会福祉学」（1 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，前半は講義を行い，後半は問題提起，グループワーク，発表，解説を繰り返し展開した。このことで学生からは，社会福祉がどのように生活と結びついているのかを理解することができたと評価が得られた。
(5) 基礎技術演習での感染対策を行いながらの実施による学びの確保	令和 2 年 5 月～令和 3 年 3 月	「看護技術演習Ⅰ」（1 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，演習は学年を 4 分割し，感染対策を講じながらすべての演習単元を実施し，「より良い」を深めることができた。
(6) 国家試験対策の領域別の講義	令和 3 年 1 月 令和 4 年 1 月	奈良学園大学の国家試験の領域別の対策講習において，基礎看護学領域の過去 10 年間の国家試験問題から出題基準別に出題傾向を分析し講義を行った。
基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント看護技術の基礎Ⅰの講義・演習	令和 3 年 4 月～令和 5 年 3 月	看護技術と思考がつながるように、根拠を考えさせ、なぜその技術が必要なのか、対象者のより良いを考えた時にどのような方法が良いのか考えるような授業を実施した。
(7) 看護技術の基礎Ⅰ・Ⅱ、看護実践プロセスの基盤Ⅰの講義演習	令和 5 年 4 月～現在	看護技術と思考がつながるように、根拠を考えさせ、なぜその技術が必要なのか、対象者のより良いを考えた時にどのような方法が良いのか考えるような授業を実施している。
2 作成した教科書，教材 特記事項なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 学生による授業評価アンケート	令和元年前期	令和元年度の学生による授業評価は，5 点満点中、4.0 を上回り平均 4.19～4.7 となっている。
4 実務の経験を有する者についての特		

(1) 奈良県立高田高等学校の学生に模擬授業	平成 30 年 9 月 28 日	看護師の仕事について
(2) 奈良県立五條高等学校の学生に講義	平成 31 年 3 月 4 日	高齢者看護について
(3) 大阪市立扇町総合高等学校の学生に模擬授業	令和元年 6 月 24 日	バイタルサインについて
(4) 大阪府立懐風館高等学校の学生に模擬授業	令和元年 7 月 17 日	看護師の仕事について
(5) 奈良県立高田高等学校でフィジカルサポート	令和元年 7 月 19 日	CPR と AED について
(6) 梅花高等学校の学生に模擬授業	令和元年 12 月 12 日	看護師の仕事と看護師になるための高校生活の過ごし方について
(7) 高田商業高校の学生に模擬授業	令和 3 年 11 月 26 日	自分の身体を知ろう！
(8) 東大阪市立日新高等学校で 3 年次進路探求講座の講師	令和 4 年 5 月 12 日	看護師に必要な知識
(9) 東大阪市立日新高等学校で 3 年次進路探求講座の講師	令和 5 年 5 月 11 日	「健康」って何？「コミュニケーション」って何？
5 その他		
(1) 白鳳短期大学総合人間学科看護学専攻における教育実績	平成 27 年 4 月～令和 2 年 3 月	成人看護学Ⅳ（慢性期・終末期）、成人看護学Ⅴ（看護過程）、成人看護学実習Ⅰ（急性期・周手術期）、成人看護学実習Ⅱ（慢性期）、人間学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業研究Ⅱ、看護基礎技術演習Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅳ（診療の補助技術）、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、社会福祉学、生体機能学Ⅰ、生体機能学Ⅱの消化器、統合実習を担当した。
(2) 白鳳短期大学総合人間学科看護学専攻における教育実績	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月	白鳳短期大学において国試対策のサブリーダーを担当し、学生を合格へと導いた。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許		
(1) 看護師免許	昭和 63 年 5 月 18 日	登録番号 第 630355 号
(2) 養護教諭Ⅰ種免許状	平成 7 年 3 月 31 日	登録番号 平 6 養 1 第 2013 号
(3) 保健師免許	平成 7 年 5 月 12 日	登録番号 第 77561 号
(4) 看護師養成所専任教員資格	平成 27 年 3 月	
2 特許等 特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

(1) 教務部	平成 27 年 4 月～令和 2 年 3 月	教務副リーダーとして時間割の調整・変更作業，定期試験の準備，非常勤講師との連絡調整等を行い，授業が円滑に進むよう調整を行った。
(2) 学年のリーダー・サブリーダー	平成 28 年 4 月～令和 2 年 3 月	学年のリーダー，サブリーダーを行い，学年での国試対策の企画運営，人間力を高めるための企画，運営等を行った。
(3) 領域でのリーダー	平成 30 年 4 月～令和 2 年 3 月	白鳳短期大学で領域のリーダーとして，基礎看護学領域の授業，実習の調整，実習病院への書類の作成，実習グループの構成等を行った。更に実習後の実習発表会の企画・運営を行った。
(4) 学生生活	令和 2 年 4 月～現在	学生との会話を意図的に持ちながら，学生の変化を感じ取り，必要があればメールでの相談，対面での相談を行っている。
(5) 入試広報	令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月	奈良学園大学で入試広報委員として，オープンキャンパスの企画・運営，学校見学の対応，学校パンフレットの構成等を行った。
4 その他 特記事項なし		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1 看護技術演習における学生評価の検討	共著	平成 31 年 1 月	星槎大学大学院教育学研究科 教育学専攻 修士論文	基礎看護学技術演習の評価として，パフォーマンス評価と演習レポートのルーブリック評価を導入しその有用性を検証した。(共著者：松浦尚子、佐藤智彦)
2 基礎看護技術演習における学生の主体的学修の評価に関する検討	共著	令和 3 年 3 月	医療福祉情報行動科学 研究 2021. Vol8 P99-114	基礎看護学技術演習でルーブリック評価を導入し，学生のパフォーマンスを含む主体的学修，演習後の課題レポートの基準の明確化を行った。(共著者：松浦尚子，佐藤智彦)
(その他) 学会発表				
学生の主体性を引き出す有効な教育支援の検討	共著	令和 4 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会	統合実習での実践を振り返り，教員のどのような支援が学生の主体性を引き出しているかを明らかにしていった。(共著者：松浦尚子，西薊貞子，小林由里)
「医療的ケア」が必要な子どもが，より良い学校生活を送るためには一学校看護師の役割についての文献検討ー	共著	令和 5 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会	医療的ケアが必要な子どもがより良い学校生活を送るために看護師に期待されていることは教育の視点から捉えた安全で安心な医療的ケアの実施を行うことであつた。その期待に応えるためには何が必要かを明らかにしていった。(共著者：松浦尚子、中島栄之介)

教 育 研 究 業 績 書		
令和6年3月31日		
氏名 溝口みちる		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学，情報学	オストメイト、スマートストーマ	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
（1）基礎看護学の講義・演習の工夫と技術試験の試み（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 1年生）	平成26年4月～平成29年1月	「生活を支援する技術Ⅱ」（環境、休息、活動）、「生活を支援する技術Ⅳ」（食事・排泄）を担当した。パワーポイントや板書だけではなく、DVDも活用し授業した。授業したことがすぐに演習できるよう、白衣を着用し、すべての授業は実習室で行った。また、事前学習をもとに、活発な意見を発言できるよう、グループワークを行った。入学後すぐの学生は、自分で書籍を調べるということが難しかったため、授業時間内で図書室も利用した。そうすることで、よりグループ内の協調性が増し、演習でも自ら考えて行動できるようになった。また、授業終了後には、学生にアクションシートを記載してもらい、授業の目標と授業の成果を照らし合わせ自己の授業評価を行った。「導尿処置」の基礎看護学技術試験について、これまでチェックリストによる基礎看護学技術試験を行っていたが、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの能力も含めた学習の到達度を評価していくことが重要である。教員と学習者である学生にとって、学習の到達状況を把握するための指標となるばかりではなく、次の学習の方向性を示し、自己学習力を培う指針となるため、ルーブリック評価表を作成した。評価基準を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」に分け、三段階の評価基準を設定した。ルーブリック評価を活用し技術試験を行った結果、世具体的な評価ができた半面、全教員での統一がいま一つであり、改善していく必要があった。
（2）能動的な授業を考えたジグソー学習の導入（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 2年生）	平成26年4月～平成29年1月	座学やグループワークのみにとどまらず、学生がいかに効果的・能動的に授業を行うことができるのかを考え、「診療行為を支援する技術Ⅰ」の注射の授業で実施した。「注射」は学生にとって一番興味を示す反面、医療事故にも繋がるものと考えたためである。学生は、「皮下注射」「皮内注射」「筋肉注射」「静脈内注射」のどれか一つを担当し、他のメンバーに自分が教授したことを伝える。まず、事前課題を提示し、授業当日に役割別の専門家チーム皮下、皮内、筋肉、静脈内それぞれの注射に参加し、他者に教えることができるまで学び合う。その後は、学生は他のグループで教員役となり実施する。教員はそれぞれの専門家チームのアドバイザー的存在として指導する。ジグソー学習前には、教員による授業と実践を行い、根拠、留意点、ポイントを伝えている。授業評価には、30項目の授業アンケートを作成し、「責任感を感じた」「自分から進んで理解しないとこの授業は難しかった」「友達に伝えようという気持ちを持った」など、の声が多数寄せられた。
（3）統合看護学実習を意識した統合看護技術の実施（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 3年生）	平成26年4月～平成29年1月	ケーススタディ、シナリオを用いた演習を行った。6名の受け持ち患者を想定し、グループで患者の優先順位を考えた行動計画の立案をさせた。その後、モデル人形を活用し、実際に上京設定したうえで、観察項目や看護技術などの演習を行った。隣接する病院看護師および1年生の学生の協力のもと、統合看護技術試験を行った。時間内に優先順位を考え、ナースコールの対応やリーダー、メンバーの役割等を確認した。また、この授業の中には、統合看護知識確認として、統合看護技術、医療安全の確認試験を行った。学生は実際にはできなかった場面が多く、看護師国家試験の受験終了後から卒業するまでの間、技術練習を自主的に行うようになった。
（4）実習調整者（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校）	平成28年4月～平成29年1月	実習調整者の役割である年間計画をもとに、臨地実習（基礎看護学実習、領域別実習、統合実習）における、実習施設および各担当教員との調整、実習調整会議にて司会進行等を行った。
（5）基礎演習Ⅰラーニングスキルズ（奈良学園大学 保健医療学部看護学科 1年生）	令和2年4月～令和2年8月	1年次生が大学の学習に慣れ、4年間の大学生活を有意義におくるための基礎を習得することを目的とし、大学での学習を進めるうえで必要となる基礎的な知識や技能、学ぶ姿勢を身につけることを目標としている。目標達成するためには、大学での学び方を身につける、文献や資料を調べることができる、分析的かつ批判的に文章を読み、意見を聞くことができる、論理的かつ多方面に思考することができるとしている。課題や積極的な授業参加ができるよう、ゼミ形式で行った。

事項	年月日	概要
(6) 成人看護学援助論Ⅰ 急性期・周手術期 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和3年4月～ 令和4年3月31	急激な健康破綻が対象者および家族に及ぼす様々な影響を理解し、適切な看護援助ができるように学習する。急性期、リハビリ期、回復期にある患者と家族への具体的な看護方法を学ぶとともに問題解決能力を養うための学習を行う。目標は、クリティカル・周術期にある対象の生体反応や治療・回復過程の特徴を踏まえた看護を理解し、治療による身体機能、自己イメージの変化、苦痛の緩和などに対して、支援する看護を理解する。また、倫理的側面を考慮した看護を理解する。私は、消化・吸収障害をもつ患者の看護を担当した。全身麻酔による影響や手術による侵襲を考え、消化器疾患患者さんの術後合併症を予防するための看護や回復に向けての看護を考えられるように教授した。具体的には、事例を取り上げグループワークを通して学べるようにした。特に、人工肛門造設術を受ける患者さんは、排泄経路の変更による不安が強い。十分な説明や個別性を考え、また、術後回復よりストーマ管理を行うためにも、術前から必要な看護を考えられるようにした。
(7) 成人看護学援助論Ⅱ 慢性期・回復期・終末期 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和2年9月～ 現在	生涯疾患とともに生活することを余儀なくされている対象者とその家族の看護、および終末期にある患者と家族の看護について学習する。慢性期疾患患者の看護においては、終生自己管理を必要としなければならない患者の心理状況を理解するとともに、具体的な看護方法について学ぶ。目標は、慢性的な経過をたどる主な疾患の特徴と、症状や治療が生活に与える影響と慢性的な健康障害をもつ対象とその家族が病気と付き合いながらセルフマネジメントできるための看護を理解する。私は膠原病を持つ患者の看護、消化・吸収障害をもつ患者の看護を担当した。ペーパーペイシェントで看護過程を展開するために、まず、罹患した患者さんの経験や思いを理解する必要がある。そのために、患者会等の患者さんの動画を事前課題として掲示した。それを踏まえ、患者さんおよびその家族に対する看護を考え、退院後の生活に必要な指導についてグループワークを行い学びを深めた。
(8) 成人老年看護援助論Ⅱ 障害適応とエンドオブライフへの支援 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和5年9月～ 現在	慢性的な毛公生涯を抱えた患者・家族に対し、成人期、老年期の発達段階、健康段階に応じた看護援助方法を理解する。また、回復困難な疾患を抱え、人生の最終段階にある患者が尊厳をもってその人らしい人生を全うできるよう、多職種連携のもと、地域への移行支援がなされ、地域包括システムの様々な場面での看護援助をしていく方法について理解し、看護師としての知見を深めていく。私は、難病を持つ人の看護、生活習慣病を持つ人の看護を担当した。事例をもとに病態や治療を理解するところから始め、既習の知識から理論をもとに看護支援についてグループワークを行い学びを深めた。
(9) 成人看護援助論演習Ⅰ・Ⅱ (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	令和3年4月～ 現在	成人期の急性期・慢性期・終末期にある対象を看護するために臨床場面で必要となる看護過程や看護技術について、演習を通して学ぶことが目標である。具体的な目標は、1. 適切な一次救命救急の手法が習得できる、2. ICUにおける術後看護の視点が理解でき、適切な看護の視点での観察が分かる、3. 周手術期における患者の看護過程の展開が分かる、4. 簡易血糖測定の意味を理解でき、その技術の習得と患者への指導を考察できる、5. 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法や管理が理解できる、6. COPDを持つ大腿骨頭部骨折術患者の看護過程の展開が分かる、である。私が担当する「COPDを持つ大腿骨頭部骨折術患者の看護過程の展開が分かる」は、COPDの基礎疾患を持ちながら大腿骨頭部骨折に対して手術を行い、退院後の生活を見すえた看護を考えられるような事例とした。複雑な事例ではあるが、実際に臨地実習では経験する事例ではあると考え、患者さんやその家族の状況や気持ちを考え、看護過程を展開できるようにした。
(9) 成人看護学実習における学外実習の実践 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	平成30年9月～ 現在	成人看護学の担当となり、成人看護学実習Ⅰ（急性期）および成人看護学実習Ⅱ（慢性期）の臨地実習指導を担当している。成人看護学実習Ⅰ（急性期）では、学生は周手術期も含めた、手術を受けられる患者さんを受け持ち、術前・術中・術後の看護展開を行う。全身麻酔と術式による侵襲が身体へどう影響をおよぼすのかを考え、術後の観察や状況に合わせた看護ケア、退院に向けて必要なこと等を指導した。また、成人看護学実習Ⅱ（慢性期）の実習では、障害受容の過程、行動変容、自己効力感などをキーワードに、特に患者さんの入院前の生活に目を向け、看護介入ができるようにした。

事項	年月日	概要
(10) 統合看護学実習(成人看護学)における学外実習の実践(奈良学園大学 保健医療学部看護学科 4年生)	平成30年5月～現在	成人領域の統合看護学実習の目的は、専門分野の実習をふまえ、多様な看護の場において業務に即しながら、保健医療チームの一員として多職種と連携し、チーム医療を実践するための看護実践能力を高めることである。保健医療福祉チームにおける協働と連携、メンバーシップやリーダーシップの在り方を考えたり、看護をマネジメントできる能力を身につけるように指導した。また、看護の実際と適正な評価、実施した看護から自身の看護観を明確にできるようにした。
(11) 卒業研究Ⅱ	令和2年9月～現在	学生が研究テーマを決め、深く研究を進めて論文を作成することが目標である。学生2名を担当し、学生が興味のある分野でテーマを決定し、文献検討を行っている。卒業研究Ⅰをもう一度振り返りながら論文と抄録の作成までの指導を行っている。
2 作成した教科書、教材		
(1) 学生の目標達成に向けたポートフォリオの作成	平成26年4月～平成29年1月	学生が自らテーマや目標を決め、学び続ける学習法を取り入れることを考え、ポートフォリオを作成した。入学時にポートフォリオの説明を行い、ビジョンとゴールを記載させた。中間の面接時に、ゴールに向かうためにはどうしていくかを指導した。また、2～3月には、各学年による発表の機会を設け、学生全員がプレゼンをした。学生自身がどのように成長してきたのかがわかり、また、学生は自信をもって成長できたと主張できるようになった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 三重県立名張桔梗ヶ丘高等学校 出前講座	平成26年9月～平成28年12月	「看護学探求」の授業があり、看護に興味・関心を持っている学生に対し、授業を行った。「形態機能学に関連した基礎看護技術」を担当し、授業の後、実際に血圧測定やビニール手袋の装着・脱着の方法、体位変換等を行った。学生からは、「看護師を目指そうと決めた」「もっと勉強しないといけないと思った」などの声があった。
5 その他		特記事項なし
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
(1) 准看護師免許	平成10年3月	第17056号
(2) 看護師免許	平成12年3月	第1075353号
(3) 厚生労働省認定看護専任教員養成講習会終了	平成24年1月	厚生労働省認定三重県専任教員養成講習会
(4) 修士(看護学)	令和2年3月	奈良学園大学大学院 修士課程 看護学専攻
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 日本看護技術学会第18回学術集会 企画委員	平成30年4月～令和元年3月	「過去・現在から未来へ発信する看護イノベーション」をテーマに、令和元年9月7日、8日の学術集会の開催に向けて、役割を遂行した。
(2) 日本看護研究学会第45回学術集会 実行委員	令和元年8月	「研究成果をためる つかう ひろげる ―社会に評価される看護力―」をテーマに、令和元年8月20日、21日の学術集会の役割を遂行した。
(3) 日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方学術集会 事務局(庶務)および企画実行委員	令和2年2月～令和3年3月	「看護の原点回帰 情緒的価値観へのパラダイムシフト」をテーマに奈良学園大学登美ヶ丘キャンパスで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響にて、プログラムと演題を収録した抄録集をもって、発表・大会参加のかたちとなった。

事項	年月日	概要
(4) 第27回日本看護診断学会学術集会大会 企画委員	令和2年4月～令和3年7月	「看護過程のプロセスとしての看護診断」をテーマに、これまでの看護診断を振り返り、現状から未来へどのように看護診断を発展させればよいかについて考える機会とする。
(5) 第27回日本看護診断学会学術集会大会 特別企画交流集会Ⅲ	令和2年4月～令和3年7月	「看護診断に基づく口腔ケアに関する現状と今後の展望」のテーマで、看護基礎教育における学生、臨床における看護師の口腔ケアアセスメント力、口腔ケア実践能力の現状と課題について発表し、口腔ケアの今後の展望について、看護基礎教育の立場と臨床の立場から意見交換を行った。
(6) 日本オストミー協会 奈良県支部 若いオストメイトオンライン交流会（オストメイト協会・奈良県支部）講師	令和4年3月	オストメイトの参加者に向けて、自身の研究したオストメイトの余暇活動に関する内容を伝えた。
4 その他		
(1) 入試対策委員（社会医療法人 畿内会 岡波看護専門学校）	平成27年4月～平成29年1月	入学試験に関する筆記試験監督および面接試験監督を行った。判定会議に向けて、入試状況をまとめた。
(2) 広報活動（社会医療法人 畿内会 岡波看護専門学校）	平成26年4月～平成29年1月	三重県および奈良県内の高等学校を訪問し、学生募集の案内を行った。また、学校ホームページのニュース更新や広報業者との打ち合わせに参加するなど、広報活動を行った。
(3) 学校における防災・災害に関する見直しを検討	平成26年4月～平成29年1月	「災害発生時に適切な判断・行動がとれる教員の養成－防災マニュアルの再構築－」として、アクションカードを作成した。実際に、防災訓練に活用し、「責任者（指示命令）」「第一発見者（初期消火）」「応援者（避難・誘導）」を行った。結果、焦らずスムーズに学生を誘導でき、自らの役割も担うことができた。また、隣接する病院内での業務改善発表会で発表した。

別記様式第4号（その2の1）

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1. 2019年出題傾向がみえる必修問題	共著	平成30年12月	ビラールプレス	看護師国家試験出題基準の中項目に基づき要点編と過去問題編からなる2部構成となっている構成となっている。担当部分：健康の定義と理解、看護における倫理（看護師等の役割）、人間の特性、人間のライフサイクル各期の特徴と生活（成人期）、人体の構造と機能（人間の死）、疾患と特徴（吐血、咯血、チアノーゼ、呼吸困難、胸痛、不整脈、腹痛・腹部膨満、悪心・嘔吐、下痢、便秘、下血、乏尿、無尿、頻尿、多尿）、薬物の作用とその管理（薬物の管理）、看護における基本技術（フィジカルアセスメント）、患者の安全・安楽を守る看護技術、診療に伴う看護技術（救急救命処置）著者：守本とも子、松浦純平、井上昌子、齋藤英夫、溝口みちる、明神一浩
2. エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図	共著	令和3年1月	中央法規	9症状と17疾患の病態生理、検査、治療、看護ケアまでの解説されている。担当部分：黄疸の定義、病態生理、メカニズム、原因となる疾患、症状と随伴症状、検査・診断、治療、観察ポイント、看護目標、看護ケアとその根拠について執筆した。著者：溝口みちる他
(論文)				
1. オストメイトの余暇活動に関する促進要因と阻害要因の検討	単著	平成30年3月	修士	ストーマ保有者に対する余暇活動を促進する要因と阻害する要因について明らかにするために、質問紙を用い実態調査を行った。分析は、属性とストーマ造設前・後および新たに始めた余暇活動の有無、満足度調査については単純集計し、健康および病気の帰属傾向については、JHLC尺度を使用し単純集計した。患者属性およびストーマに関するデータは、2つの変数がそれぞれ関連しているかどうかを検証するために χ^2 検定を行った。年齢およびストーマ造設経過年数における生活満足度について分散分析し、有意差のあったものに対し多重比較法を行った。性別では、女性より男性のストーマ保有者が多かった。配偶者のみ同居している人は167名（43.4%）や独居が47名（12.2%）との割合であった。ストーマ造設経過年数では、術後経過平均年数は13.4年、術後経過年数を5段階に区分したところ、10年以上20年未満が135人と最も多かった。年齢4群およびストーマ造設経過年数5群と現在の生活満足度の平均の差をそれぞれ比較したところ、ストーマ造設経過年数と現在の生活満足度には「3年未満」と「20年以上」との間に有意差があった。ストーマ造設経過年数が「20年以上」になると生活に満足感を満たすことで日常生活を整え、余暇活動の促進に向かうと推察される。年齢4群と現在の生活満足度との平均の差には有意差はなかった。JHLC尺度の得点では自分自身、家族や身近な人、医療者、運や偶然、神仏などの自分を越えた存在の順に帰属し、内的統制が最も高かった。しかし、内的統制が強すぎるとストーマに関する問題が起こった場合、自分で何とかしようとするあまり対処が遅くなり、更に問題が拡大することや、医療者を遵守することで、ストレスが強くなる可能性も考えなければならない。余暇活動の促進要因と阻害要因に関連した行動予測を測定するためには、今後、個々の価値観とのマッチングなども行い、明らかにする必要がある。
2. Selection and Evaluation of Color/Depth Camera for Imaging Surgical Stoma .	共著	令和3年7月	2021 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 601-614	大腸がんなどの疾患により排泄経路の変更を余儀なくされた場合、日常生活に支障をきたすことが多々ある。私たちの目的は、ストーマと呼ばれる人工肛門を持つ被験者が便の漏れを検知し、適切なタイミングでストーマ袋を取り出せるよう、それらを評価するシステムを開発することです。この目的を達成するためには、まず、カラー/デプスカメラで患者のストーマを撮影し、計測する必要がある。本研究では、大きさの異なる3つの実ストーマモデルをD435と3Dスキャナーで360°回転・角度調整しながら撮影し、点群マッチングにより評価した。その結果、3cmの仮想ストーマ点群は対象物として捉えることができたが、9cmの仮想ストーマ点群では距離誤差が大きく、マッチング率も高かった。したがって、D435は対象物が大きい方が最適に捕捉できることがわかる。さらに、極座標表現のヒストグラムを見ると、3cmの仮想ストーマと9cmの仮想ストーマの形状が一致していることが分かった。このことは、実際のストーマの形状を計測できる可能性があることを示している。共著者：溝口みちる、榎木方俊、吉川知輝、朝野美穂、大西克彦、登尾啓史
3. 舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15集	舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素について、I have, I am, I canの3側面から明らかにすることを目的とする。心身の安定した舌癌サバイバーに半構造化面接を実施、逐語録を作成し、レジリエンスを構成する要素に該当する部分をI have, I am, I canの3側面に分類し内容分析によりカテゴリー化した。舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素として、I haveでは、【辛い時、困った時に支援を得られる環境がある】こと、【心理的に支えてくれる人がいる】ことが、I amでは、【楽観的に生きる】力、【自分も周囲の人も大切にする】力があることが、そしてI canでは、【生活の再構築に向けた模索・実践する】力、【心と体の健康を作る】力が見出された。舌癌サバイバーがメンタルヘルスを良好に保つためには、これらレジリエンスを構成する要素を舌癌サバイバーが身に付けられる、あるいは高められるよう調整、支援することが重要であることが考えられた。共著：田場真理、柳生貴裕、溝口みちる、桐田忠昭、守本とも子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. Comparison of the Accuracy of Pouch Replacement Timing Decisions Using Image Generation Artificial Intelligence and Machine Learning	共著	令和5年7月	2023 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 107-120	この研究では、非接触型ストーマ保有者の便漏れを検出するために、ストーマからパウチを外すタイミングを決定するシステムを開発した。2020年1月頃、世界中で新たな冠動脈アウトブレイクが発生し、病院や介護施設が多くのストーマ保有者からデータを収集することが困難となった。病院や介護施設で多くのストーマ保有者からデータを収集することは一般的に困難であった。そこで、より多くの画像を含む人工知能（AI）画像生成を用いて、十分なトレーニングデータと正しいデータを取得した。そして、これらの訓練データを用いて、パウチを交換する適切なタイムを決定した。最後に、マイクロソフトのローブ機械学習とグーグルのティーチャブル機械学習モデリングツールの2つの学習アルゴリズムを用いて、判定の精度を比較した。その結果、2つの学習アルゴリズムにおける正しい判断の割合は、面装着初日から約3日後までは100%であったが、交換日の1日前から3日前までは40%から87.5%と低い傾向にあった。また、Googleのティーチャブル機械学習モデリングツールは、マイクロソフトのローブ機械学習モデリングツールよりも精度が低かった。 共著者：溝口みちる、渡辺 駿、中原匡哉、登尾啓史
5. System to Check Organs, Malignant Tumors, Blood Vessel Groups, and Scalpel Paths in DICOM with a 3D Stereo Immersive Sensory HMD	共著	令和5年7月	2023 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 431-449	本研究では、MRIやCTなどの異なるDICOM[1]ボリュームの融合表示を生成し、セグメンテーションを必要とせず、閾値レベルの調整のみで、頭蓋に穴を開け、その中を覗くことを体験し、仮想的に操作できる手術シミュレータを提案する。我々は以前、DICOMを3Dボリュームとして利用し、悪性腫瘍から臓器表面までの切断経路を血管群を避けて探索するアルゴリズムを提案した。そこで本研究では、このアルゴリズムにDICOMを直接利用する手術シミュレータを開発した。このシミュレータは、没入型ヘッドマウントディスプレイMeta Quest 2 HMD [11]のジェスチャー機能を用いて、DICOMの3Dボリュームを自由に操作し、視点や視線を変更することができる。キーボード、マウス、2Dモニターで見る手術計画とは全く異なる、実世界でDICOMを見ることができるシステムである。今回の研究は、DX Medicineに掲載された別の研究ともリンクしており、ストーマにパウチを装着する手技が、上記のハンドジェスチャーを使って行われた。その研究では、自分のストーマのVRモデルを使い、何度でも遠隔練習ができるように試みている。その前段階として、ローカルネットワーク上で複数の参加者がシステムを利用できるようにした。最終的には、複数の医師や看護師が術前カンファレンスやケアトレーニングで協力し、精度の高い手術やフィッティングを計画できるよう、このモデルを構築している。 共著者：国居貴浩、渡辺郁、溝口みちる、登尾啓史
(資料)				
1. カリキュラム改正に伴う本学保健医療学部看護学科の新カリキュラム構築のプロセス	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15集	臨床実習が行われる施設を医療施設と介護施設、訪問リハビリテーションに大別しながら、核施設の理学療法の特徴や役割を整理し、臨床実習の内容や方向性を確認した。次に、学生に対する経験の積み重ね方を考慮しながら、各施設における臨床参加型実習モデルを構築し、合わせて臨床実習におけるキーポイントを提示した。共著：服部律子、吉村雅世、西園貞子、三浦康代、嶋田理博、小林由里、佐藤郁代、西出順子、溝口みちる
(国際学会・国際会議発表)				
1. Selection and Evaluation of Color/Depth Camera for Imaging Surgical Stoma	共著	令和3年7月	23RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION, 2021, Washington DC .	大腸がんなどの疾患により排泄経路の変更を余儀なくされた場合、日常生活に支障をきたすことが多々ある。私たちの目的は、ストーマと呼ばれる人工肛門を持つ被験者が便の漏れを検知し、適切なタイミングでストーマ袋を取り出せるよう、それらを評価するシステムを開発することです。この目的を達成するためには、まず、カラー/デプスカメラで患者のストーマを撮影し、計測する必要がある。本研究では、大きさの異なる3つの実ストーマモデルをD435と3Dスキャナーで360°回転・角度調整しながら撮影し、点群マッチングにより評価した。その結果、3cmの仮想ストーマ点群は対象物として捉えることができたが、9cmの仮想ストーマ点群では距離誤差が大きく、マッチング率も高かった。したがって、D435は対象物が大きい方が最適に捕捉できることがわかる。さらに、極座標表現のヒストグラムを見ると、3cmの仮想ストーマと9cmの仮想ストーマの形状が一致していることが分かった。このことは、実際のストーマの形状を計測できる可能性があることを示している。 共著者：溝口みちる、榎木方俊、吉川知輝、朝野美穂、大西克彦、登尾啓史
2. THE NEED FOR OSTOMATES TO CONTINUE LEISURE ACTIVITIES AND FACTORS INFLUENCING LEISURE ACTIVITIES	共著	令和4年4月	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference, 2022, Taiwan.	大腸や膀胱の疾患により排泄経路の変更をしたオストメイトは、日常生活の不安に留まり、余暇活動を継続できていない可能性がある。本研究の目的は、余暇活動を継続する必要性と余暇活動への影響要因について明らかにすることである。ストーマ造設経過年数5群と現在の生活満足度との間に有意差があり、「3年未満」と「20年以上」との間が有意であった。JHLC尺度は、自分以外の「外的統制」よりも、健康や病気の原因を自分自身の行為による「内的統制」が高かった。余暇活動の継続は、配偶者同居の存在が関連していた。ストーマ造設3年未満の対象者は、現在の生活に満足していないと推察され、要因を明らかにする必要がある。余暇活動を継続するためには配偶者の存在が関連しているが、対象者に未婚者もいることから家族や関連する周囲の人々にも伝えていく必要がある。 共著者：溝口みちる、中馬成子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Comparison of the Accuracy of Pouch Replacement Timing Decisions Using Image Generation Artificial Intelligence and Machine Learning	共著	令和5年7月	25RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION,2023,Copenhagen, Denmark .	この研究では、非接触型ストーマ保有者の便漏れを検出するために、ストーマからパウチを外すタイミングを決定するシステムを開発した。2020年1月頃、世界中で新たな冠動脈アアウトブレイクが発生し、病院や介護施設が多くのストーマ保有者からデータを収集することが困難となった。病院や介護施設で多くのストーマ保有者からデータを収集することは一般的に困難であった。そこで、より多くの画像を含む人工知能（AI）画像生成を用いて、十分なトレーニングデータと正しいデータを取得した。そして、これらの訓練データを用いて、パウチを交換する適切なタイムを決定した。最後に、マイクロソフトのローブ機械学習とグーグルのティーチャブル機械学習モデリングツールの2つの学習アルゴリズムを用いて、判定の精度を比較した。その結果、2つの学習アルゴリズムにおける正しい判断の割合は、面板装着初日から約3日後までは100%であったが、交換日の1日前から3日前までは40%から87.5%と低い傾向にあった。また、Googleのティーチャブル機械学習モデリングツールは、マイクロソフトのローブ機械学習モデリングツールよりも精度が低かった。 共著者：溝口みちる、渡辺 駿、中原匡哉、登尾啓史
4. System to Check Organs, Malignant Tumors, Blood Vessel Groups, and Scalpel Paths in DICOM with a 3D Stereo Immersive Sensory HMD	共著	令和5年7月	25RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION,2023,Copenhagen, Denmark .	本研究では、MRIやCTなどの異なるDICOM[1]ボリュームの融合表示を生成し、セグメンテーションを必要とせず、閾値レベルの調整のみで、頭蓋に穴を開け、その中を覗くことを体験し、仮想的に操作できる手術シミュレータを提案する。我々は以前、DICOMを3Dボリュームとして利用し、悪性腫瘍から臓器表面までの切断経路を血管群を避けて探索するアルゴリズムを提案した。そこで本研究では、このアルゴリズムにDICOMを直接利用する手術シミュレータを開発した。このシミュレータは、没入型ヘッドマウントディスプレイMeta Quest 2 HMD [11]のジェスチャー機能を用いて、DICOMの3Dボリュームを自由に操作し、視点や視線を変更することができる。キーボード、マウス、2Dモニターで見る手術計画とは全く異なる、実世界でDICOMを見ることができるシステムである。今回の研究は、DX Medicineに掲載された別の研究ともリンクしており、ストーマにパウチを装着する手技が、上記のハンドジェスチャーを使って行われた。その研究では、自分のストーマのVRモデルを使い、何度でも遠隔練習ができるように試みている。その前段階として、ローカルネットワーク上で複数の参加者がシステムを利用できるようにした。最終的には、複数の医師や看護師が術前カンファレンスやケアトレーニングで協力し、精度の高い手術やフィッティングを計画できるよう、このモデルを構築している。 共著者：国居豊浩、渡辺郁、溝口みちる、登尾啓史
(国内学会演者)				
特別企画交流集会Ⅲ		令和3年 7 月	第27回日本看護診断学会学術大会	看護診断に基づく口腔ケアに関する現状と今後の展望について、看護基礎教育における学生、そして臨床における看護師の口腔ケアアセスメント力（看護診断能力）、口腔ケア実践能力の現状を、そこに潜む課題を発表し、現状の課題を踏まえ看護における口腔ケアの今後の展望について、看護基礎教育の立場と臨床の立場から意見交換を行った。

著書、学術論文等の名称 (国内学会発表)	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1. テキストマイニングを用いた災害看護における教育に関する研究の動向と課題	共著	平成31年3月	第32回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	国内における災害看護の教育に関する研究の動向と課題を明らかにするために、KHCoderを用いて論文のタイトルを分析した。クラスター分析、共起関係ネットワーク分類の結果、臨床や教育現場で多角的な分類より、盛んに研究が取り組まれている現状が明らかとなった。 共著者：溝口みちる、松浦純平
2. テキストマイニングを用いた精神看護学実習における学生の学びの分析	共著	平成31年3月	第32回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	看護学生が精神障害者に実際に関わり、対人関係のプロセスを通して、どのような「学び」があったのか、その特徴を明らかにすることで今後のより良い実習の提供や教育内容の示唆を得ることを目的とした。「考える」「感じる」「関わる」といった情意・精神・運動領域に関する記述が多くあり、学生は受け持ち患者の関わりを通して精神障害者の「生きにくさ」を理解していた。 共著者：山崎陸世、溝口みちる、井上葉子
3. テキストマイニングを用いた看護過程に関する研究の特徴	共著	令和元年9月	日本看護技術学会 第18回学術集会	看護のプロセスを考える看護過程が、学生は困難と感じている現状があり、看護過程に関する研究の特徴を明らかにすることを目的とした。看護過程の展開と演習との結びつきのある研究が示唆され、学生および臨床は、成人の実習において看護過程を展開するうえで困難を抱えていることが明らかとなった。共著者：溝口みちる、松浦純平
4. Trends and issues of research on disaster nursing education overseas using text mining	共著	令和3年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	海外における災害看護教育に関する研究の動向と課題を明らかにすることで、テキストマイニングを用いて分析を行った。海外では、あらゆる災害を想定した訓練を行っている。災害看護は多職種協働のもと、教育プログラムの開発を進めていくことが示唆された。共著者：溝口みちる、松浦純平
5. Analysis of nursing research on CPR in gender: a 10-year study in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界のCPR実施時の性に関する研究の分析と課題を明らかにすることで、テキストマイニングを用いて分析を行った。階層的クラスターの結果から、学生のCPR教育の中で性差に囚われず、確実なCPRの実施、振り返り、実施後の報告会が重要であることが明らかとなった。共著者：松浦純平、溝口みちる、小林由里、田場真理、守本とも子
6. Analysis and problem of research on dialysis nursing at disaster time in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界の災害時における透析看護に関する研究の分析と課題をテキストマイニングで分析した。その結果、素早い対応ができるプログラムの開発と医療職種チームが連携することが重要である。また、病院の医療職チームが実際に行動（アクション）を起こすこと、透析患者の健康を優先的に考えることが重要である。地域により地震やハリケーンなどの多様な災害があるため、今後も多種多様な研究の増加が望まれる。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、小林由里、守本とも子
7. A systematic review of research on postoperative delirium onset prevention from the viewpoint of circadian rhythm in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界における先行研究よりサーカディアンリズムとせん妄発症の関連からせん妄発症予防について分析し、現状を明らかにすることである。メラトニン産生がサーカディアンリズムを調節し、術後せん妄発症予防の可能性が示された。今後は症例研究の無作為ランダム試験の研究が進むことが期待される。共著者：松浦純平、小林由里、田場真理、溝口みちる、守本とも子
8. 看護におけるAI（人工知能）に関する研究の現状－テキストマイニングを用いた分析－	共著	令和2年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会（滋賀）	医療分野の中でも看護におけるAIに関する研究の現状と展望を明らかにすることを目的に、「人工知能」「看護」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。結果、介護支援採用ロボットスーツHALや手術支援ロボットda Vinciなどロボットに関する研究とその効果について取り組んでいた。看護実践への取り組み、効果の検証も必要である。共著者：松浦純平、溝口みちる、田場真理、上野栄一
9. 看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴－テキストマイニングによる分析から－	共著	令和2年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会（滋賀）	過去の看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴を明らかにすることを目的に、「看護師」「看護管理」「コンピテンシー」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。結果、看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究は人材育成、能力評価、支援・指導体制、キャリア開発、臨床実践能力など特徴があった。共著者：上野栄一、松浦純平、溝口みちる、田場真理、杉島優子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
10. オストメイトの考える余暇活動に関する希望について - テキストマイニングを用いた分析に焦点を当てて -	共著	令和2年8月	日本看護研究学会第46回学術集会（札幌）	オストメイトのストーマ造設後の余暇活動に関する希望を明らかにすることを目的に、質問紙調査を行い、自由記述のあった252名の余暇活動を分析対象とし、テキストマイニングで分析した。KWICコンコーダンスでは、「思い」の前後の文脈に注目したところ、外出するという行動から現状維持までの前向きな希望が明らかとなった。対象者が介護世代でもあり一部では介護が外出の阻害要因となっていた。階層的クラスター分析、共起ネットワーク分類で活動を拡大したいという希望が抽出され、現状に留まっていたくないという思いと社会に出て余暇活動をとoshie、生活を楽しみたいという思いが明確になった。看護職者によるオストメイトに対する情緒的および手技的サポートの必要性が示唆された。共著者：溝口みちる、松浦純平、中馬成子
11. せん妄とPICSに関する研究動向の分析	共著	令和2年8月	日本看護研究学会第46回学術集会（札幌）	せん妄とPICSに関する研究の動向について、今後のせん妄看護を検討することを目的に、「せん妄」、「PICS」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。PICSの概念は、ICU入室中からの理学療法士や作業療法士などの多職種が連携した介入で、品詞別の結果では看護師以外の医療職種は該当なかった。共起関係ネットワーク分類の結果より、現在は主に看護師の介入と効果の検証とICUと患者が多い結果であり、看護師と共に理学療法士や作業療法士などの多職種が連携して介入することによりPICSの予防策の一助につながると考える。共著者：松浦純平、溝口みちる、植木奈美枝、上野栄一
12. テキストマイニングを用いた青年期・壮年期におけるオストメイトの余暇活動に関する希望	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、青年期・壮年期におけるオストメイトの余暇活動に関する希望を明らかにすることである。日本オストミー協会A支部会員の1470名のうち、有効回答が得られた509名から60歳未満の42名のうち、自由記述のあった22名を分析対象とした。計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。その結果、「役に立ちたいと思う自分」「ストーマ造設後の活動」などのカテゴリーに分類され、「スポーツ」と「ストーマ」、また「自分」を中心に「役に立つ」、「人」、「思う」、「生活」との間に強い相関がみられた。体力維持や活動を活発に行いたいという気持ちに、思いとどめてしまっていると考えられ、セルフヘルプ・グループの活動を通して、ストーマを造設した自身の存在を主張し、共通の悩みを持つものと協働すること、さらに余暇活動への希望が膨らむのではないかと考える。共著者：溝口みちる、松浦純平
13. テキストマイニングを用いた看護系大学生が考えるCPR実施上の困難感（第一報）	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、看護系大学生が考える一次救命処置実施上の困難感を明らかにして、今後の教育に示唆を得ることである。A看護系大学1～4年生320名に質問紙調査を実施した。有効回答者53名の自由記述を分析対象とし、自由記述について計量テキスト分析ソフトKH Coderにて分析した。CPRで大事なことは確実な手技のもと胸骨圧迫の継続である。結果より実施阻害要因の1つとして不安が明らかになった。不安の内容は確実な胸骨圧迫の実施ができるかと周囲の目がある中でCPRの2つの不安が明らかになった。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
14. テキストマイニングによる看護系大学生が考えるCPR実施を阻害する理由（第2報） 一要因の具体的内容	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、看護系大学生が考えるCPR実施を阻害する要因の具体的内容を明らかにし、今後の教育への示唆を得ることである。A看護系大学1～4年生320名へ質問紙調査を実施し、有効回答が得られた53名の自由記述を分析対象とし、自由記述内容を計量テキスト分析ソフトKHCoderにて分析した。CPRでは無理して人工呼吸を実施するよりも確実な胸骨圧迫の継続、優先順位を考慮した正しい知識の提供と実施への自信のための繰り返し演習が重要である。衣服の完全脱衣ではなく衣服の下からのパッド貼付などを普段から想定した教育・演習が必要である。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
15. テキストマイニングによるICUにおける術後せん妄に関する研究の現状と展望	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	研究の目的は、ICUにおける術後せん妄に関する研究の現状と展望を明らかにすることである。検索データベースは医学中央雑誌Web版を使用した。キーワード検索は術後せん妄、ICUとした。絞り込み条件は原著論文、看護文献とした（2020.4.7現在）。検索の結果、得られたICUと術後せん妄に関する論文39編を抽出し、研究目的を分析対象とし、計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。患者の思いを実際に語ってもらい聞き取るなどの患者側の視点からの研究（2編）の5つの側面からの研究に取り組まれていることが明らかになった。今後の展望はICUにおけるせん妄看護の統一ガイドライン策定の必要性があると考えられる。共著者：溝口みちる、松浦純平、田場真理

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
16. A看護系大学生のCPR（心肺蘇生法）教育に関する意識調査	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	研究の目的は、看護系大学生のCPR教育に関する意識の実態を明らかにすることである。A看護系大学1～4年生356名に質問紙調査を実施し、回収数53名（14.9%）、有効回答数51名（14.3%）。BLS受講の有無は45名。BLS受講回数は1回17名（33.3%）、2回18名（35.2%）、3回5名（9.8%）、4回11名（22%）であった。SPSS Ver. 26を使用しTukey法による多重比較検定を行った結果、BLS実施の自信について学年比較した結果、1年と3年、1年と4年の2群間について有意差（ $p<.005$ ）がみられた。学年間で群間比較した結果、有意差はみられなかった。BLS講義・演習を受講済であるため学生はやればできるという自信につながっているのではないかと推察する。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
17. オンライン上グループワーク型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	オンライン上グループワーク（以下、GWとする）型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的とした。A看護系大学3年次生88名を対象に「ZOOM」のブレイクアウトセッション機能を用いて周術期看護に関するGW型授業を28時間実施後、授業に関する質問紙調査を行った。分析では記述統計により各変数の分布について確認した後、GWにおける態度を従属変数、通信状況以外を独立変数とし重回帰分析を行った（VIF：1.000～1.074）。その結果、分析では記述統計により各変数の分布について確認した後、GWにおける態度を従属変数、通信状況以外を独立変数とし重回帰分析を行った（VIF：1.000～1.074）。看護学生がオンライン上GW型授業においてスキルを発揮したり、やりがいある態度で参加するためには、安心して自分の考えを発言できるような心理的に安全な環境と、GWに備えた事前学習が必要であることが考えられた。共著者：田場真理、松浦純平、溝口みちる
18. 看護過程におけるアセスメントに関する研究	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	研究の目的は、看護過程におけるアセスメント能力に関する研究の特徴を明らかにすることである。医学中央雑誌Webを用いて「看護」「アセスメント能力」をキーワードとして、315件の論文を対象とした。共起分析では「看護とアセスメントと能力」「今後と課題」などがグループ形成した。対応分析では「学生と実習と指導」「支援と活動」などの特徴が示された。アセスメントのコーレスン解析では「アセスメント能力」「アセスメントシートの活用」「アセスメント能力の概念」「アセスメントの方法」「症状別アセスメント」「焦点を当てたアセスメント」「EBMに基づいたアセスメント」の7つのカテゴリーが生成された。今後は、指定規則の改変による臨床判断が求められる。また、病院から在宅への医療体制が進む中、在宅、地域を包括したアセスメント能力が求められる。アセスメント能力は、正確な看護診断をするために必要な能力であり、今後の学校教育や臨床での能力向上に向けた取り組みが必要と考える。共著者：上野栄一、松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子
19. クリニカルパスに対する看護師の認識	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会 学術大会	DPCの導入に伴い、効率的で質の高い医療を目指すために標準診療計画としてクリニカルパスが活用され、看護過程をクリニカルパスで展開することが多くなった。研究の目的は、看護師がクリニカルパスをどのように認識しているかを明らかにすることである。計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。クリニカルパスの現状としては、外科的な手術に活用され術前術後のクリニカルパスの効果や見直しなどの検証が行われていることが示唆された。またクリニカルパスの活用は、外科的な手術以外の診療分野でも活用が広がりつつあることが明らかになった。看護師にとってクリニカルパスは、作成や機能に関する部分のみで、項目の模索や活用できるための認識に留まっているのではないかと考える。在院日数短縮化がさらに広まるなか、標準診療計画としてのクリニカルパスは有用であると考えられる。今後はより質の高いクリニカルパスを活用できるのか検討する必要がある。また、新人看護師がどのようなアセスメントを踏まえたうえでクリニカルパスを活用し、対象の個性に応じた看護の実行と評価につなげているのかということを明確にする必要があると考える。共著者：溝口みちる、松浦純平、田場真理、上野栄一
20. 舌亜全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会 学術大会	舌亜全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素を明らかにし、看護支援の方向性について示唆を得ることを目的とする。半構造化面接を実施、逐語録を作成し、「治療後の生活の中での困難な体験をどのように乗り越えてきたか」について具体的に語られた部分を抽出、コード化しサブカテゴリー化、カテゴリー化した。亜全摘を受けた患者のレジリエンスを高めるための看護支援としては、患者が舌癌も舌癌になった自分も受け入れられるよう心身の回復段階を見極めながら患者のよき理解者となること、そして患者から信頼を得られるよう関わることを求められる。また、医療者のサポートはもちろん、家族等ソーシャルサポートの調整をすること、さらに患者が障害・後遺症改善向け模索・実践を継続できるよう自己効力感を高める関わりを行うことも求められる。共著者：田場真理、松浦純平、溝口みちる、守本とも子

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
21. 看護過程の観点から考えるせん妄への介入研究の特徴	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会学術大会	研究の目的は、看護過程の観点からせん妄発症介入研究に関する特徴を明らかにすることである。分析ソフトKH Coderを使用し、テキストマイニング法にて分析した。せん妄発症介入研究に関する看護過程の特徴は、成人期における術後せん妄発症に対する予防介入やCOVID-19とせん妄を同時に発症した患者への看護、認知症看護の視点から看護過程のプロセスをふまえた介入研究が多いことが明らかになった。共著者：松浦順平，溝口みちる，田場真理，松村あゆみ，上野栄一
22. ストーマ撮影時のiPhone12 ProMaxとD435の空間分解能の比較評価	共著	令和4年3月	情報処理学会第84回全国大会	iPhone12 ProMaxとD435が搭載の深度センサで人工ストーマを撮影し、その形状精度の評価実験を行った。すなわち、dToF方式のLiDARとIR投射の深度センサの形状精度の評価実験を行った。3cm、6cm、9cmの人工ストーマをコンピュータで操作が可能な回転台に設置し、それらの真上に位置するようにカメラを設置する。取得した点群データをCloud Compare内で点群マッチングし、精度評価を行った。結果としてはD435の方がより少ない誤差許容距離で精度が高いものとなった。共著者：吉川知輝，登尾啓史，溝口みちる，榎木方俊，朝野美穂

教 育 研 究 業 績 書		
2024年 5月 7日		
氏名 村川 園美		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
小児看護学	先天性心疾患 小児集中治療	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
基礎演習Ⅰラーニングスキルズ	2023年～現在	1年生が大学での学習を進めるうえで必要となる基礎的な知識を学ぶことを目標に、ゼミ形式で授業を行っている。1年生8名を担当し、授業を行った。
小児看護学援助論	2023年～現在	2年生を対象に小児看護学援助論の授業を行った。「手術を受ける子どもと家族への看護」「痛みに対する子どもと家族への看護」に関する講義を行い、実際の臨床現場の写真を見せながら授業を行い、学生たちが周術期の子どもの様子をイメージできるよう工夫した。
小児看護学援助論演習 小児看護学実習	2023年～現在	3年生を対象に小児看護学援助論演習と小児看護学実習指導を行った。小児看護学援助論演習では、「子どもの視野体験」「子どもの心肺蘇生」に関する演習を実施した。また、看護過程に関するグループワークの指導を行った。小児看護学実習では各学生が子どもを受け持つことができるよう臨床指導者と調整し、看護過程が展開できるよう指導した。
統合看護実習 卒業研究Ⅱ	2023年～現在	4年生を対象に指導を行った。学生がテーマを設定し、各自で文献検討・調査を行い、言語化できるよう指導した。
育成看護学概論Ⅳ	2023年	大学院生を対象に行われている授業の中で、大学院生が持ち寄った事例に対して家族看護の視点から分析しディスカッションを行った。
2 作成した教科書、教材		
特記すべき事項なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
特記すべき事項なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
（1）看護倫理に関する院内研修の担当	2020年4月 ～2023年3月	自施設に在籍する専門看護師4名とともに、院内の看護師が倫理的意思決定力を身に付けられるよう、プロセスモデルとして提唱されている倫理的感受性・倫理的推論・態度表明・実現をラダーレベルに応じて系統的に展開した。
（2）子どもの権利擁護、意思決定支援に関する院内研修担当	2020年4月 ～2023年3月	自施設の看護師を対象に行われている意思決定支援の研修の中で、「子どもの権利擁護・意思決定支援」の講義を担当した。また、小児関連病棟での意思決定支援の助言を行った。
（3）大阪府病院協会主催、看護職員実務者研修（循環器総合コース）の講義担当	2022年2月21日 2022年10月5日	依頼を受け、看護職員として5年以上業務に従事している者を対象に、循環器疾患に対する基礎知識及び看護を学び、各所属施設の看護の質の向上につなげる目的で開催された研修の「小児循環器疾患の看護」の講義を担当した。

(4) 国立循環器病研究センター主催、小児循環器看護研修「こどもの心臓病と看護について学ぼう」の講義・ファシリテート担当		2022年8月11日	依頼を受け、院外看護師を対象に、地域で生活する小児循環器疾患患者の生活を支える看護職が必要な基本的知識を獲得し、看護の質を向上させることにより、患者の QOL が高まることにつなげる目的で開催された研修の「心内修復術を終えていない子どもの観察ポイント」の講義、グループワークのファシリテートを担当した。	
(5) 姫路医療センター附属看護学校にて小児援助論の授業を担当		2022年10月～12月	依頼を受け、姫路医療センター附属看護専門学校2年生48名の小児看護援助論8コマ分を担当し講義・演習を実施した。担当内容は「小児の成長発達及び全身状態を観察するための看護技術」「検査や処置を受ける子どもと家族への看護技術」「安全安楽を保持する看護技術」についてであった。	
5 その他				
特記すべき事項なし				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格、免許 看護師免許 小児看護専門看護師資格 ACTすこやか子育て講座ファシリテーター資格		4月5日 11月23日 3月10日	登録番号：1576232号 登録番号：3141号 登録番号：02601	
2 特許等				
特記すべき事項なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
特記すべき事項なし				
4 その他				
第57回日本小児循環器学学術集会指定討論者		2021年7月9日～7月11日	依頼を受け、オンラインで行われた日本小児循環器学会学術集会の口述発表の指定討論者を担当した。	
広報部会		2023年4月～現在	広報部会委員として、オープンキャンパスの企画運営等を行った。	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) (1) これでわかる！心臓病の子どもの看護のきほん	共著	2023年4月	雑誌：小児看護 第46巻4号 発行：株式会社へるす出版	心臓病の子どもにおける看護の理解に必要な視点が全126ページにまとめられている書籍の「動脈管依存性心疾患の新生児；術前の看護」(pp450-453)を執筆した。 共著者：宗村弥生（編集）その他15名

(学術論文) (1) 集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相 (修士論文)	共著	2021年	日本小児看護学会誌第30巻	集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相を明らかにすることを目的に看護師11名に半構造化面接を行い質的帰納的に分析した。看護師が子どもの現在の一時的な状況から感覚的に察知した〔看護師の感覚によりとらえた子どもの様相〕、看護師の判断軸からの変化により察知した〔子どもとのかかわりやケアの中でとらえた子どもの様相〕、ほかの看護師や家族からの指摘・情報から察知した〔他者からの指摘・情報を手がかりにとらえた子どもの様相〕の3大カテゴリーを抽出した。 共著者：◎西宮園美 檜木野裕美
(その他) —学会発表— (1) 小児科病棟におけるベッド選択のためのチャートの検討	共同	2014年	愛媛大学医学部附属病院看護部研究発表会	小児科病棟における「ベッド選択のためのチャート」を作成し、問題点や修正点について検討し、口述発表した。 共同発表者：遠藤洋二 武智美枝 片岡舞子 ◎西宮園美
(2) 集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相	単独	2020年	日本小児看護学会第30回学術集会	上記学術論文を口述発表した。
(3) COVID-19による面会制限下における先天性心疾患姑息術後患児の家族への退院指導に関する一事例	共同	2021年	第57回日本小児循環器学会学術集会	COVID-19による面会制限の中、限られた時間で退院指導を行った。その事例を振り返り、退院のための看護師の親への関わりに着目し、口述発表した。 共同発表者：◎西宮園美 濱野恵理 西川由花 前川由紀子
(4) PICUに長期入院している乳児の発達を促すケアに関する一考察	単独	2022年	日本小児看護学会第32回学術集会	PICUに長期入院となり発達が遅れている乳児に対し、発達を考えたケアを行った。その事例を振り返り、発達を促すための児のケア、親への関わり、他職種の支援に着目し、乳児の発達を促すケアの視点で分析を行い、口述発表した。
(5) 面会の少ない父親に対する退院支援	共同	2023年	第13回 NCVC看護研究学会	先天性心疾患姑息術後の子どもが在宅療養へ移行するにあたり、父親へも退院支援を行う必要があるが、NICUには面会に制限があり、父親は子どもとの直接的な関わりが限られている。そのような父親に対して退院支援を行った事例を振り返り、院内研究発表会にて口述発表した。 共同発表者：田中優美 ◎西宮園美 山下知穂
(6) 医療ケアが必要な子どもの家族への退院指導について	共同	2023年	第13回 NCVC看護研究学会	医療的ケアが必要な先天性心疾患姑息術後の子どもが、在宅で安全に生活できるよう家族へ退院指導を行った。両親以外の支援者がおらず、同胞の世話を行いながら両親が疲弊することなく過ごせるよう児のケア時間を検討したり、限られた時間で手技が習得できるよう関わった事例を振り返り、院内研究発表会にて口述発表した。 共同発表者：安部由里子 ◎西宮園美 山下知穂

教 育 研 究 業 績 書		
2024年 4月 30日		
氏名 森本早紀		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
医療人類学	保健医療・実践・感覚・臨床看護	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 事例を用いた学習。ロールプレイの活用を採り入れた授業設定【成人看護学講座】	2019年1月から 2020年3月	梅花女子大学 専門科目 急性期看護援助論 3学年（通年・必修）3単位80名 成人看護学実習Ⅰ（急性期）を担当し、手術療法によって生じる生体機能の変化と生活の変化を理解し、問題解決に向けたアプローチ方法を学ぶことを目的とした。実習と関連付けられた本科目では、事例展開を通して根拠をもった看護過程の展開について学習を進めた。学生は作成した看護問題と解決策のシナリオをもとに、根拠に基づく理解をさらに深められるよう、学生の主体的な行動を引き出す目的でアドバイザーとしての配慮を行った。
ロールプレイを採り入れた看護技術演習【基礎看護学講座】	2022年4月から 現在	奈良学園大学 専門科目 基礎看護学技術演習Ⅱ 2学年（前期・必修）2単位88名と1学年看護技術の基礎Ⅰ（後期・必修）2単位88名を担当した。基礎的な看護技術を身体の構造や科学的根拠に基づいて理解し、個別具体的な患者に即したアプローチ方法を学び実践できることを目的とした。学生が座学での学びと事前学習をもとに、主体的な行動と思考を獲得することを目的に指導を行っている。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
新人看護師に教育指導（大阪大学医学部附属病院）	2016年4月から 2018年3月	新人看護師の教育支援担当として、学習支援計画を立て、個別の状況に応じた支援を行った。
記録委員（大阪大学医学部附属病院）	2018年4月から 2019年3月	電子カルテシステムを活用した看護の質の向上を目的に所属部署の現任教育に取り組み、実践現場における教育支援を行った。
第10回 日本移植・再生医療看護学会学術集会運営委員	2014年11月	学会進行や関連な議論のためのサポートを行った。
5 その他		
日本WHO協会 「関西グローバルヘルスの集い」運営委員	2020年4月から 現在	関西グローバルヘルスの集いが主催するセミナーの運営を担い、機関紙『目で見えるWHO』の編集を担当している。
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許	2013年3月27日 2013年4月8日	第1666099号 看護師 第215339号 保健師
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項	2017年8月28日	大阪大学医学部附属病院 ACLSコース受講
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項		

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1「看護師の医療機器をめぐる聴覚に関わる実践の人類学的研究」 :	単著	2024年3月31日	年報人間科学第45号	聴覚をめぐる実践に注目し、看護師は臨床現場の各所から聞こえる医療機器の音をどのように聞き取り、実践を展開しているのかを明らかにした。
(その他) 学会発表 1「ワールドカフェ形式による双方向のオンラインイベント開催の試み」 2「看護師の聴覚をめぐる実践についての人類学的研究」 3「朝鮮学校における『保健室』に関する研究—設置・運営過程のコンフリクトに着目して— :	共著 単著 共著	2021年3月6日 2023年3月5日 2023年6月10日	日本国際保健医療学会第39回西日本地方学会 日本文化人類学会近畿地区研究懇談会2022年修士・博士論文発表会 異文化間教育学会第44回大会	オンラインセミナー開催の事例報告により、効果的な意見交換について検討を図り、関連な議論展開となるセミナープログラムについて多くの学びを深めた。 日本の看護師が臨床現場でどのように音を聞き取り、実践を展開しているのかを明らかにし、看護の対象とするものについて検討した。大阪大学人間科学研究科に提出した修士論文をもとに発表を行った。 日本の学校保健法が適応されない朝鮮学校の保健室設立と運営に関わるアクターのコンフリクトについて検討し発表した。